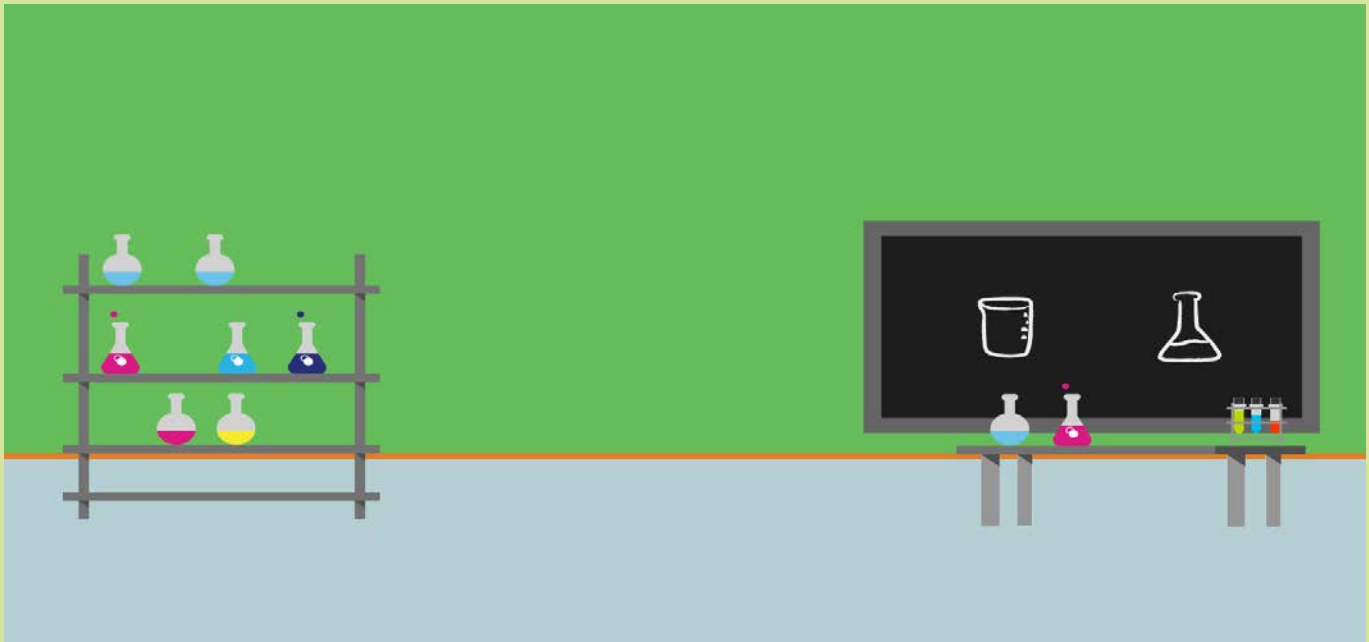




# 平成29年度（2017年度） 学生生活実態調査報告書・大学院生



佐賀大学学生委員会

平成30年3月

## ま え が き

佐賀大学は「面倒見の良い大学」を目指して、学生の修学、生活、経済、就職、留学及び課外活動などの支援を全学的におこなっています。平成 29 年度は、大学が学生の経済状況、生活状況等の学生生活の実態及び大学からの支援への要望等を把握し、学生を取り巻く環境の整備と学生生活支援の充実のための基礎資料を得ることを目的として、「学生生活実態調査」を実施しました。前回の調査は平成 19 年におこないましたので、10 年ぶりの実施でした。

佐賀大学には、学部学生、大学院生を合わせて、約 7,000 人の学生が在籍しています。そのうち最も多いのは福岡県出身の学生で全学生の約 40% を占めます。また、その約半数が自宅から通学しています。一方、佐賀県出身は約 30% で、過半数が自宅からの通学です。このように近年は自宅から通学出来る大学だからという理由で、本学への進学を決めた学生が増加している状況です。これまで大学での学習については、様々な形で調査がおこなわれていますが、学生の生活実態に関する全学的調査は、おこなわれて来ませんでした。今回の調査を実施するにあたり、学生委員会の中にワーキング・グループを設け、教員と学生生活課の職員が一体となって調査内容及び調査方法を検討しました。今回は、学生生活実態調査としては初めて紙のアンケート用紙では無く、ウェブ上のアンケートシステムを利用して実施されました。既に、毎学期の授業評価アンケートがウェブアンケートシステムを利用して実施されているため、回答する側の学生にとっては目新しいものでは無く、戸惑いは無かったようです。それでも、質問項目を精選するなど、回答しやすい形式を意識して実施しました。もちろん、自由記述形式で幅広い項目について、回答してもらいました。この報告書では、基礎的データの調査結果をグラフ形式で示し、また、自由記述回答は項目別に掲載しました。

本調査の結果を参考に、学生委員会は本学の今後の学生支援の在り方を検討したいと考えています。また、自由記述による学生の意見は、関係する部署により対応していき、学生の声に伝えることにしています。教職員の皆様におかれましては、本調査報告書に目をとおり、今後の教育、運営の参考にして頂ければ幸いです。最後になりましたが、本調査を実施してくださいましたワーキンググループメンバー及び学生生活課職員の皆様にお礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

学生委員会委員長 兒玉浩明

## 目 次

まえがき

調査の概要	1
I. 基本事項	2
II. 生活環境に関する事項	3
III. 生活に関する事項	5
IV. 健康に関する事項	6
V. 不安と悩みに関する事項	8
VI. 経済状況に関する事項	9
VII. アルバイトに関する事項	12
VIII. 授業料免除に関する事項	14
IX. 奨学金（貸与型）に関する事項	14
X. 学業に関する事項	15
XI. 進路に関する事項	19
XII. 本学図書館の利用に関する事項	20
XIII. ボランティア活動に関する事項	23
XIV. 海外渡航に関する事項	24
XV. ハラスメントに関する事項	25
XVI. 交通安全及び学内の治安等に関する事項	26
XVII. 大学の施設・設備などに関する事項	28
XVIII. その他	30
調査の組織	33
あとがき	

## 平成29(2017)年度学生生活実態調査・大学院生の概要

### 1. 調査の目的

学生生活実態調査は、大学が学生の経済状況、生活状況等の学生生活の実態及び大学からの支援の要望等を把握し、学生を取り巻く環境を整備するために支援・改善事項を計画・実行して、学生生活を質的に向上させるために行う。

### 2. 調査の対象

学部、大学院毎に在学学生全員を対象とする

### 3. 調査方法

WEB調査(「Office365ポータル」のアンケートシステム)により実施する

### 4. 調査期間

平成29年9月19日(火)～10月31日(火)、11月6日(月)～11月12日(日)

### 5. 回答状況

#### 【大学院】

研究科名	在学学生数	回答人数	回答率
教育学研究科	4	1	25.0%
学校教育学研究科	41	32	78.0%
地域デザイン研究科	40	26	65.0%
経済学研究科	2	0	0.0%
医学系研究科修士	51	71	37.4%
医学系研究科博士	139		
工学系研究科博士前期	400	216	45.4%
工学系研究科博士後期	76		
農学研究科	87	54	62.1%
連合大学院	20	2	10.0%
合計	860	402	46.7%

### 6. 調査内容

[調査票1](#)、[調査票2](#)

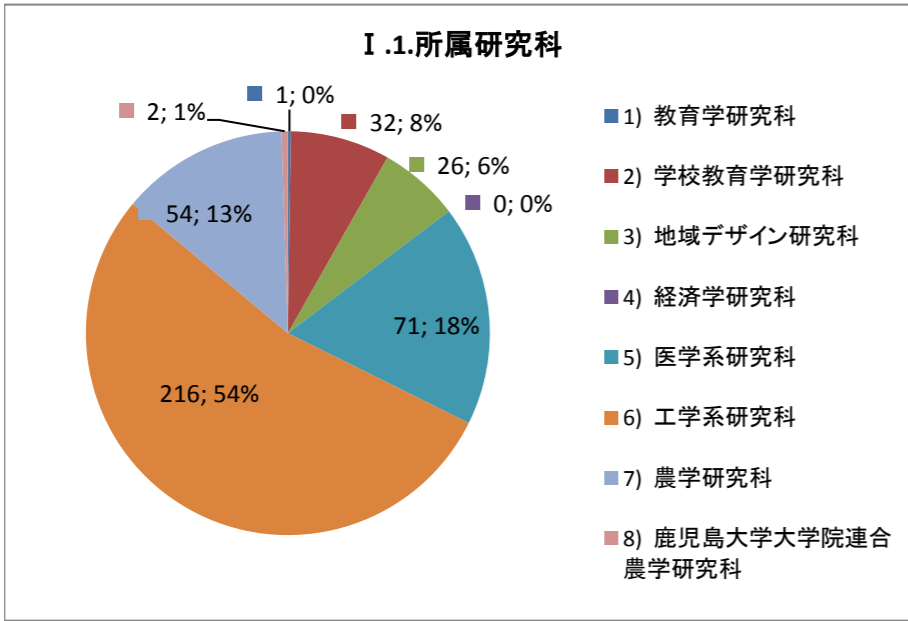
### 7. 個人情報の取り扱い

平成29年度に実施する佐賀大学学生生活実態調査(以下「実態調査」という。)において取得する個人情報について、適切な管理を行うために次のとおり定める。

[佐賀大学学生生活実態調査における個人情報の取り扱いについて](#)

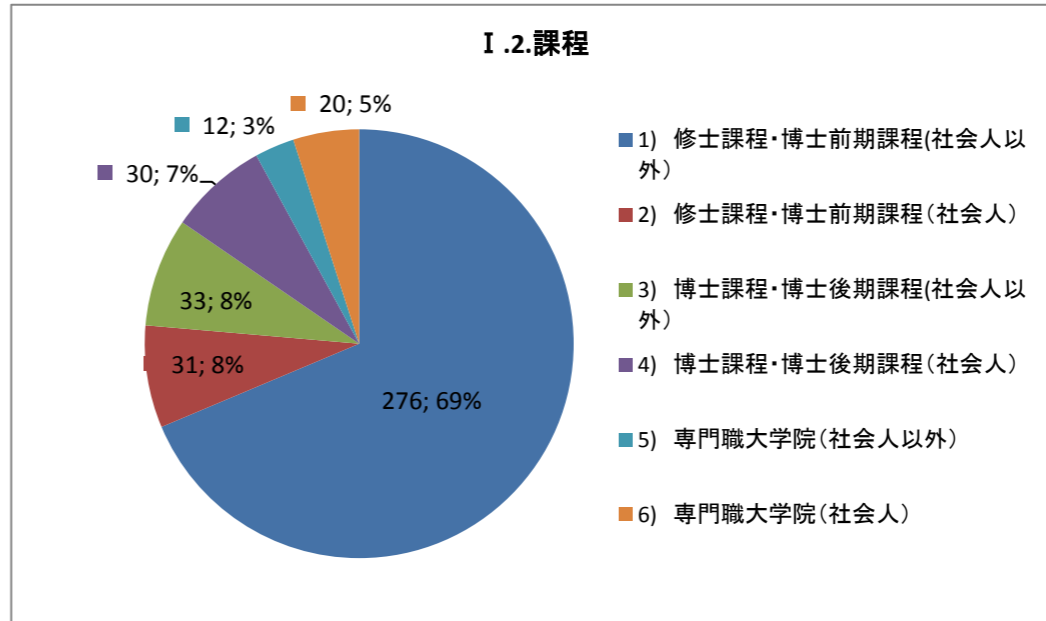
# I. 基本事項

## I.1.



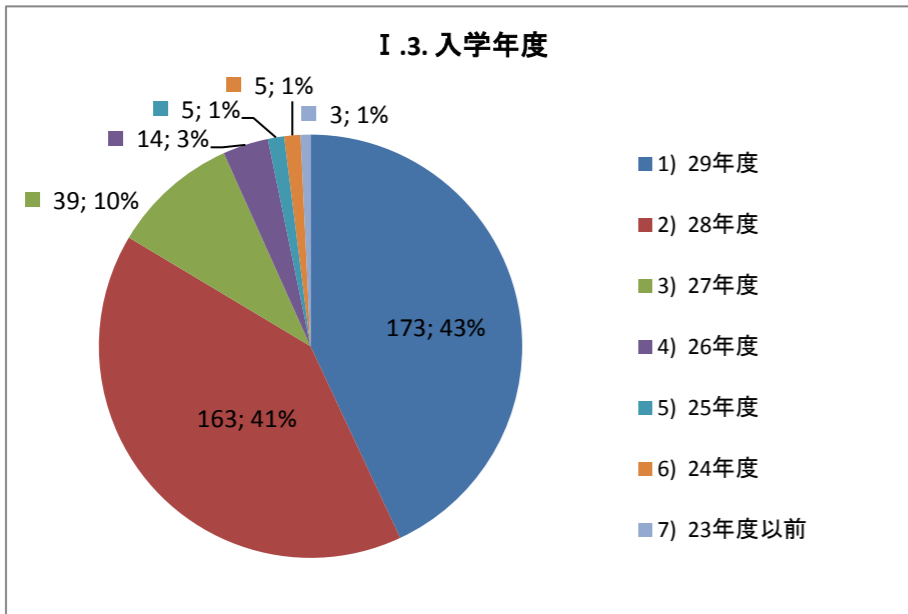
在籍者の割合でほぼ対応しているといえる。

## I.2.



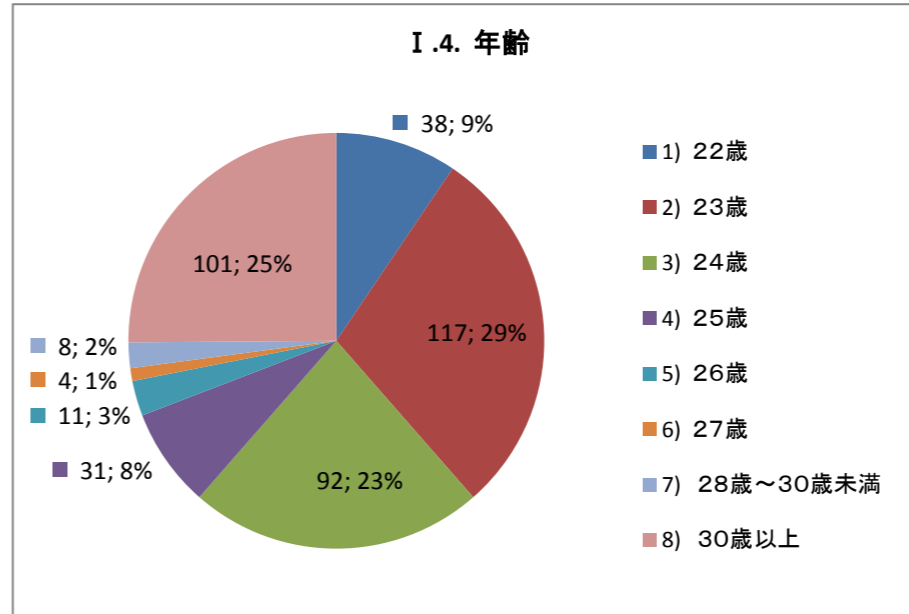
募集人数の割合でほぼ対応している。社会人の割合は少ない。

## I.3.



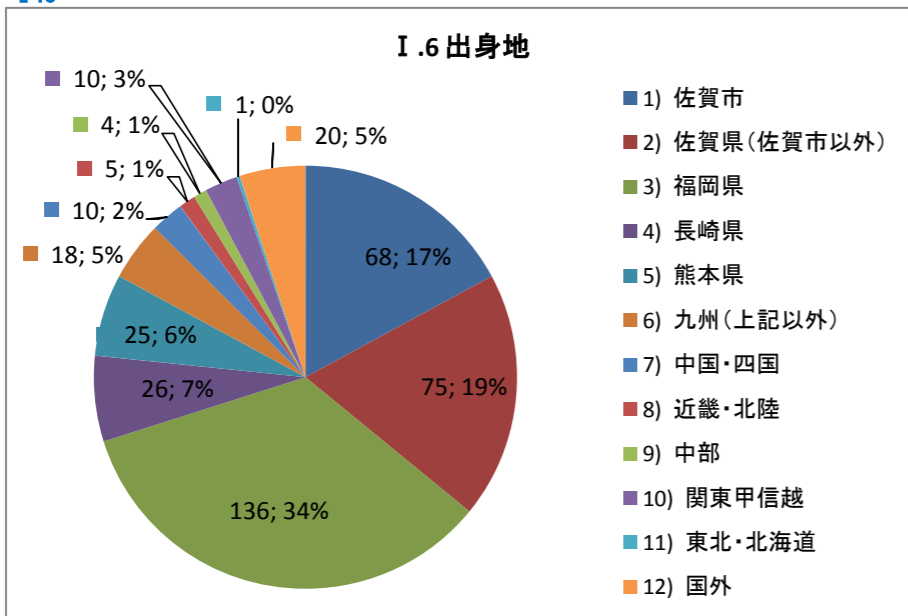
最近の学生(若者)の意識が反映できる調査結果と期待できる。

## I.4.



いわゆる 20歳台の学生だけでなく、社会人の視点も反映している調査結果と考える必要がある。

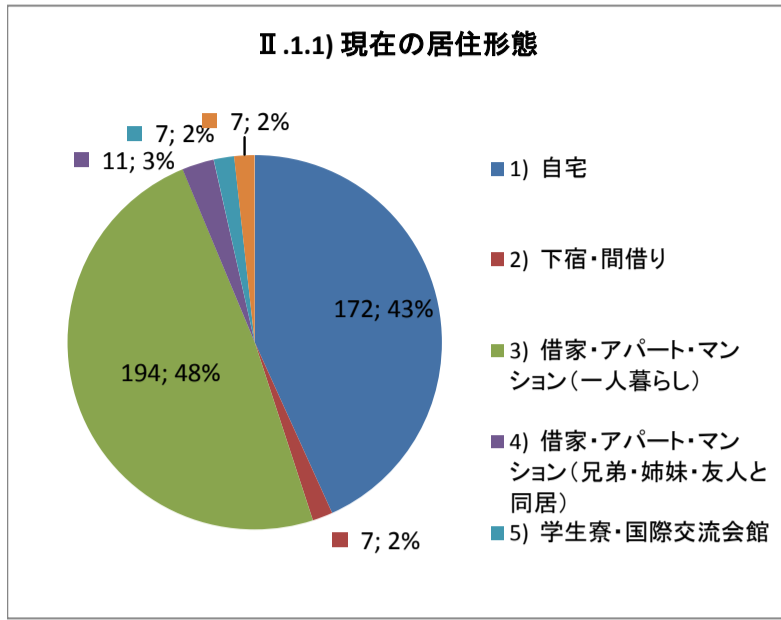
## I.6



佐賀県と福岡県を中心に北部～中部九州出身の学生が多い。

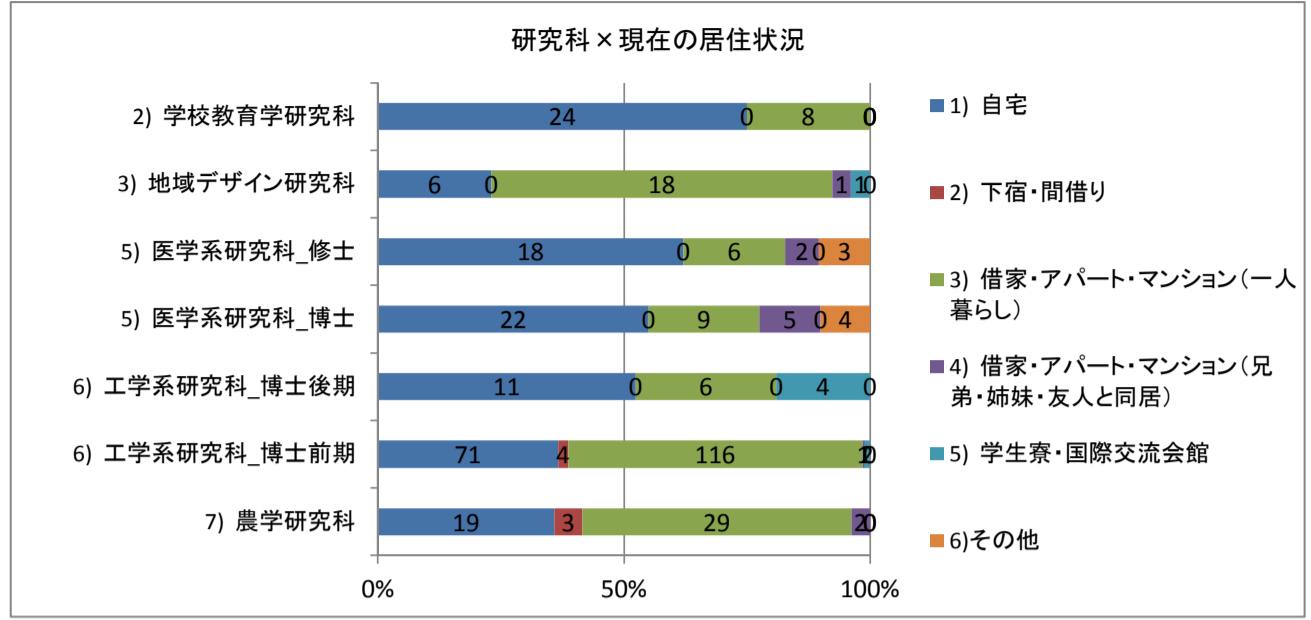
## II. 生活環境に関する事項

### II.1.1)



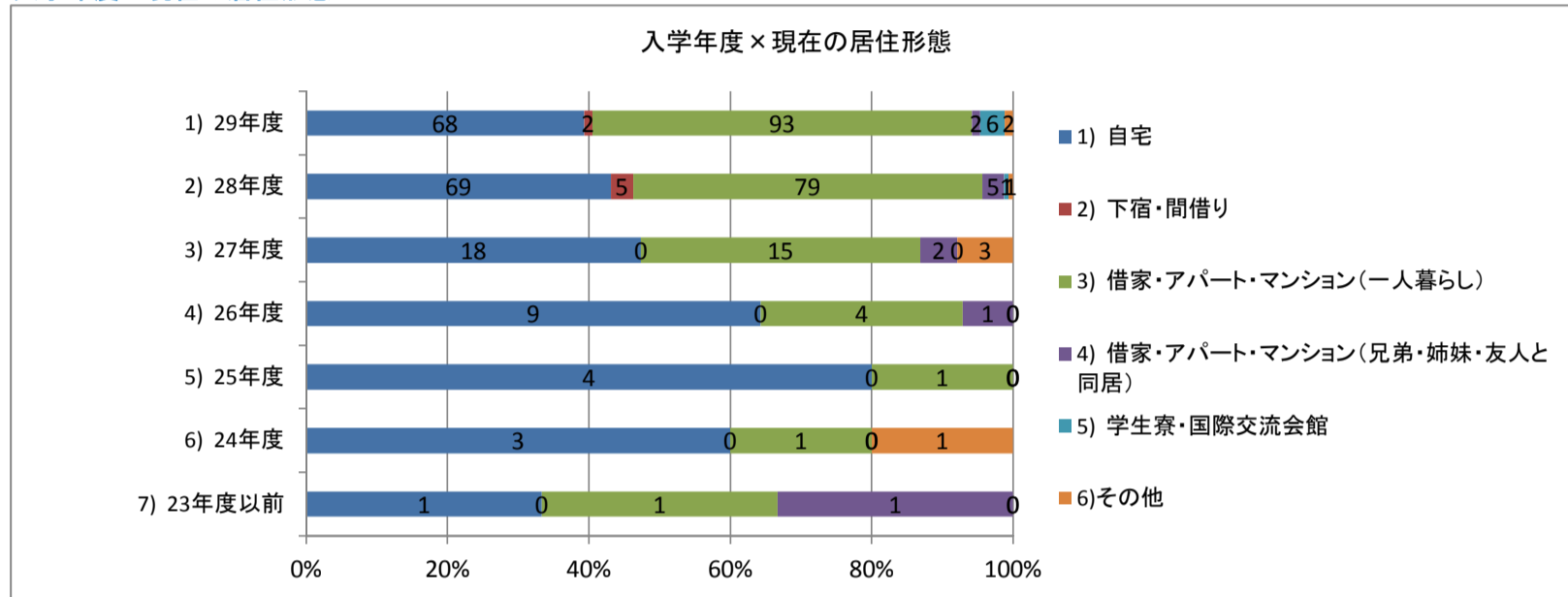
自宅生と借家がほぼ半数程度と言える。

### 研究科×現在の居住状況



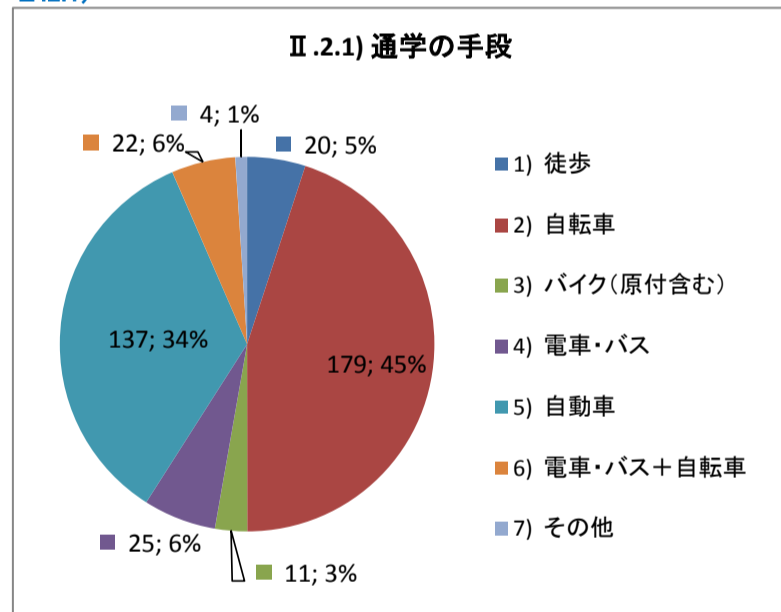
教育は地元、芸術は比較的広範囲から、という一般的な傾向が現れている。

### 入学年度×現在の居住形態



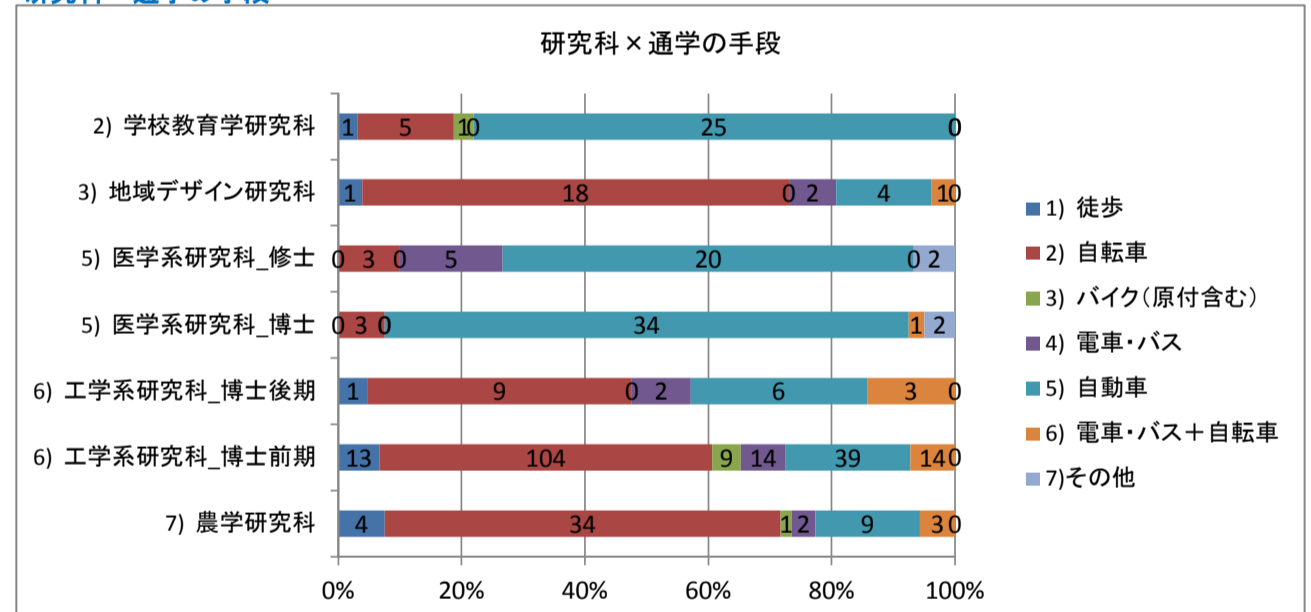
データ数の違いが大きく一概に言えないが、借家が多い。独立志向と自立の程度に留意する必要がある。

### II.2.1)



佐賀市中心部の移動は自転車が便利でほぼ半数。遠方通学もかなり多い？

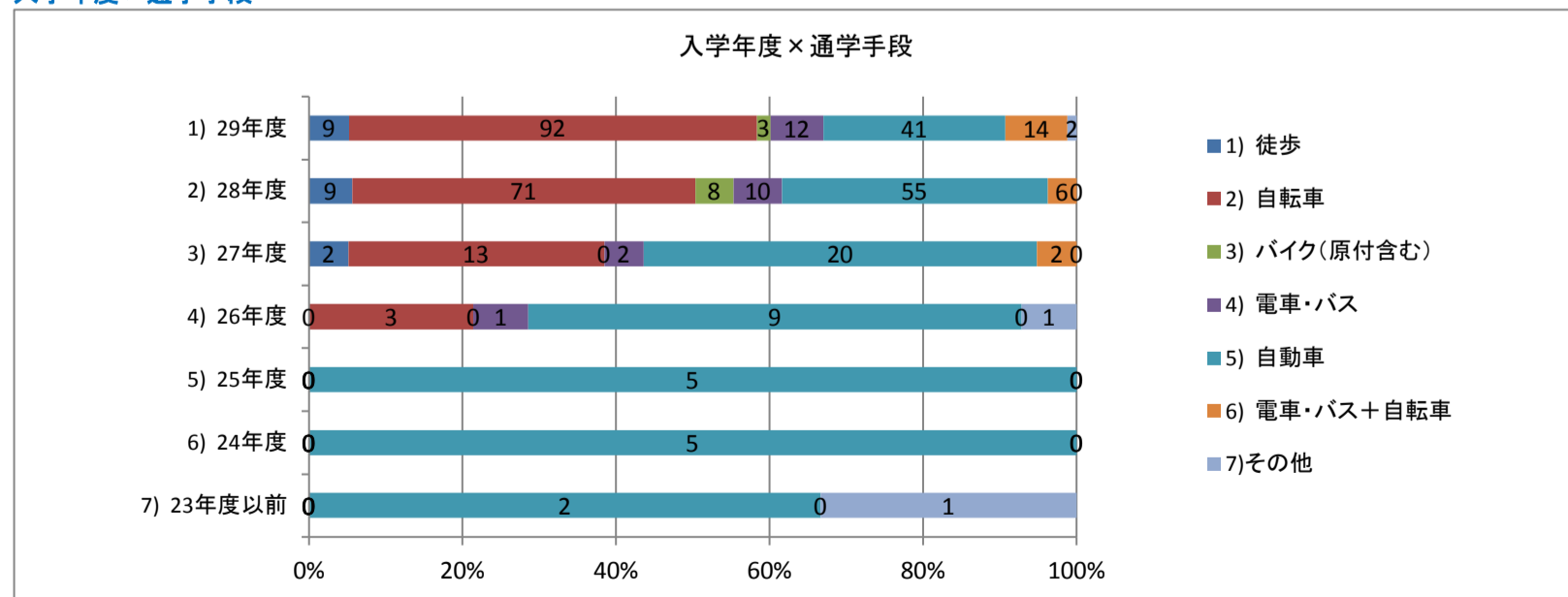
### 研究科×通学的手段



地域デザインおよび理系学部は自転車、教育と医学部は車、という分野格差が現れている？

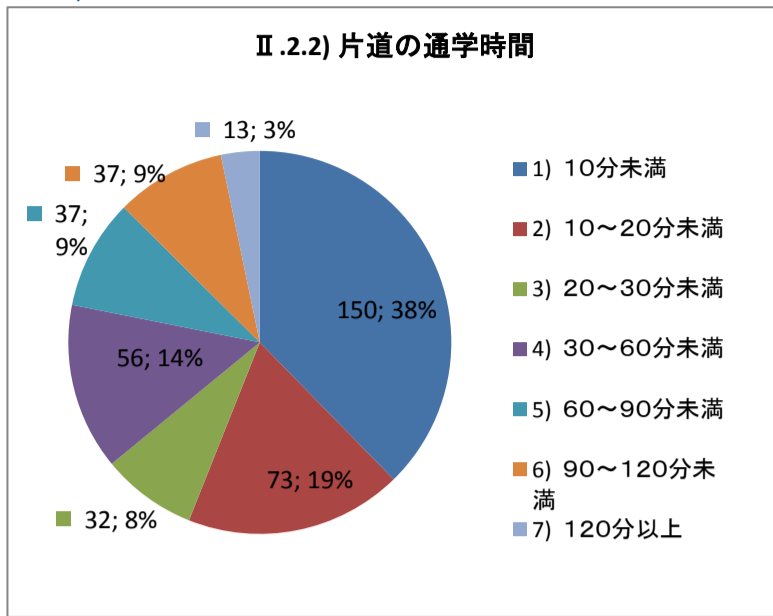
【その他】  
・飛行機、飛行機+バス

### 入学年度×通学手段



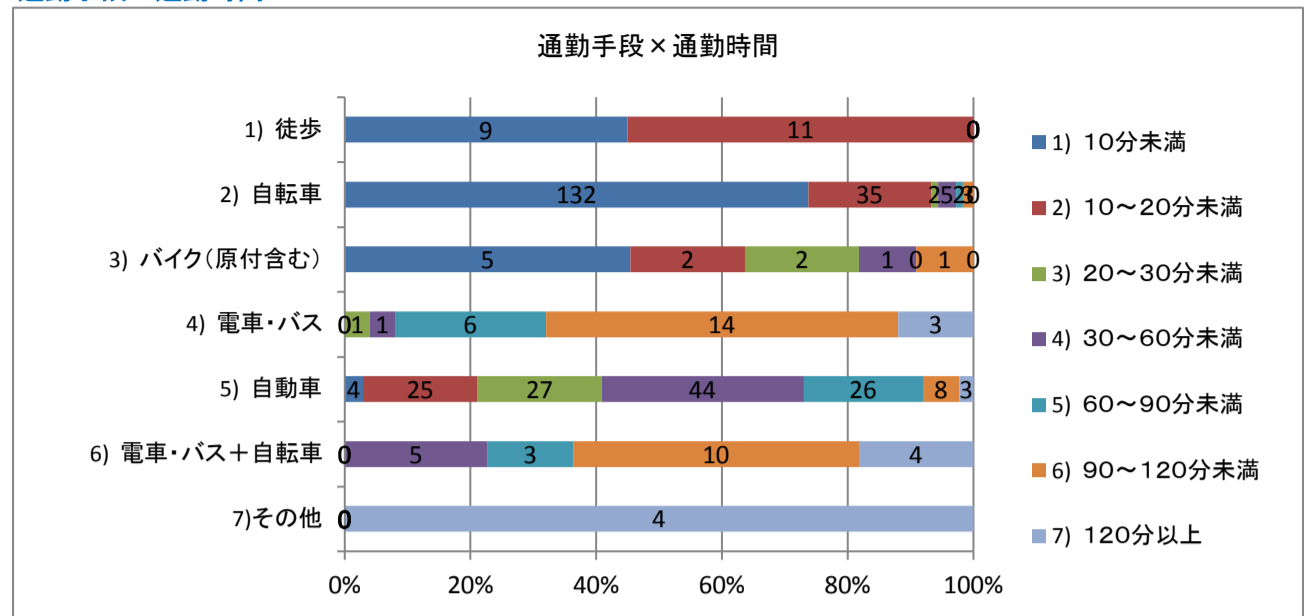
データ数の違いが大きく一概に言えないが、自転車通学が急増？

II.2.2)



通学に長時間を費やしている学生も多い。キャンパスライフの充実が課題？

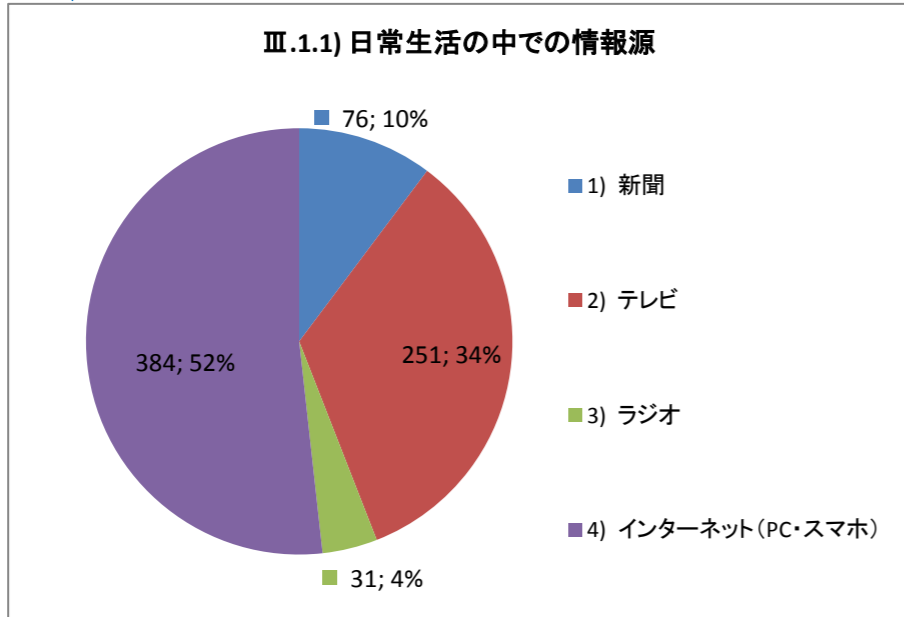
通勤手段×通勤時間



徒歩、自転車で20分以内は健康的。遠方ほど車、という傾向はやむを得ない。

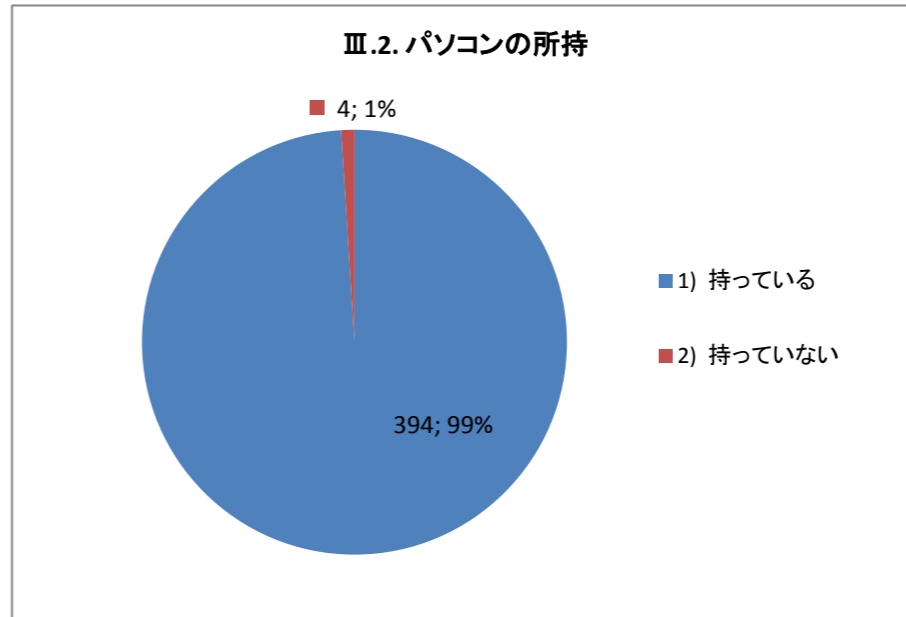
### Ⅲ. 生活に関する事項

Ⅲ.1.1)

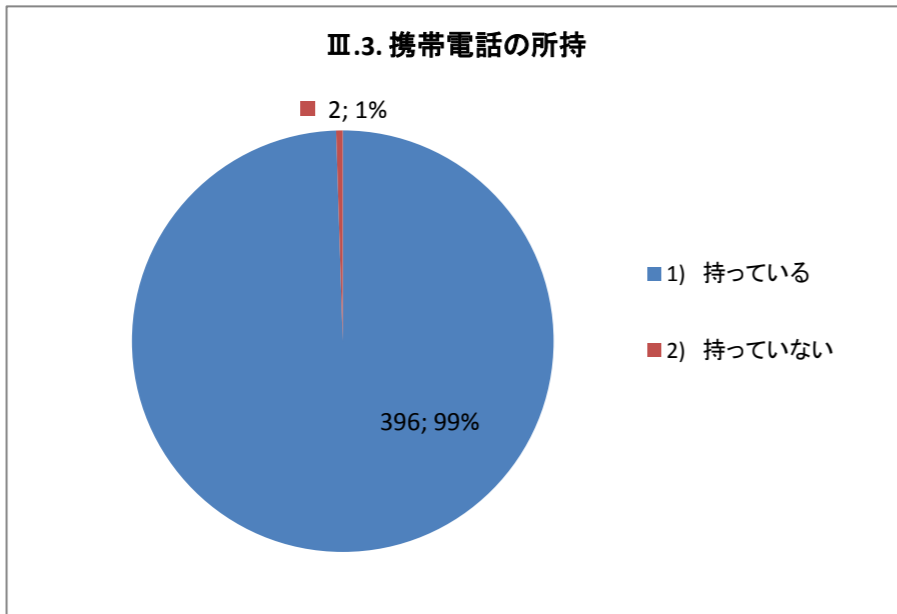


いわゆるネットやテレビなど映像に偏重。学力への悪影響の一つであることは明 PC所持は現代社会では必須だが、用途は？

Ⅲ.2.

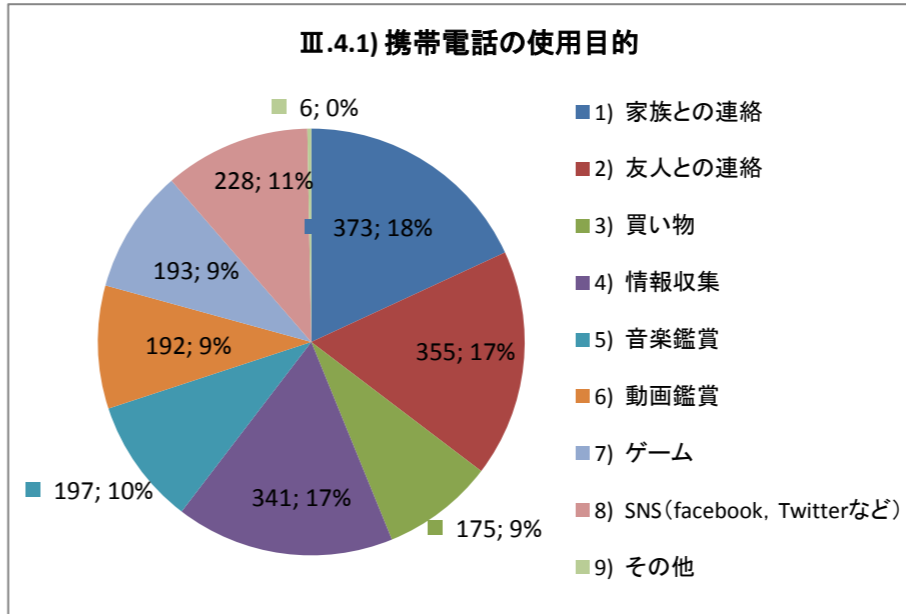


Ⅲ.3.



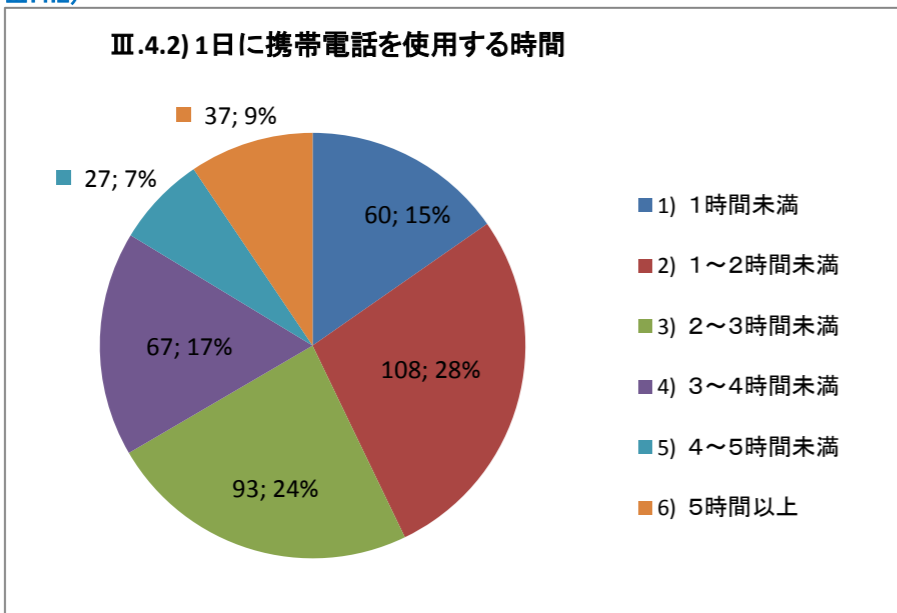
スマホは現代社会では使用しないと受けられないサービスも増え、情報格差の一因。

Ⅲ.4.1)



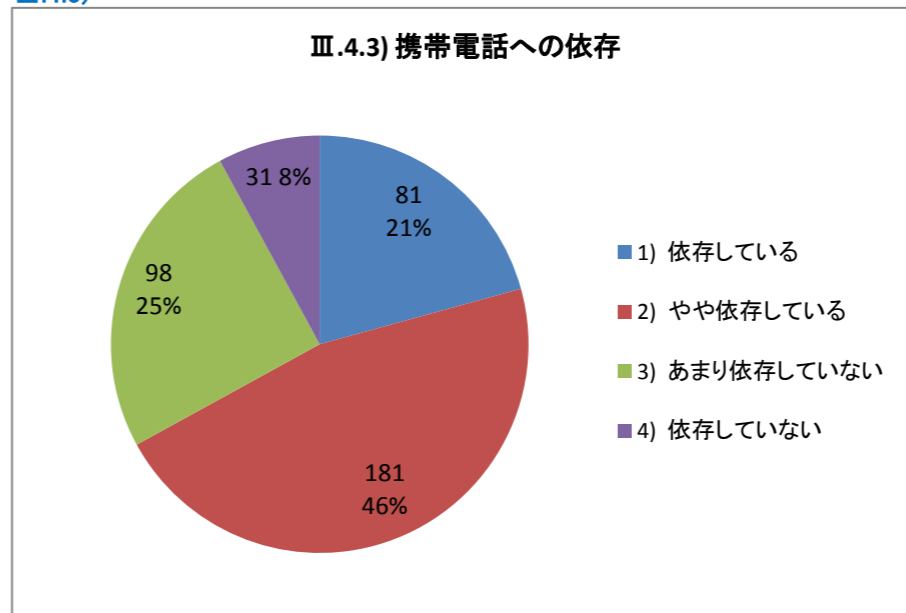
様々に使用されており、学習の形態も徐々に変化していくと考える。  
【その他】  
・職場との連絡、1-8の全部、本 (ibook)、辞書、翻訳アプリ、カメラ、仕事の電話

Ⅲ.4.2)



使用時間が長いと考えるが、必要な連絡あるいは学習のためか？

Ⅲ.4.3)

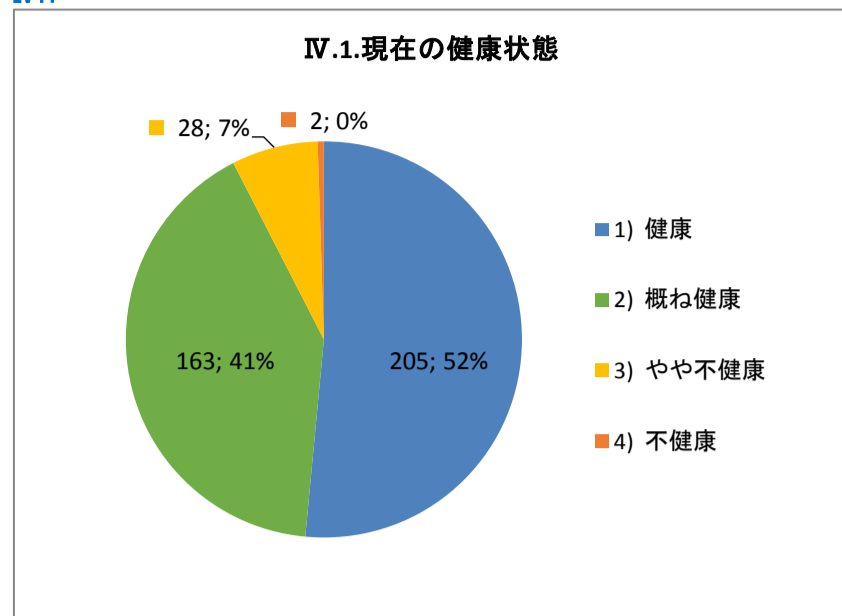


予想されたことだが携帯電話への依存度は高い。



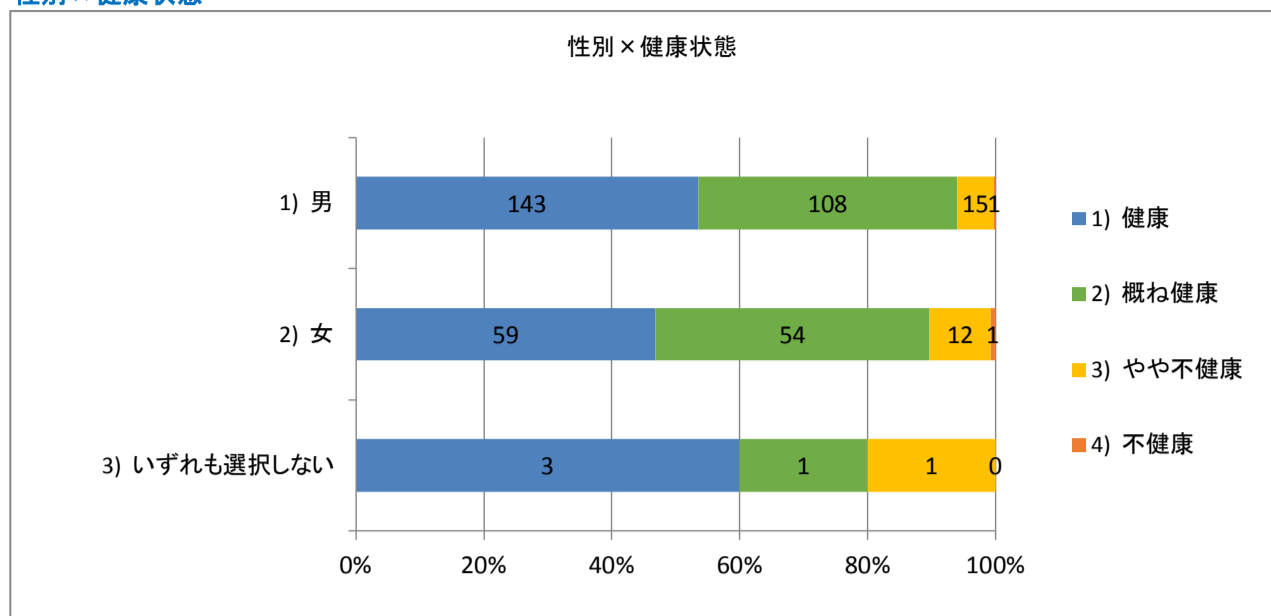
#### IV. 健康に関する事項

IV.1



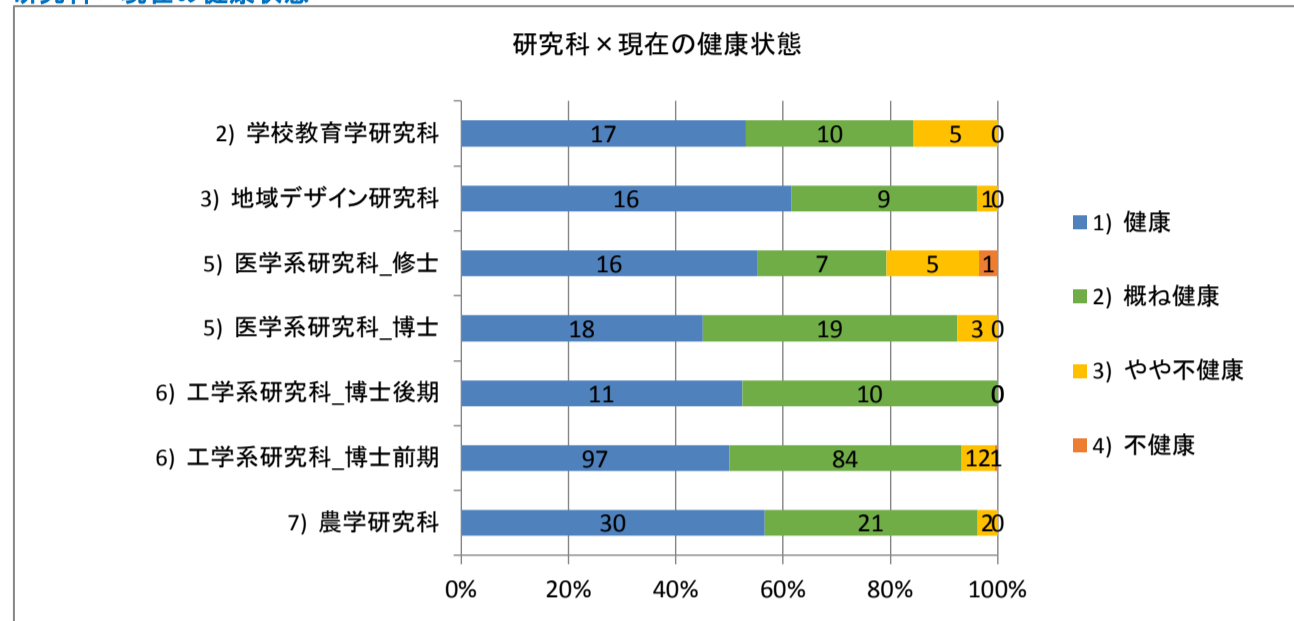
「健康」と「概ね健康」と回答した学生の割合は約93%であり、殆どの学生が健康であると意識している。

性別 × 健康状態



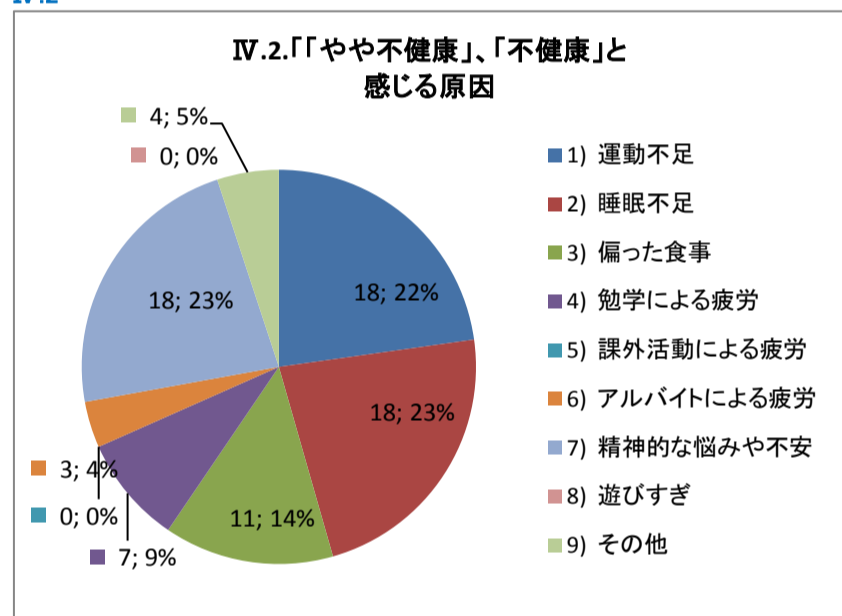
男女を比較すると、女性の方が「やや不健康」と感じている学生が多い。いずれも選択しなかった学生はサンプルが少なく、統計的な考察はできない。

研究科 × 現在の健康状態



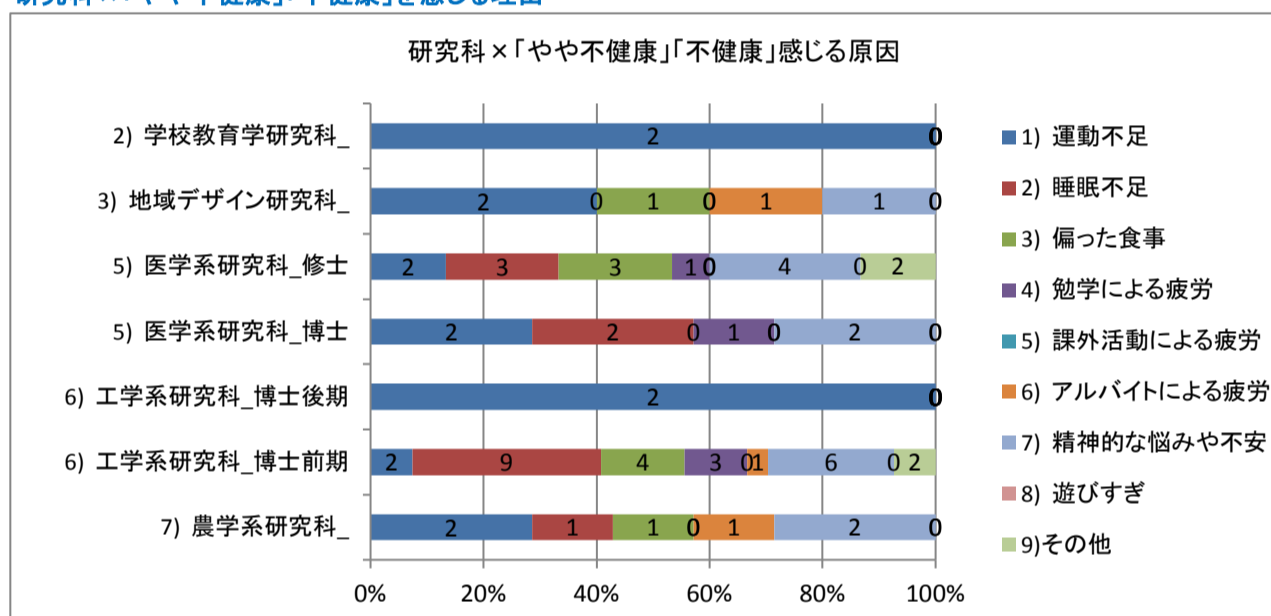
研究科ごとに傾向は異なる。相対的にみると、「やや不健康」と感じている医学系研究科修士学生の割合が高い。

IV.2



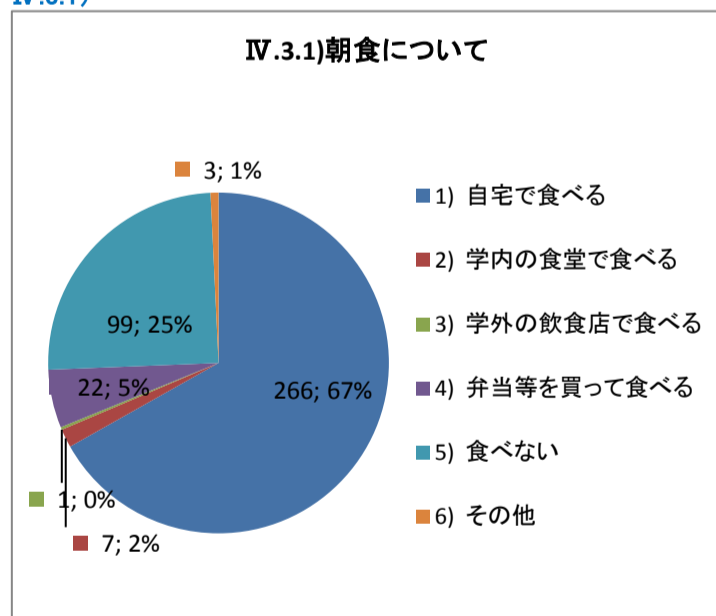
「やや不健康」「不健康」と感じている3大要因は「運動不足」「睡眠不足」【その他】  
 関病中、育児による疲労、持病、

研究科 × 「やや不健康」「不健康」を感じる理由



研究科ごとの集計であるとサンプル数が少なくなるために、研究科ごとのバラツキが大きく、統計的な信頼性が低く、考察が難しい。

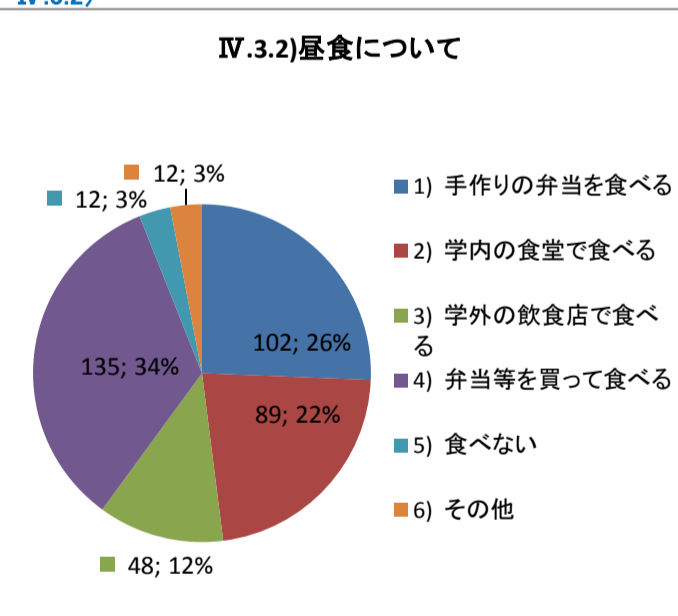
IV.3.1)



約67%の学生が、朝食を自宅で食べている。ただし、「食べない」と回答している学生も約25%もあり、健康に関する指導が必要である。

【その他】  
 コンビニ、家から軽食を持参

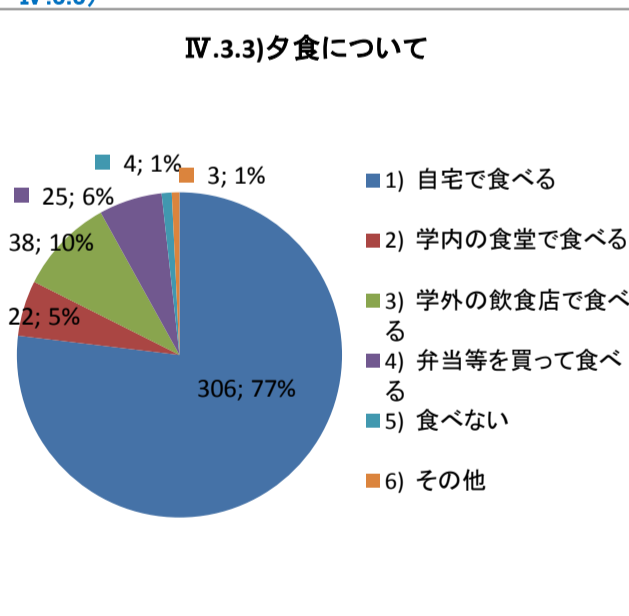
IV.3.2)



「弁当を買って食べる」「学外の飲食店で食べる」「学内の食堂で食べる」の総計は約68%である。ただし、「食べない」と回答した学生は26%おり、健康に関する指導が必要である。

【その他】  
 自宅、日によって異なる、給食、カップ麺

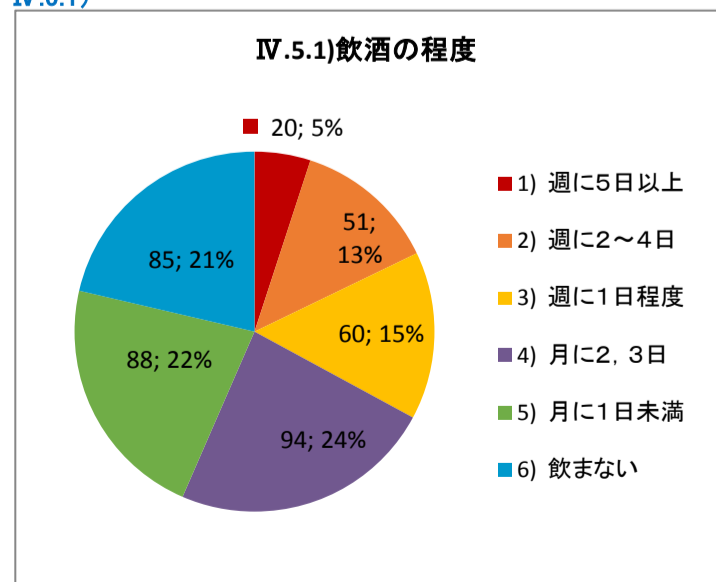
IV.3.3)



99%の学生は夕食をとっている。その中で約77%の学生が夕食を自宅で食べている。

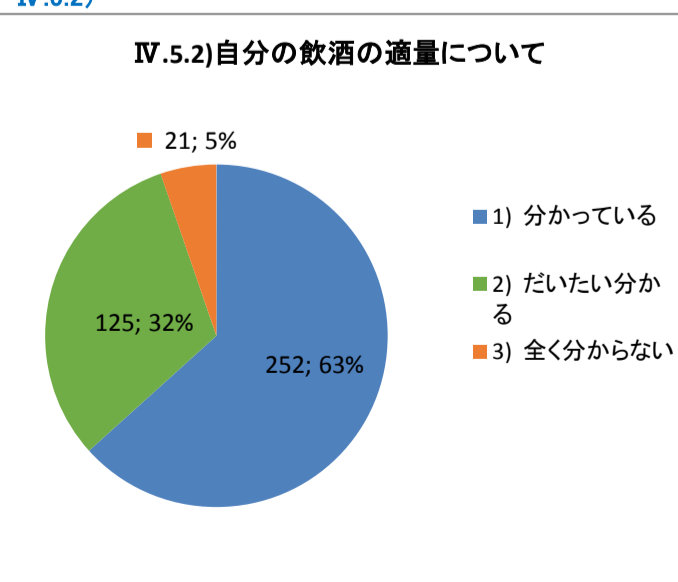
【その他】  
 持参した弁当、日によって異なる、まかない

IV.5.1)



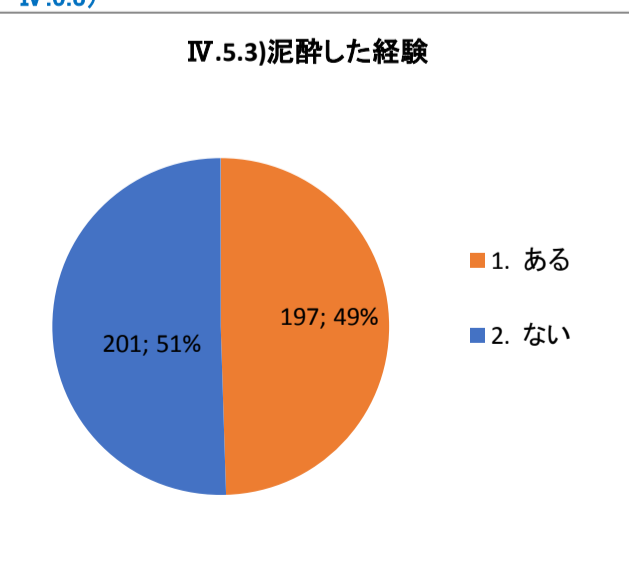
飲酒の頻度についてはばらつきが大きい。週に5日以上の学生が約5%おり、指導が必要である。

IV.5.2)



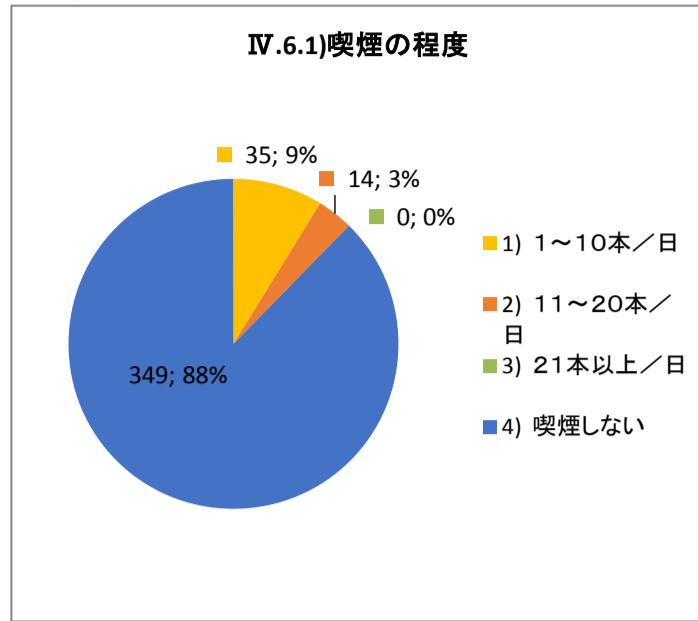
飲酒の適量について約63%が「分かる」、約31%が「だいたい分かる」と回答している。約5%の学生がわかっておらず、指導が必要である。

IV.5.3)



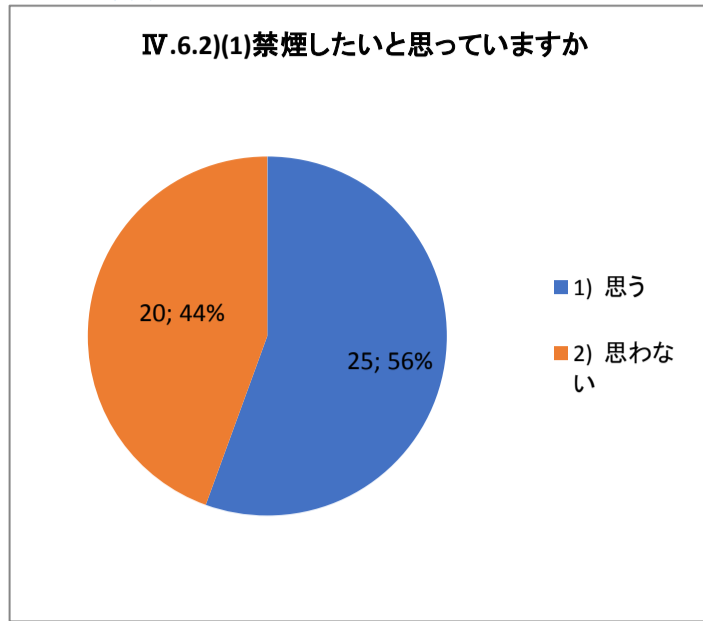
約半数の学生に泥酔の経験がある。

IV.6.1)



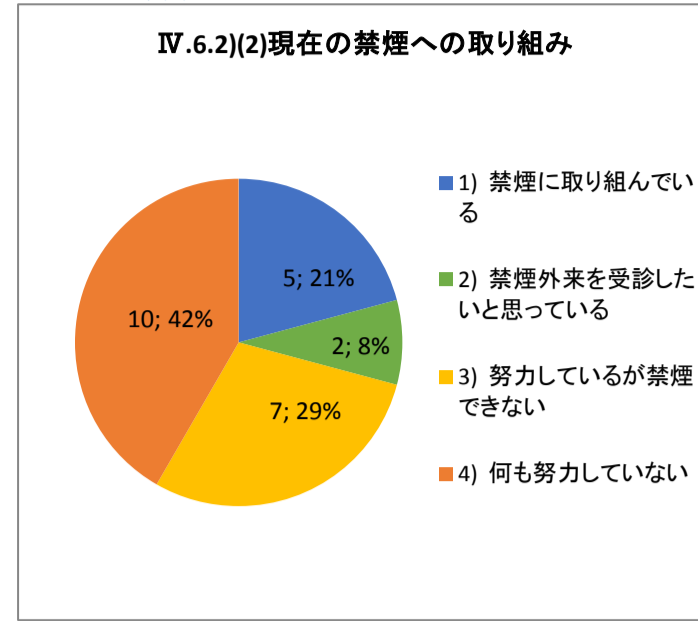
喫煙しない学生の割合が88%と高く、喫煙者の割合は以前と比べるとかなり減少している。

IV.6.2)(1)



喫煙しない学生が多い一方で、禁煙したいと思っている学生の割合は56%と多い。喫煙が健康に及ぼす影響の周知が必要である。

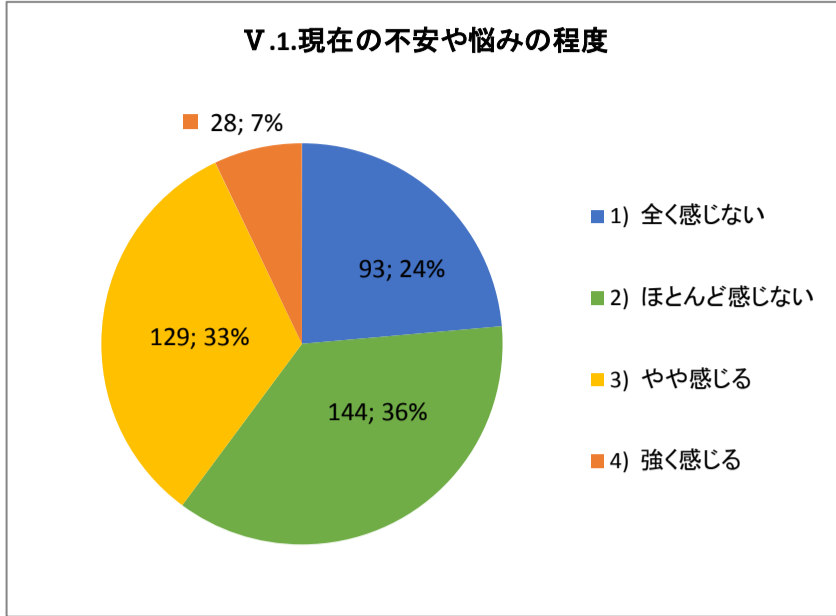
IV.6.2)(2)



回答者の半数以上は、程度は様々であるが禁煙の取り組みに興味がありそうである。彼らにターゲットを絞って禁煙の支援をおこなうと効果的であると考えられる。

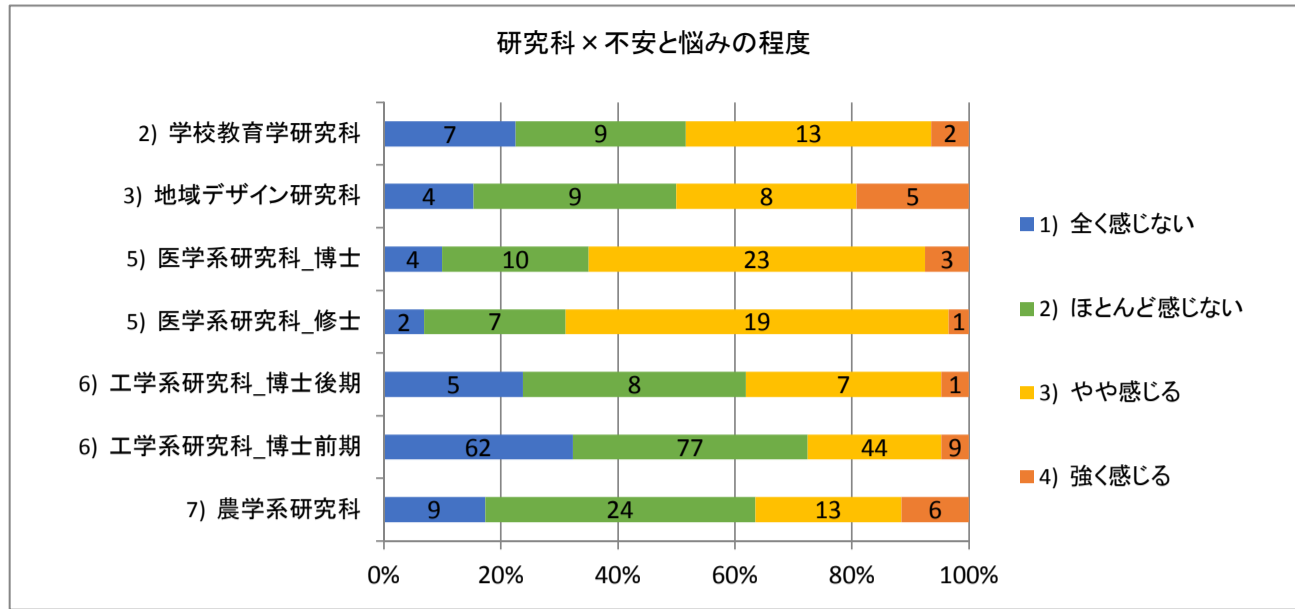
## V. 不安と悩みに関する事項

### V.1



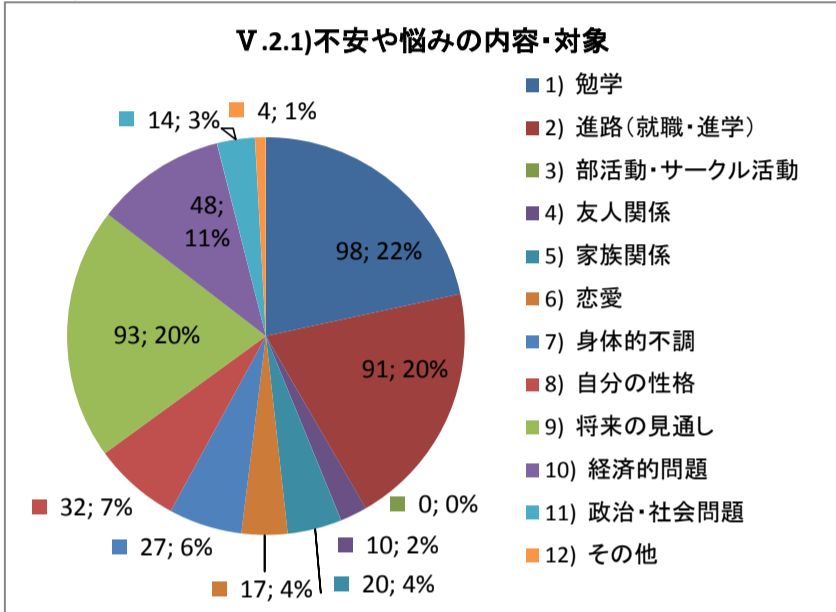
不安や悩みを「強く感じる」と回答した人の割合が7%、「やや感じる」と回答した人の割合が33%と多く、支援が必要である。

### 研究科 × 不安と悩みの程度



研究科ごとに傾向は異なる。医学系研究科において「やや感じる」「強く感じる」と回答した人の割合が大きい。

### V.2.1)

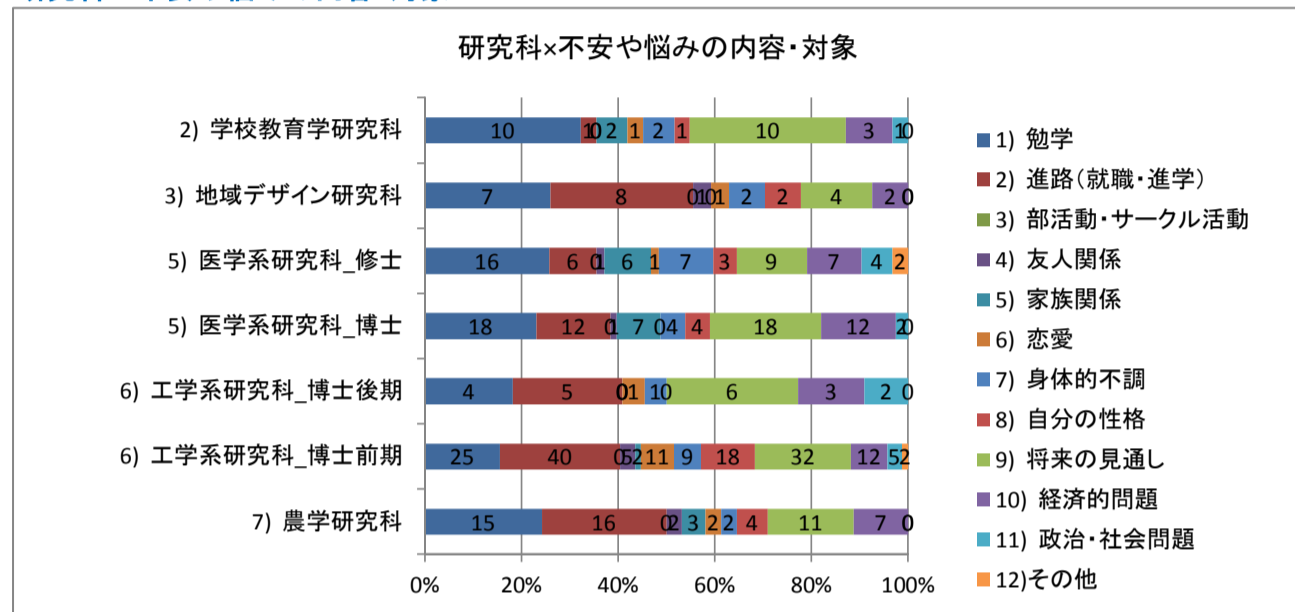


不安や悩みの原因は多岐の亘るが、3大原因は「勉学」「進路(就職・進学)」「将来の見通し」である。

【その他】

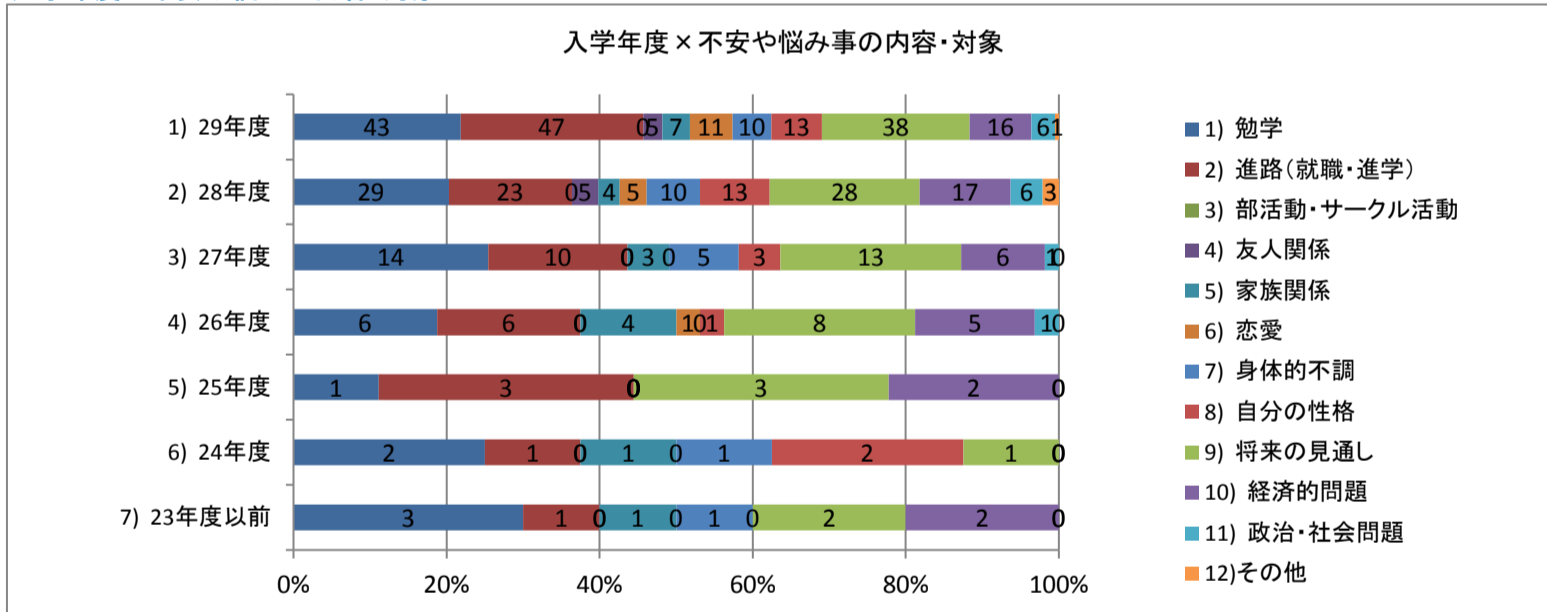
ハラスメント問題、いろいろ、人間関係、育児、仕事

### 研究科 × 不安や悩みの内容・対象



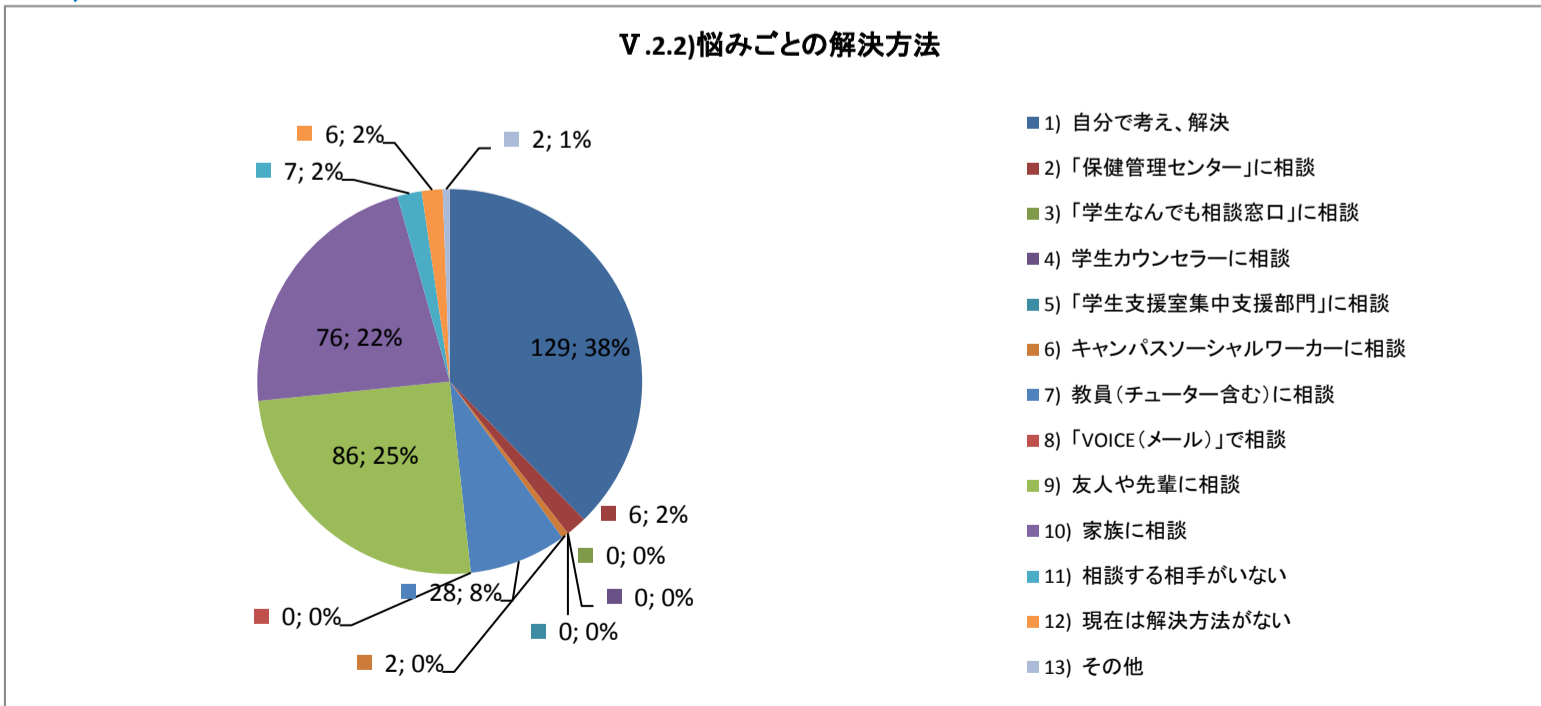
研究科ごとに傾向は異なる。3大原因に着目すると、「勉学」では学校教育学研究科、「進路」では地域デザイン研究科、「将来の見通し」では学校教育学研究科の割合が大きい。

### 入学年度 × 不安や悩みの内容・対象



入学年度ごとに傾向は異なる。

### V.2.2)



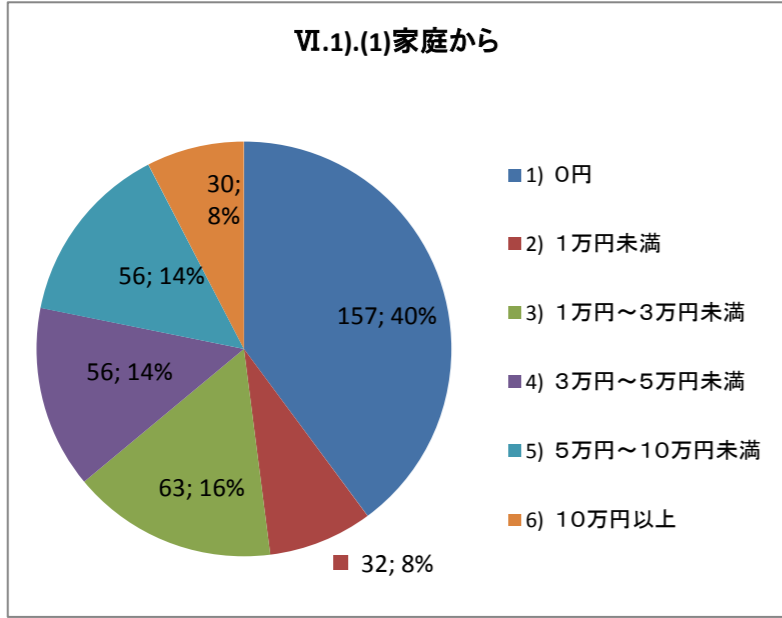
【その他】

主治医へ相談、通院中

悩みの解決法で最も多いのは「自分で考え、解決」であるが、「友人や先輩に相談」「家族に相談」が多く、身近な人の重要性が伺える。

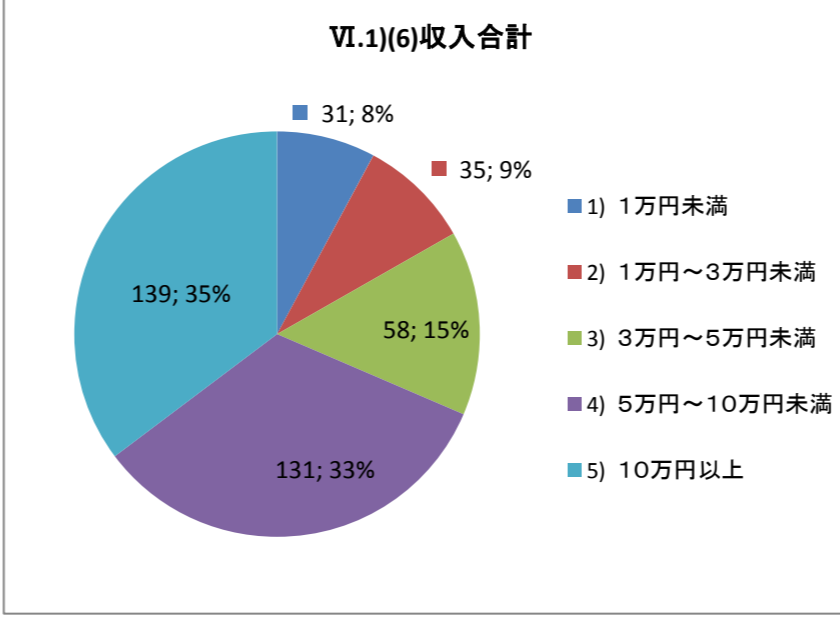
## VI. 経済状況に関する事項

VI-1)(1)



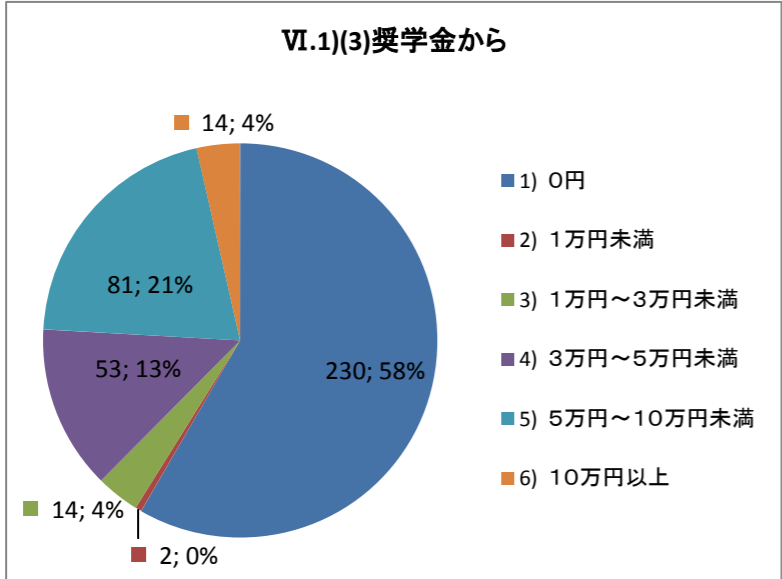
回答者のおよそ4割は、家庭からの収入を得ておらず、1万円未満と、10万円以上がそれぞれ8%で、1万円～3万円未満、3万円から5万円未満、5万円～10万円未満までが、それぞれ約15%と均等に分布している。

VI-1)(6)



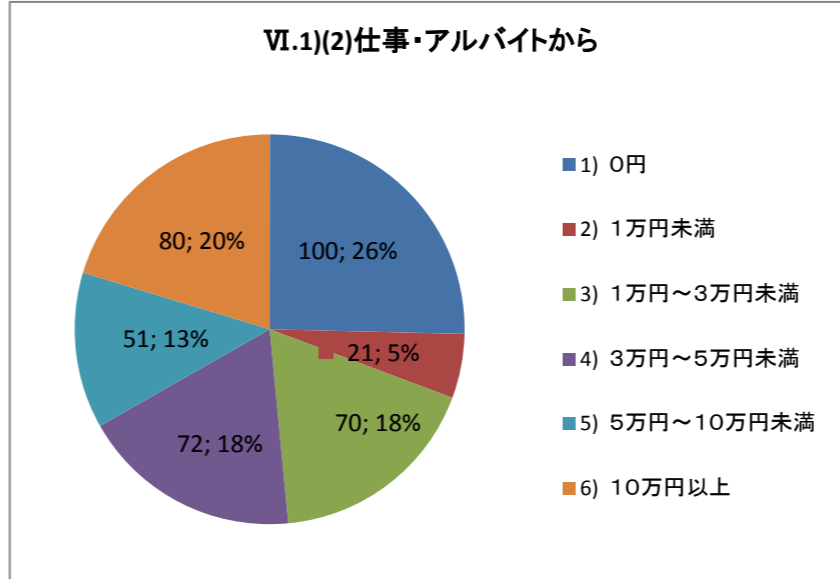
1か月の平均収入の合計は、5～10万円未満とする回答が33%、10万円以上が35%で、およそ7割の学生が5万円以上の収入を得ている。また、女性の半数近くが10万円以上の収入がある。

VI-1)(3)



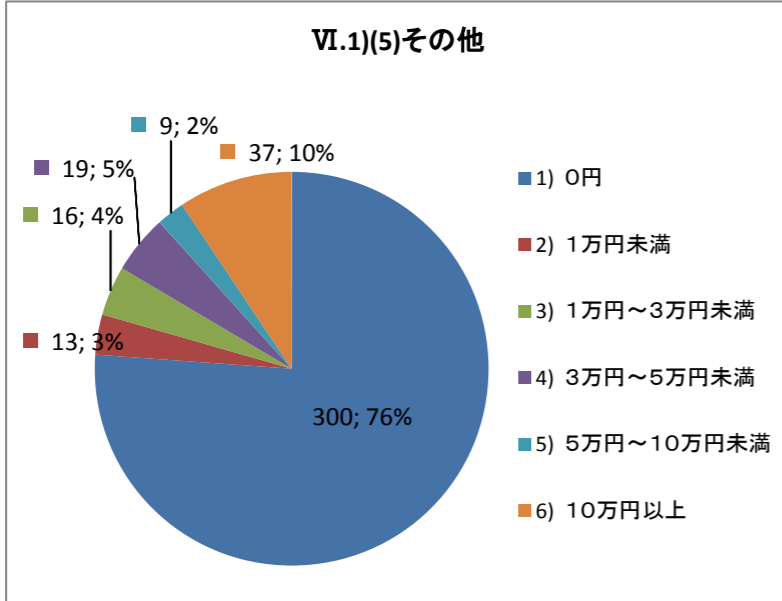
奨学金を受け取っているのはおよそ4割で、そのうち、金額については5～10万円未満、3～5万円未満、の順に回答が多い。

VI-1)(2)



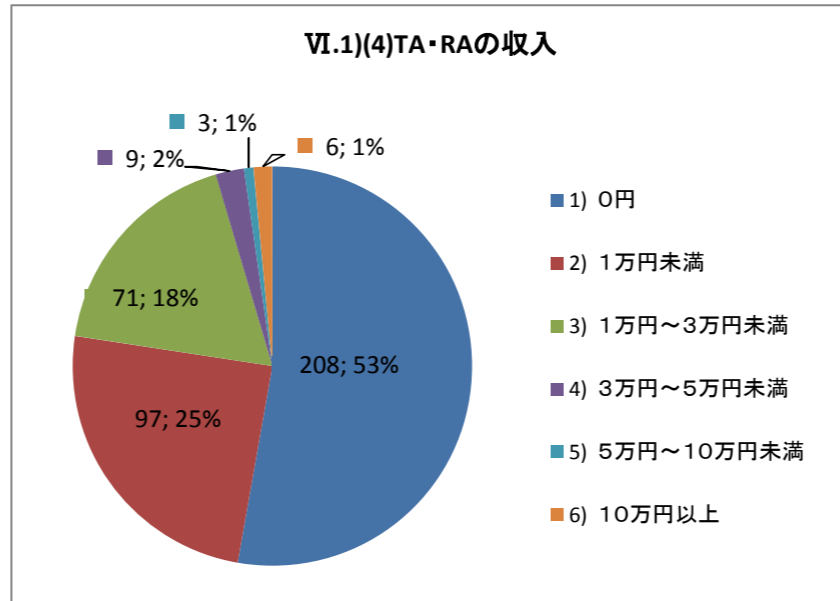
回答者のおよそ4分の3がアルバイトから収入を得ており、収入を得ている人の中では、10万円以上が20%でもっとも多く、次に1～3万円未満と3～5万円未満とする回答が18%、5～10万円とする回答が13%となっている。

VI-1)(5)



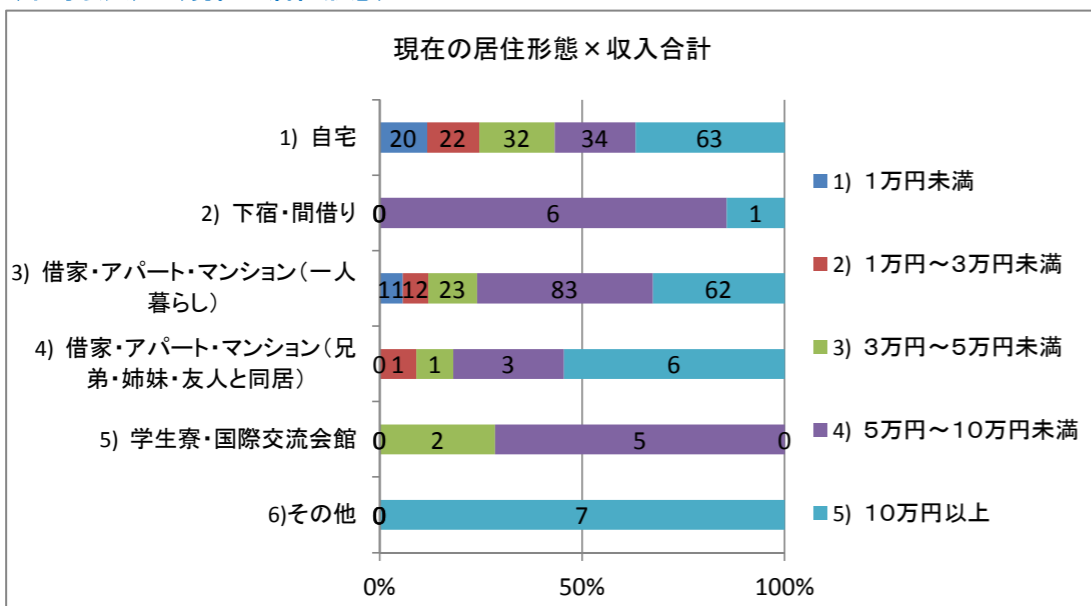
回答者のおよそ4分の1がその他の収入があるとおり、そのうち4割の人が10万円以上受け取っている。

VI-1)(4)



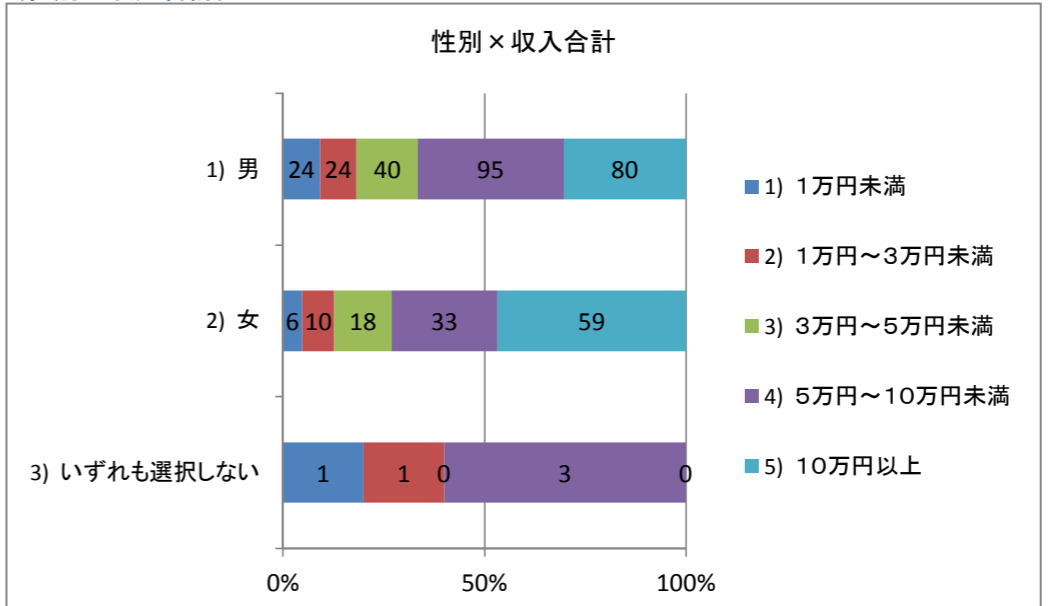
半数近くの大学院生がTA・RAによる収入を得ており、そのうち半数が1万円未満であり、3割が1万円～3万円未満である。

(平均収入) × (現在の居住形態)



居住形態別に平均収入をみると、いずれも5万円以上(10万円以上を含む)と回答した人が半数以上であり、自宅以外の居住形態では、7割を超えている。

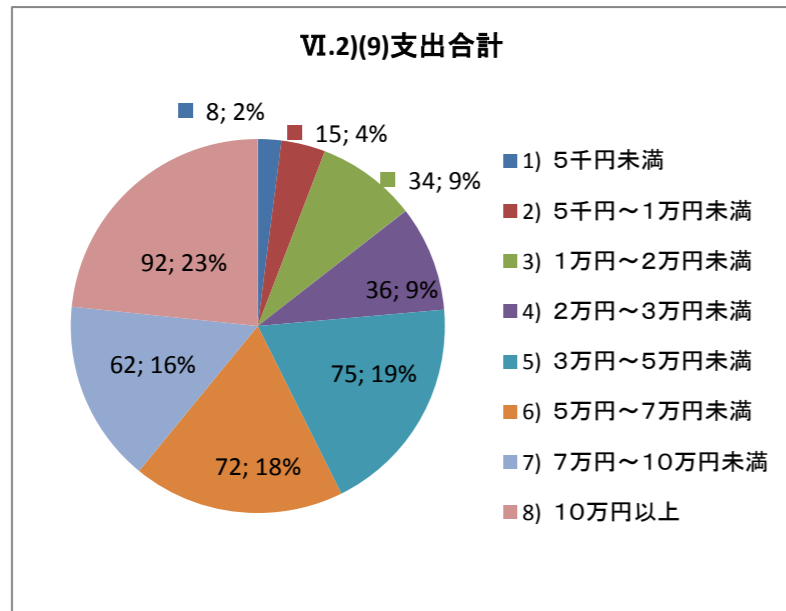
(性別) × 収入合計



男性の66%、女性の73%が5万円以上(10万円以上を含む)の収入を得ており、女性については半数近くが10万円以上の収入を得ている。

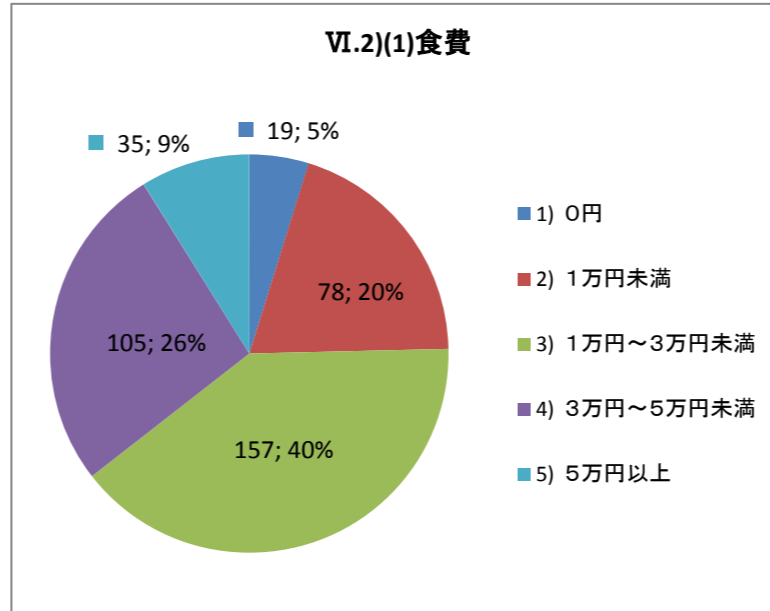


VI-2)(9)



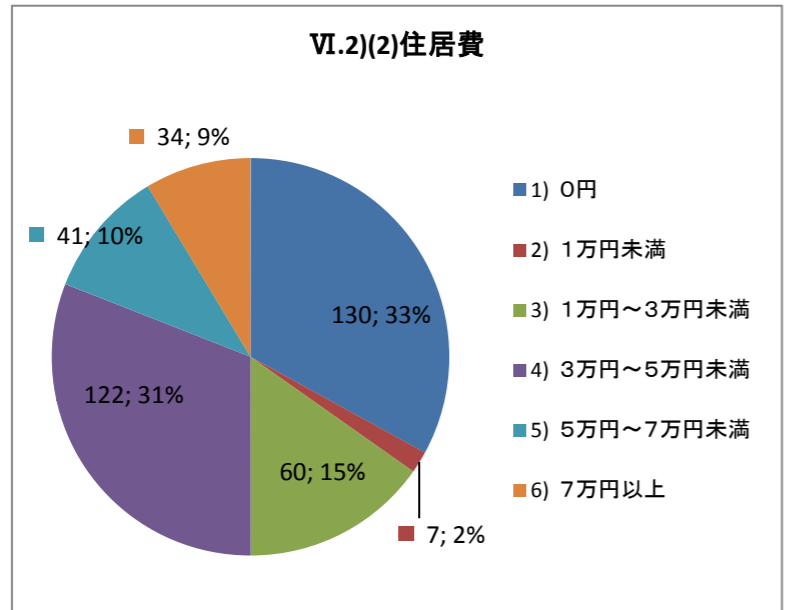
平均支出が10万円以上とする回答が23%で最も多く、3～5万円未満、5万円～7万円未満、7万円～10万円未満がいずれも2割弱でほぼ同じくらいである。3万円未満とする回答は合わせて24%だった。

VI-2)(1)



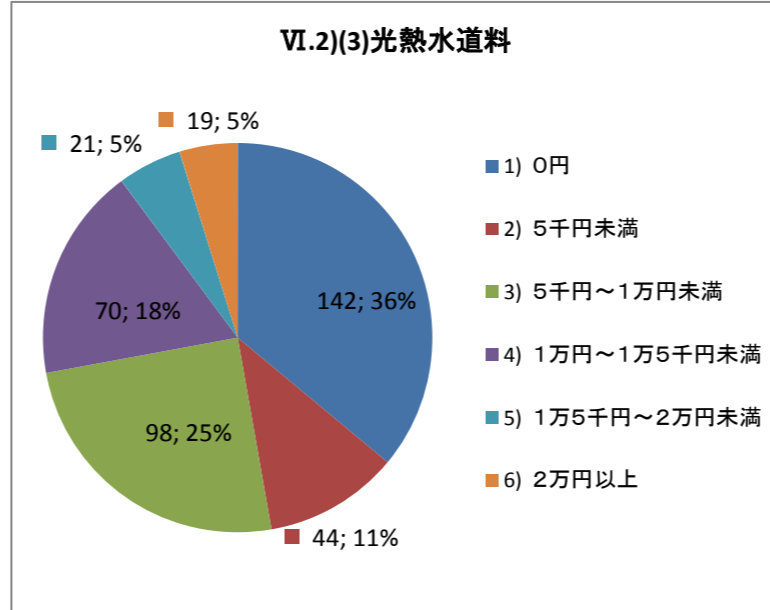
1～3万円未満とする回答が40%でもっとも多く、3万円～5万円未満が26%、1万円未満が20%と続いている。

VI-2)(2)



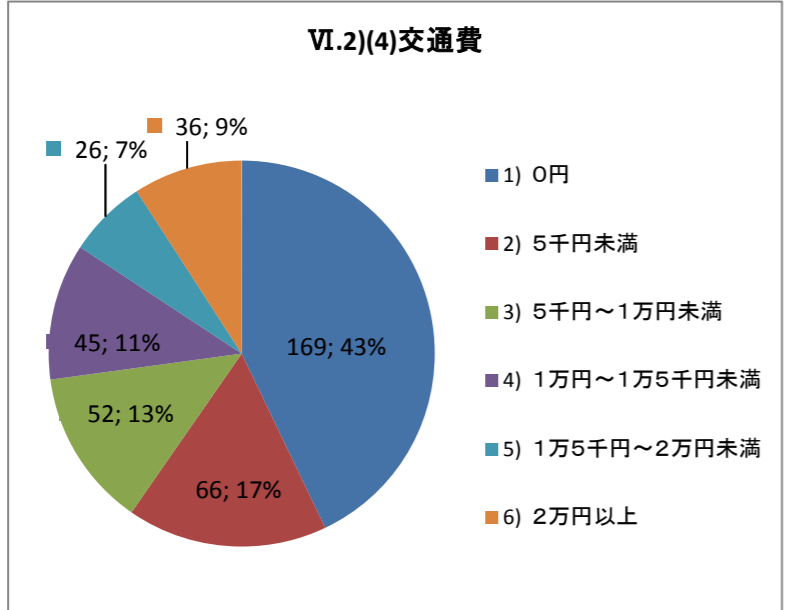
およそ3割が0円としている。住居費を支出している人のうち3～5万円未満とする回答が31%で最も多く、次に1万円～3万円未満15%、5万円～7万円未満10%、7万円以上9%と続いている。

VI-2)(3)



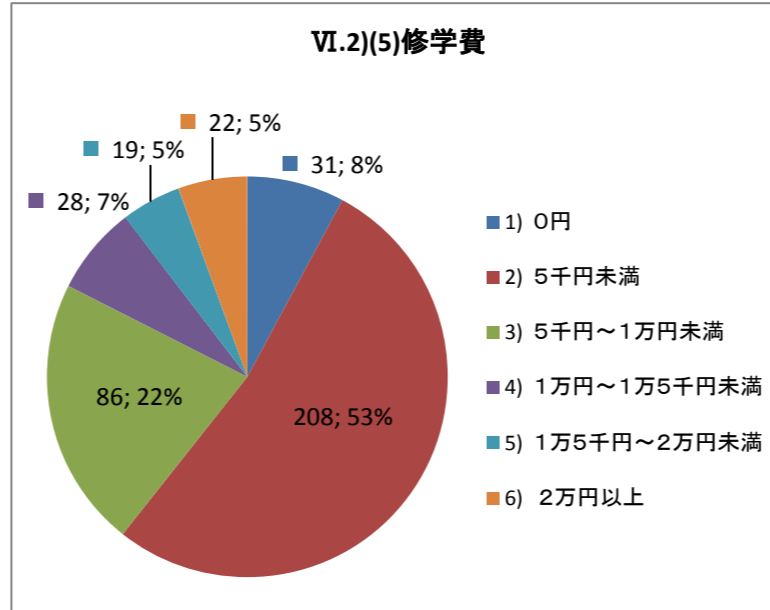
光熱水道料を払っているのは、回答の65%で、そのうち5千円～1万円未満が最も多い。

VI-2)(4)



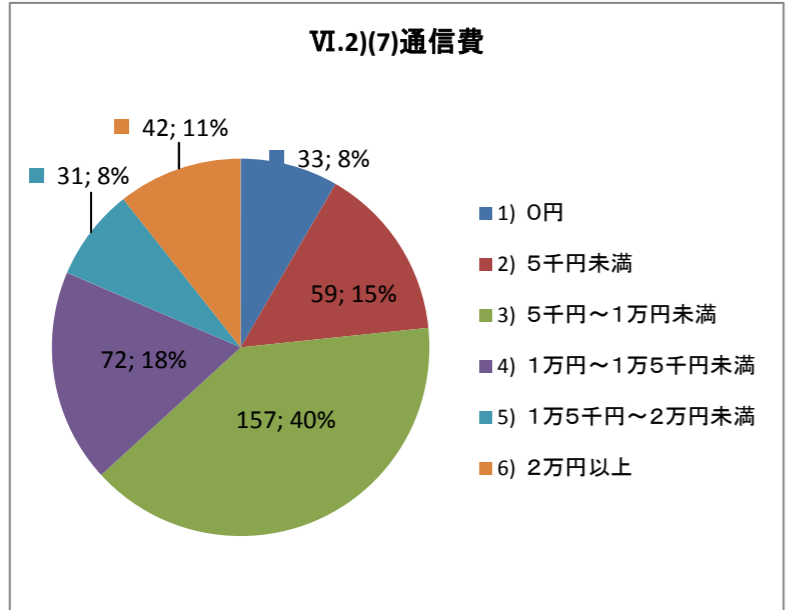
交通費は払っていないとする回答が43%で最も多く、5千円未満が17%、5千円から1万円未満が13%と少ない順に続いている。

VI-2)(5)



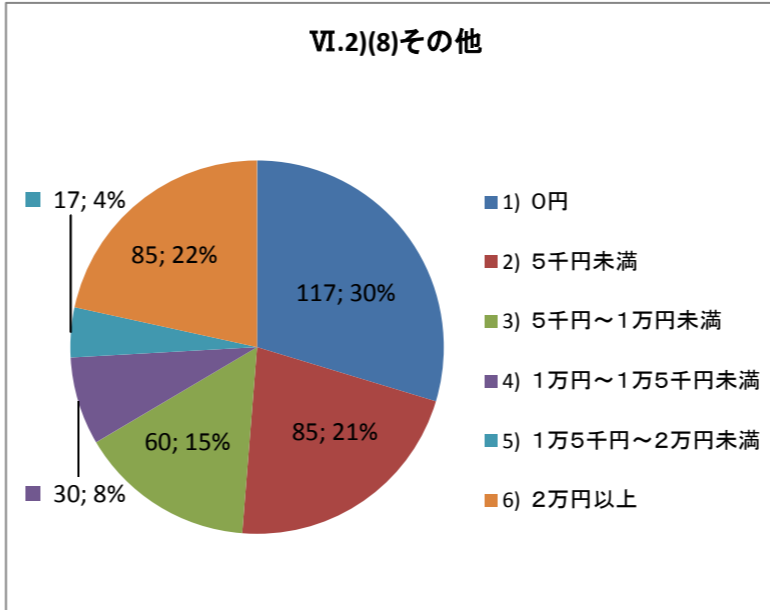
修学費については、0円が8%、5千円未満が53%、5千円～1万円未満が22%と回答しており、あわせて8割くらいの学生は1万円未満である。

VI-2)(7)



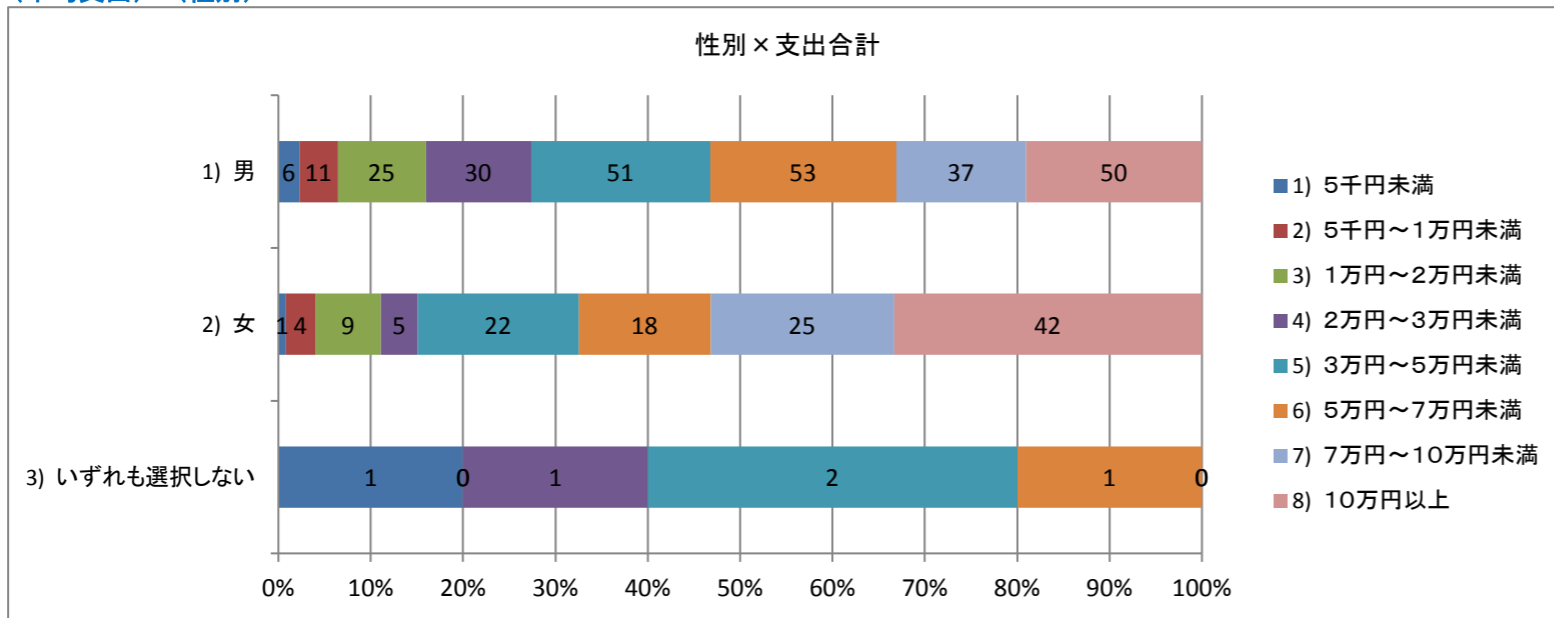
通信費については、5千～1万円未満とする回答がおよそ40%で最も多く、1万円～1万5千円未満が18%、5千円未満が15%と続く。

VI-2)(8)



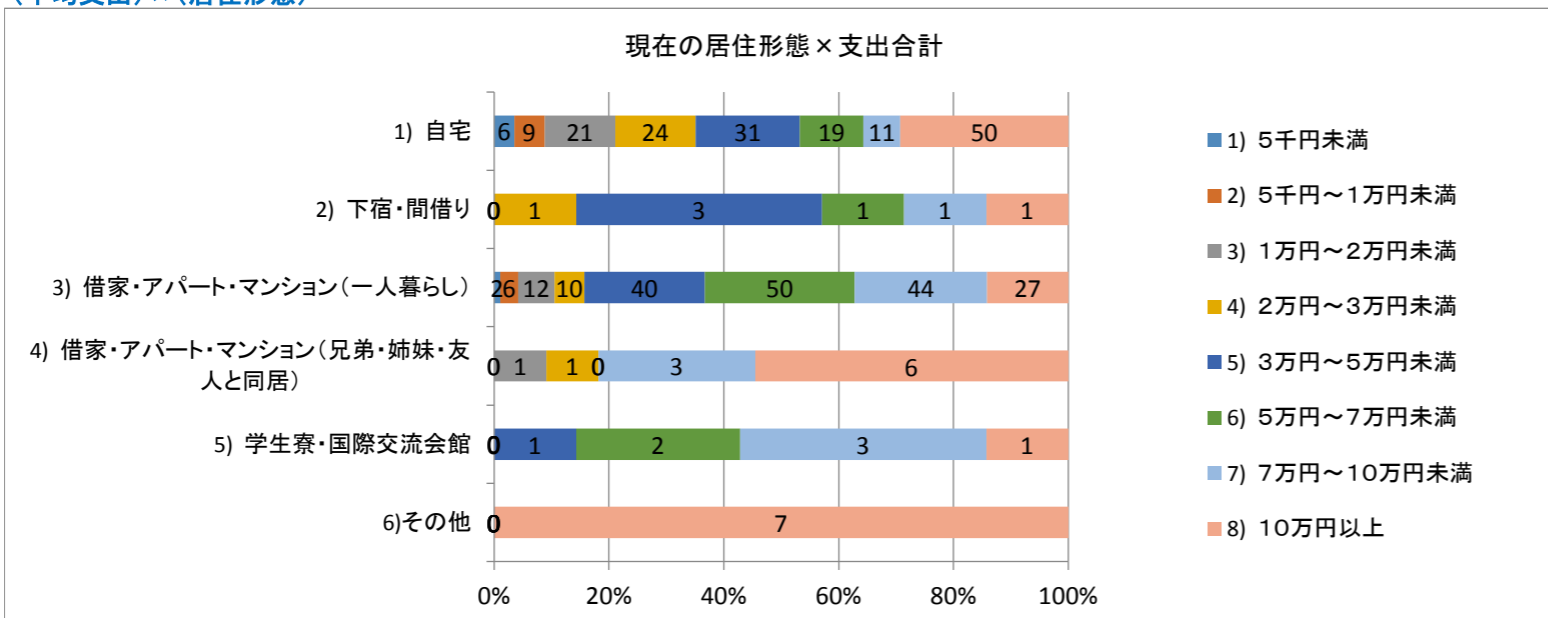
その他の支出については、0円が30%、5千円未満が21%、5千円～1万円未満が15%と金額が増えるにつれて回答の割合が減少していくが、他方で2万円以上とする回答が22%と多い。

(平均支出) × (性別)



女性は男性に比べて全体的に支出が多い傾向が見られ、10万円以上とする回答が33%あった。

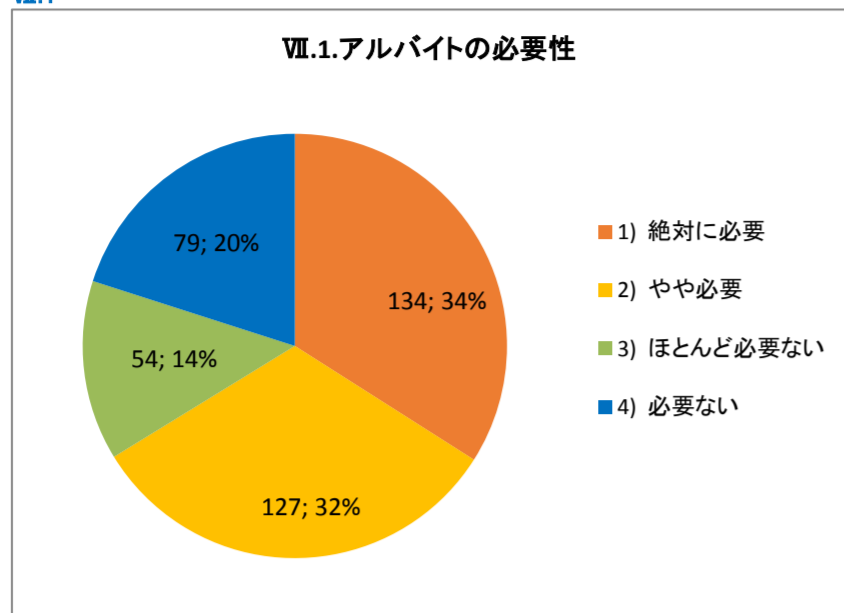
(平均支出) × (居住形態)



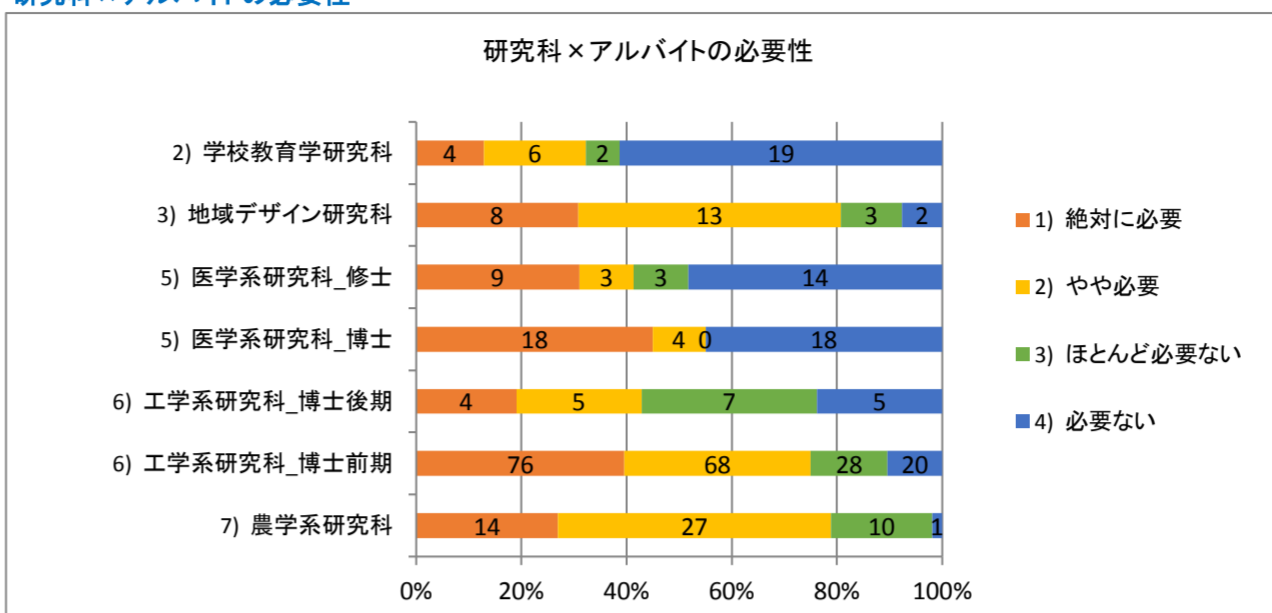
居住形態別の平均支出をみると自宅と回答した者及び借家等で一人暮らしと回答した者については、支出の合計は人によってばらつきがあり、特徴は見られない。その他の形態については、母数が少ないためはっきりしないが、兄弟等と暮らしていると回答した者及び学生寮等と回答した者については支出が多い。

## Ⅶ. アルバイトに関する事項

### Ⅶ.1

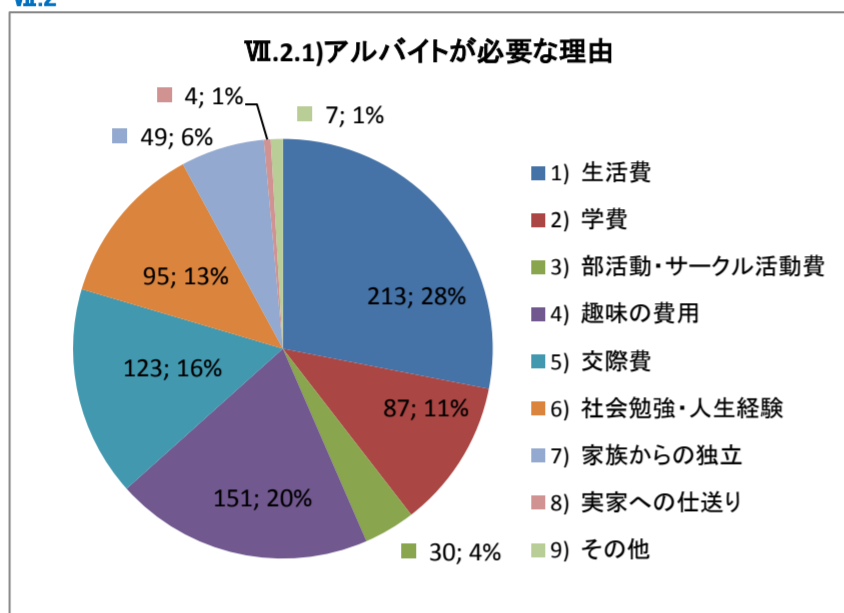


### 研究科×アルバイトの必要性

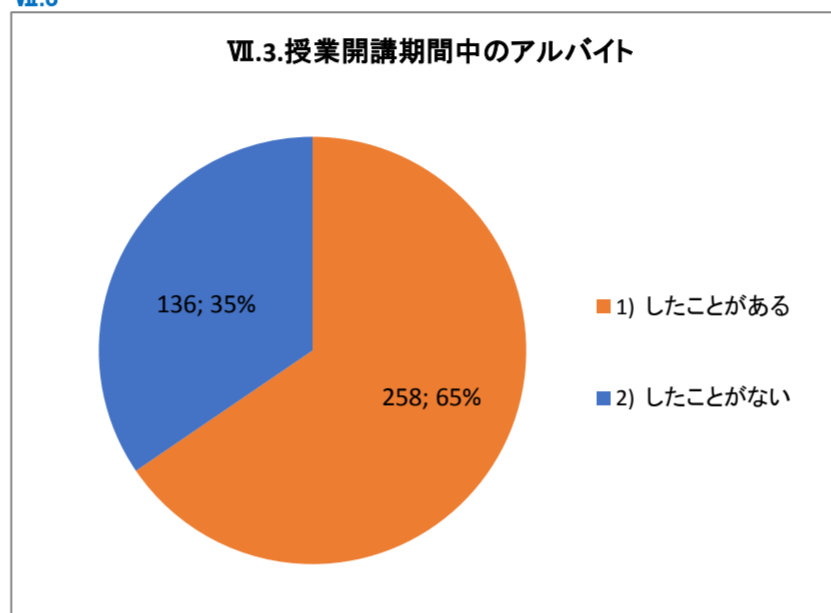


アルバイトを必要とする大学院生は、全体の半数以上を占め、学部別にみると地域デザイン研究科、工学系研究科(博士前期課程)、農学研究科において特に多い傾向がある。

### Ⅶ.2



### Ⅶ.3

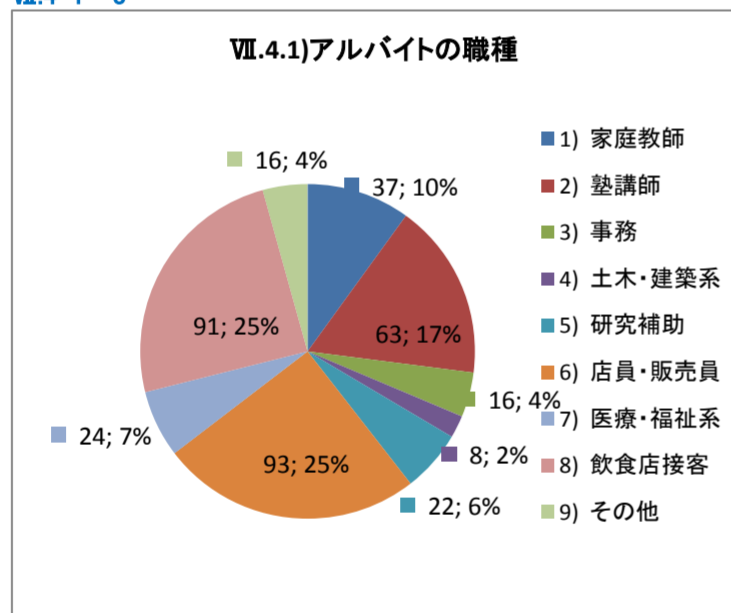


アルバイトが必要な理由は、生活費ならびに学費で約4割を占めるが、その他、部活動・サークル活動、趣味、交際費、人生経験などの割合が多く、生活の質向上を目的にアルバイトを必要としている様子が伺える。

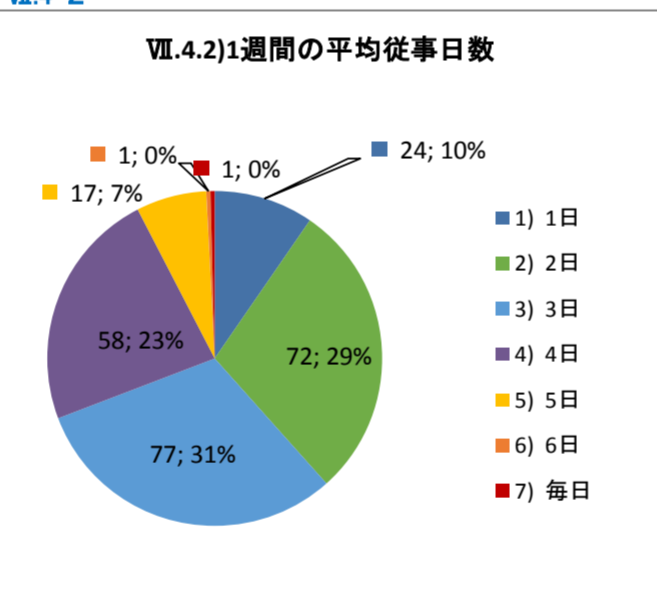
授業開講期間中にアルバイトをしたことがあると答えたものが65%いるが、学部生に比較するとやや割合が低い。

【その他】 画材代、貯金、通学のため、子育て中のため

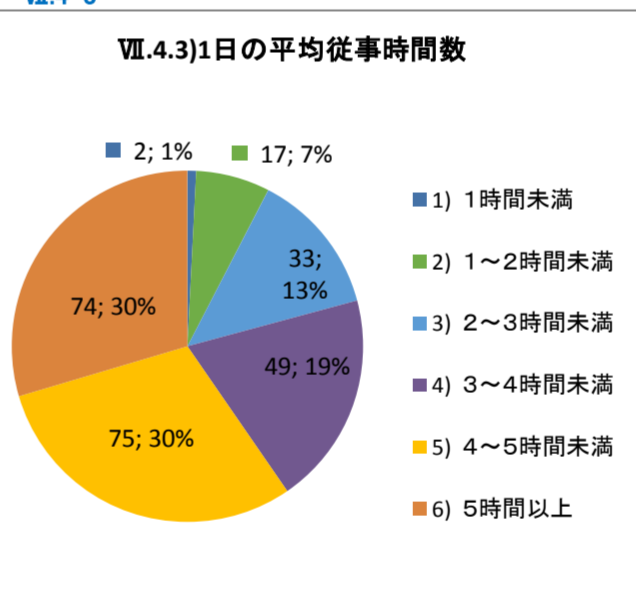
### Ⅶ.4-1~3



### Ⅶ.4-2



### Ⅶ.4-3



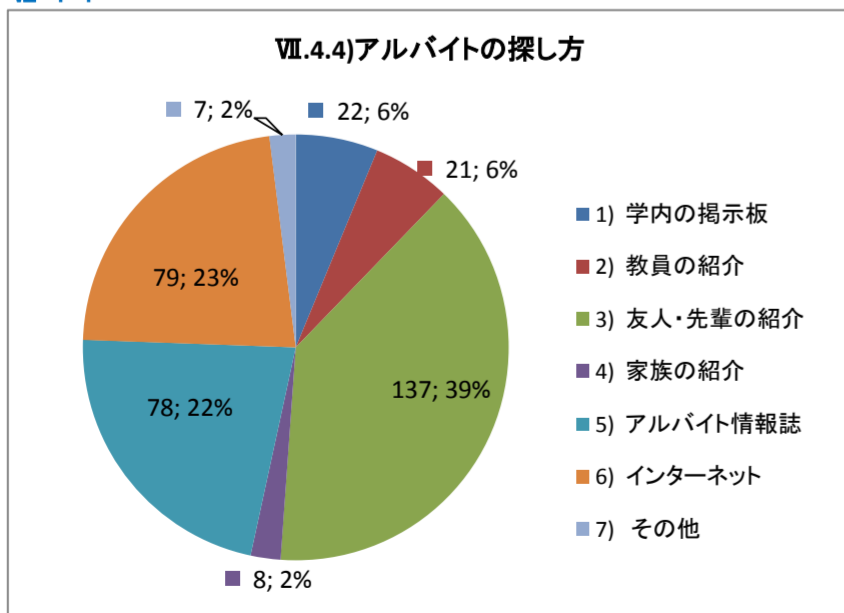
アルバイトの種類は、家庭教師、塾講師、店員、飲食店接客などの割合が大いのは学部生と大差ない。しかし、研究補助や医療・福祉系などの割合が学部生よりもやや多いことから、研究活動をしながら研究補助をしたり、研究に関連する分野でアルバイトをしている大学院生がいる様子が伺える。

1週間当たりの平均従事日数は、3日が最も多く、1日、4日、5日と続き、学部生と同様の結果であった。

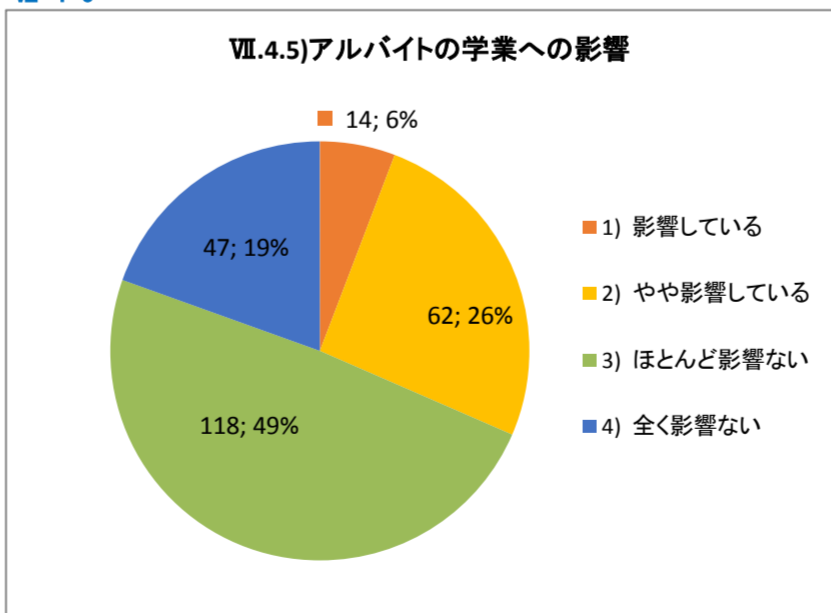
1日当たりの平均従事時間数は、4~5時間未満、5時間以上がそれぞれ30%と多く、3~4時間未満、1~2時間未満と続いた。平均従事時間も学部生と同様に、1日当たりの従事時間が長いことから、週末などに集中してアルバイトをしていることが伺える。

【その他】 アシスタント、イベント系、プールスタッフ、アプリ開発、ブライダルスタッフ、通訳、講演、チラン配り、プログラム調査、集荷場、教育支援、接客、サーバー管理

### Ⅶ-4-4



### Ⅶ-4-5

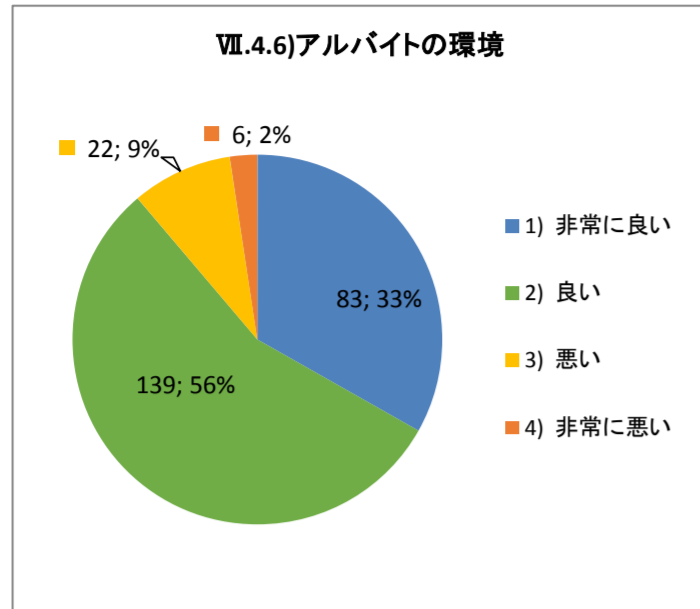


アルバイトの探し方は、友人・先輩の紹介が39%と最も多く、次いでインターネット23%、アルバイト情報誌22%であった。教員の紹介でアルバイトを探したものが6%あり、アルバイトの内容に関する調査項目の「研究補助」に関する質問の回答数と一致することから、教員の紹介で研究補助をしたと推測される。

アルバイトの学業への影響については、「ほとんど影響なし」「全く影響なし」を合わせると88%となるが、「影響する」が6%、「やや影響する」が26%あり、大学院生であっても経済状況やアルバイトの状況、学業への影響について指導が必要な学生がいることが分かった。

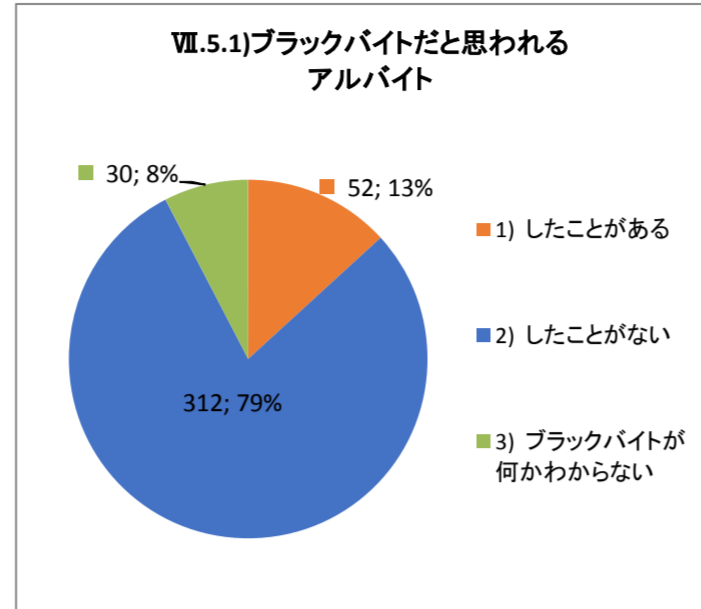
【その他】 コネ、医局からの派遣、生協、親戚の紹介

VII-4-6

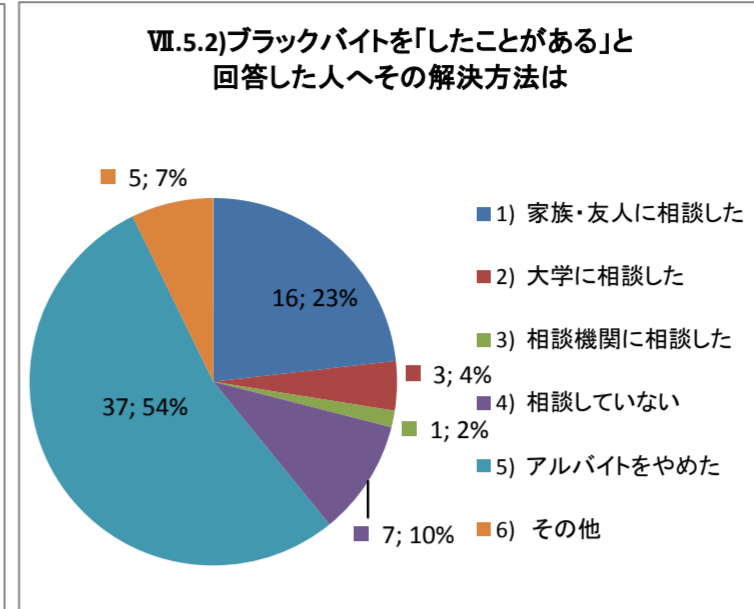


アルバイトの環境は、「非常に良い」33%、「良い」56%と多くの大学院生は環境が良いと判断するアルバイトに従事しているが、「悪い」9%、「非常に悪い」2%と環境が悪いと思いつながらアルバイトに従事している学生がいることが分かった。

VII-5-1.2



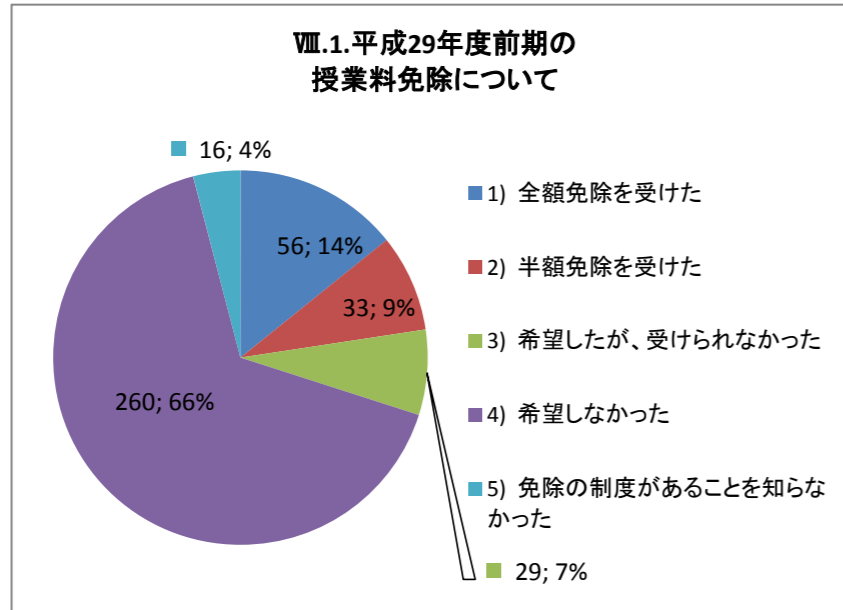
ブラックバイトに関しては、「したことがない」と答えた大学院生が79%と大半を占めたが、「したことがある」と答えた大学院生が13%、「ブラックバイトが何かわからない」と答えた大学院生が8%いた。また、ブラックバイトの経験がある大学院生の解決方法では、アルバイトをやめたり、家族・友人・大学など誰かに相談し対処しているのが殆どであるが、「相談していない」と回答したものが数名いることから、ブラックバイトの被害を予防するための指導や教育の必要性が示唆された。





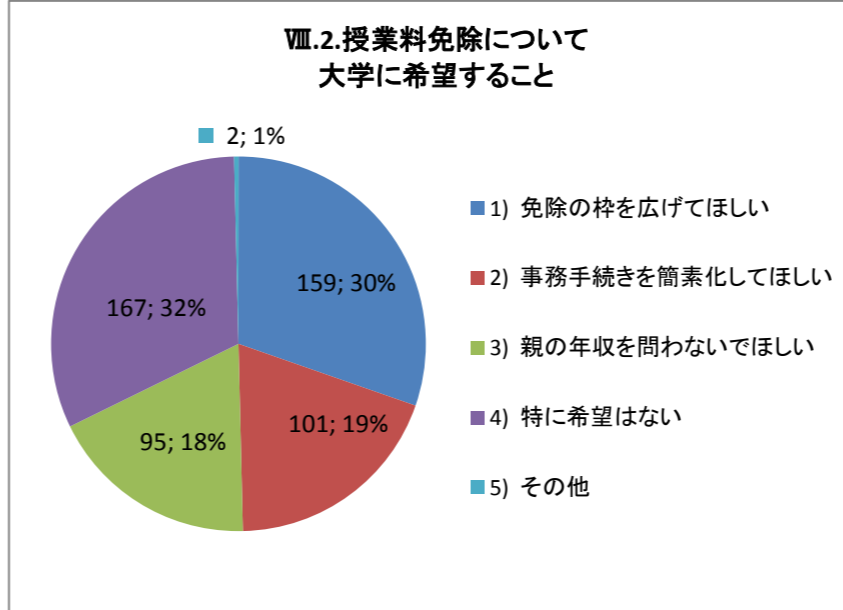
## VIII. 授業料免除に関する事項

VIII. 1.



「希望しなかった」人の割合が学部生の場合(73%)と比べて少ないのは自然であろう。例えば、大学院に進学するものと想定して財政的な準備が図られているケースは少ないと考えられる。

VIII. 2.

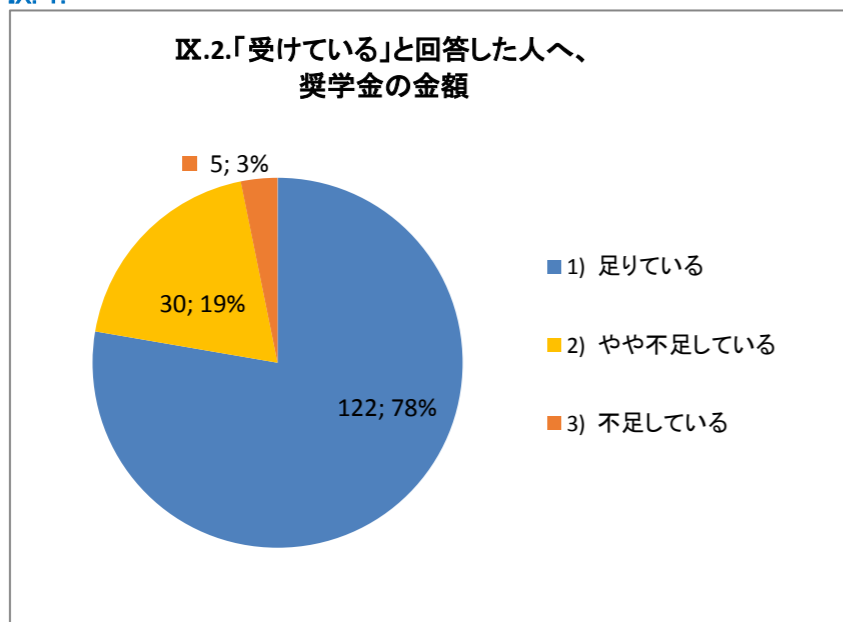


【その他】  
子育て家庭への援助、  
採用基準が不満

複数選択可であることに注意。101名が事務手続きの簡略化を望んでいる。授業料免除は、趣旨が異なるとは言え給付型奨学金と同等の経済的効果をもたらす。したがって、それなりの説明責任を果たすことが求められて当然である。申請者は、前回申請分の写しを取っておく等、簡素化につながるような工夫を自身で行って欲しい。

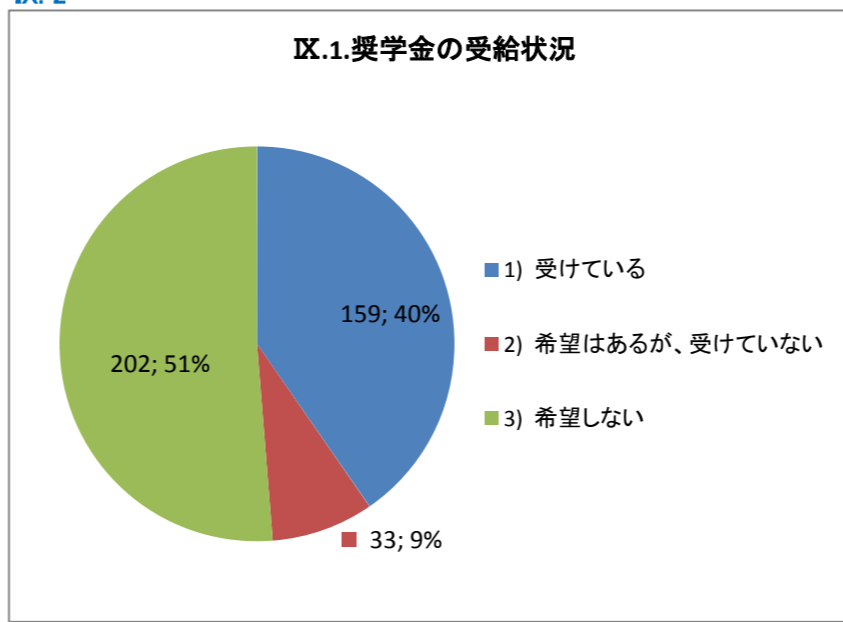
## IX. 奨学金(貸与型)に関する事項

IX. 1.



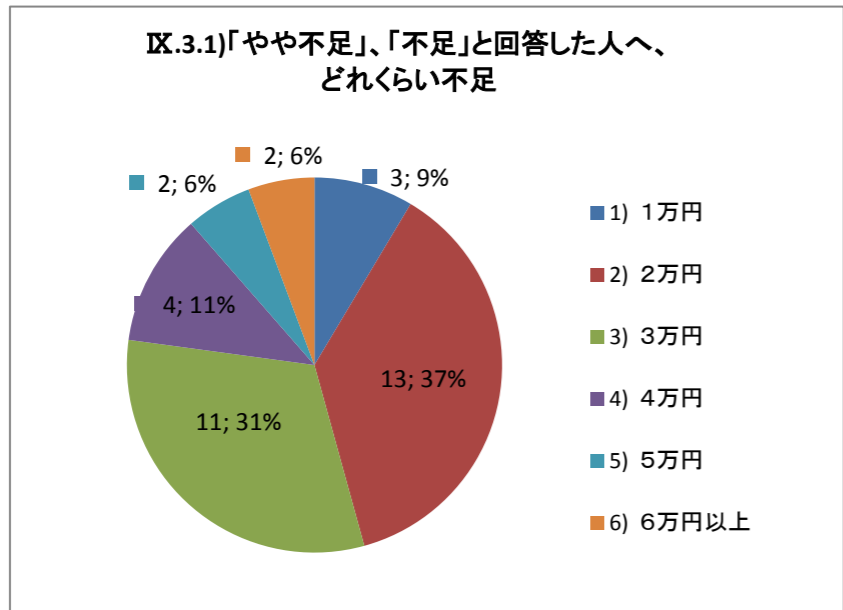
「受けている」人の割合が学部生の場合(47%)と比べて少ないのは、大学院では学力基準が重視されるためであろうか。一方で、「希望しない」人の割合が学部生の場合(46%)と比べて多い理由はこのデータだけでは不明のため推測だが、例えば、大学院進学が実現するような家庭は標準的な過程と比べてある程度経済的に有利な傾向にある、といった仮説が有り得るかも知れない。

IX. 2.



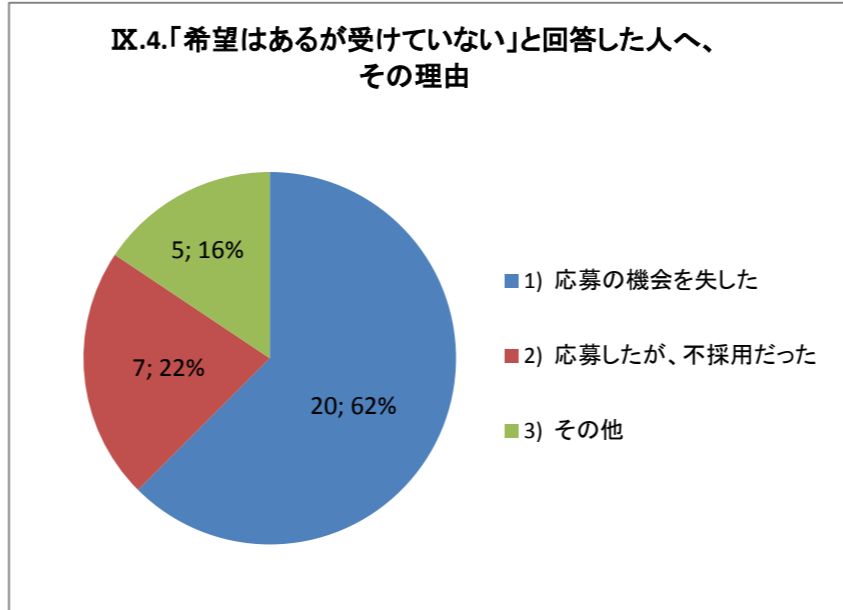
「足りている」人の割合が学部生の場合(89%)と比べて少ないのは、家族からの支援への依存度の低さも示唆していると思われる。

IX. 3. 1)



2~3万円程度の不足であれば、節約で乗り切ってもらえればと思う。返済のことを考えれば、その努力の価値は十分ある。

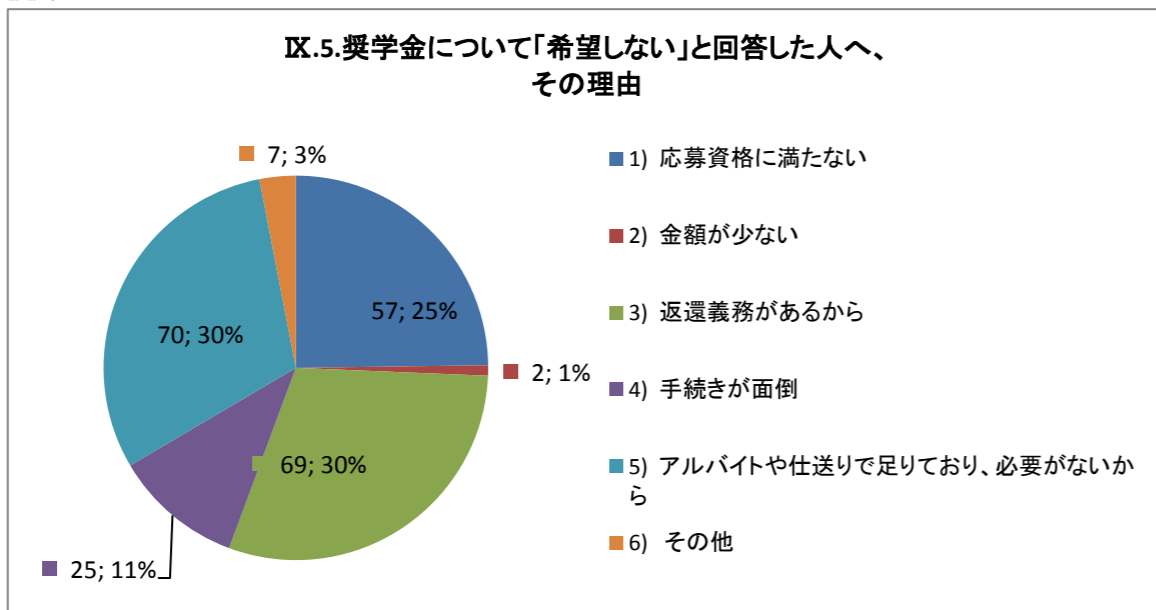
IX. 4.



【その他】  
返済のこと

希望がありながら「応募の機会を失した」人が少なくない。必要度が高い人は、申請に係る情報を積極的に入手して欲しい。

IX. 5.

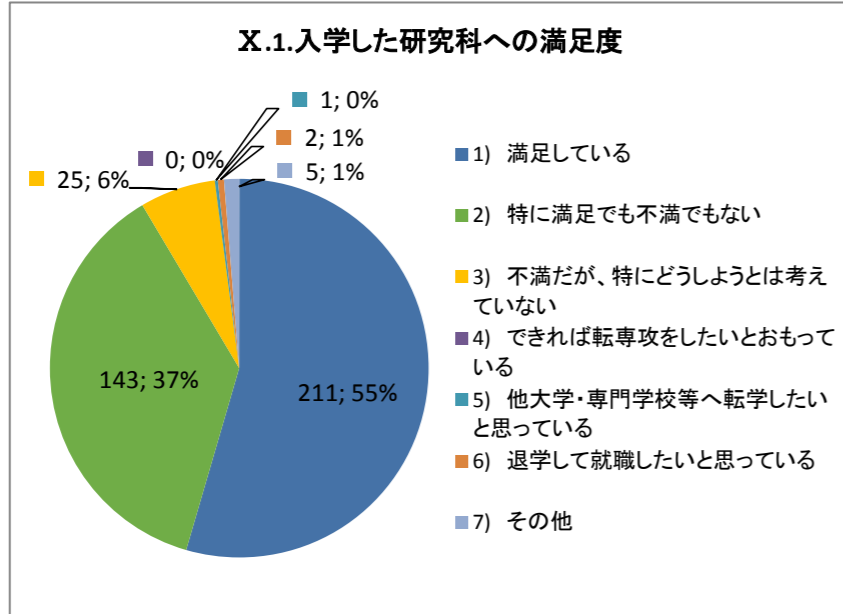


【その他】  
授業料免除を受けているから、社会人で収入があるため、留年のため、奨学金打ち切り

返還義務があるとの認識は適切だが、それに加えて、貸与型奨学金であっても種類によってはある状況の下で返還が免除される場合があるということも知っておいてもらいたいものである。

## X. 学業に関する事項

X-1

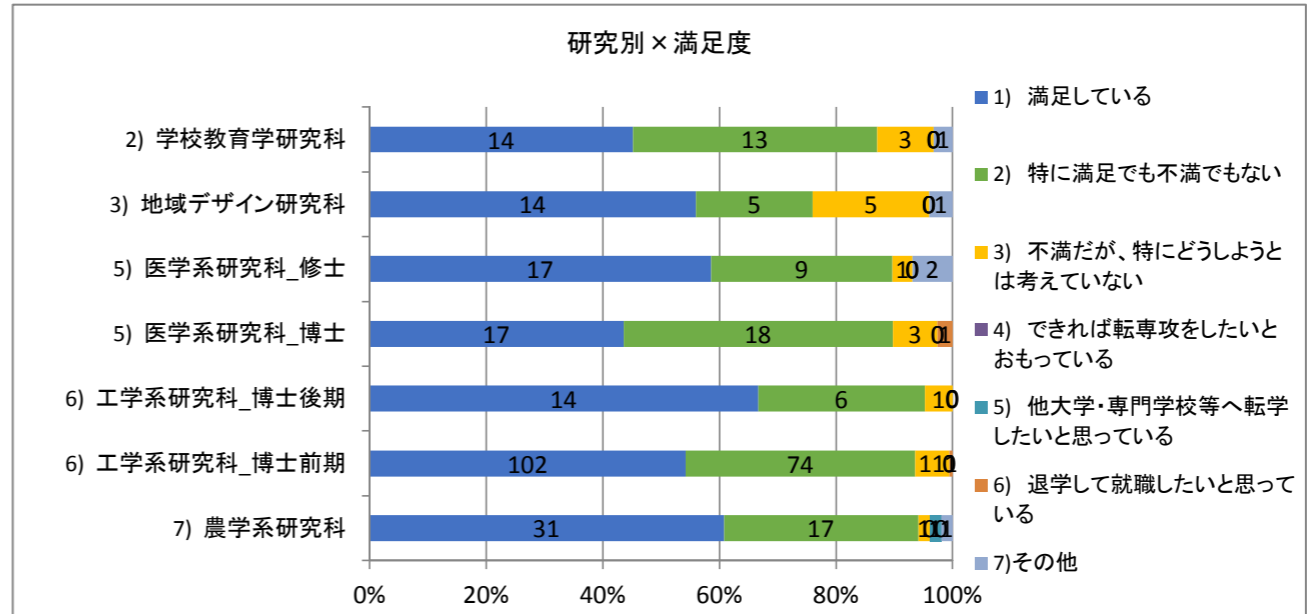


学部から大学院への進学は、大学院生自身の意思(意向)が圧倒的に強く反映されていると思われるため妥当である。

【その他】

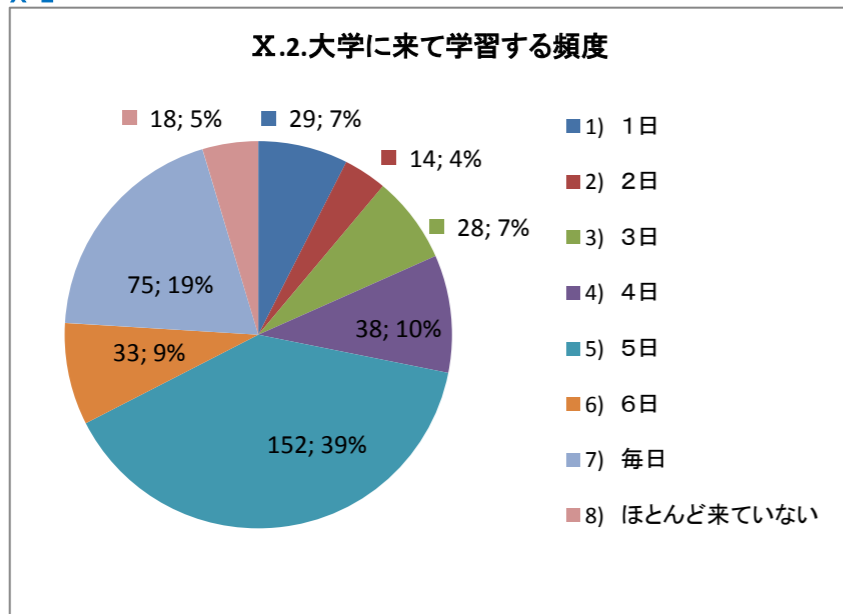
5を考えたことはあるが、今は考えていない、退学検討中、10月入学のため、まだわからない、単位を足るため、専門と関係ない授業がちょっと多い、研究室を変更したいと思っている

研究科x満足度



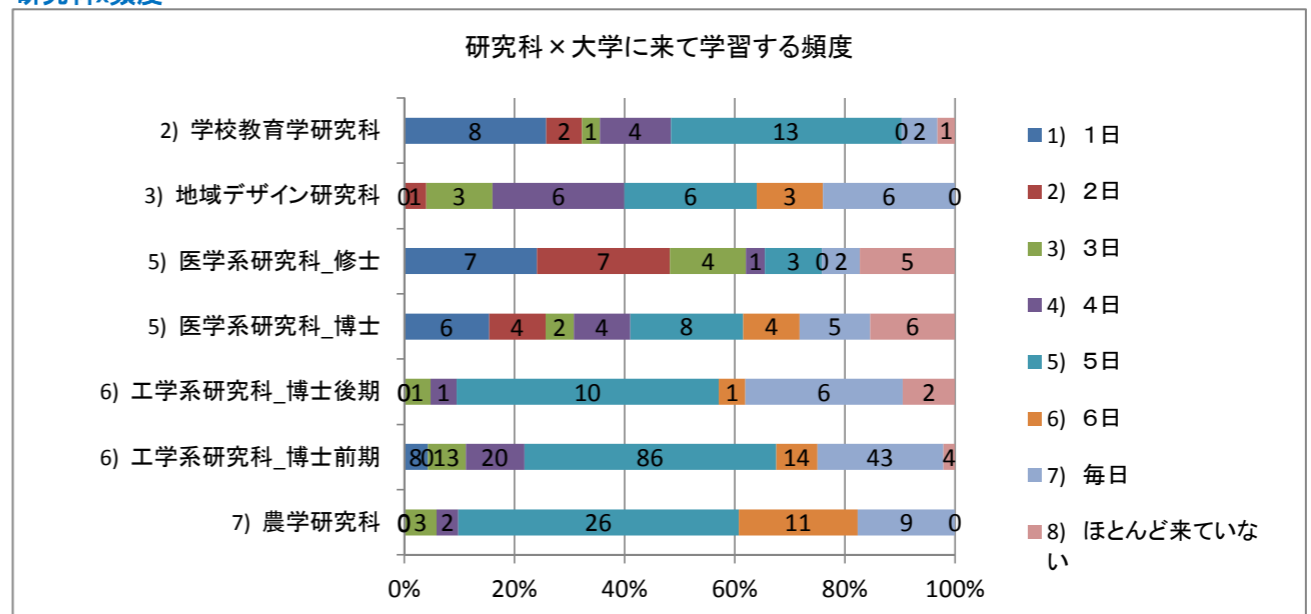
地域デザイン研究科や学校教育学研究科は、不満を抱えている大学院生の割合が高く、逆に農学研究科は満足度が高いことがわかる。

X-2



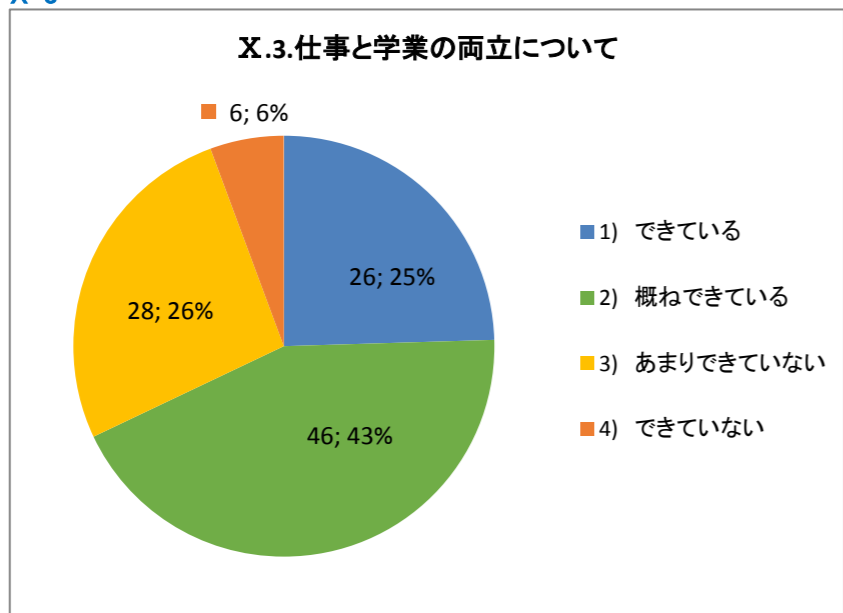
大学に来る頻度は学問分野によって全く異なるため、研究科別のクロス集計を参照。

研究科x頻度



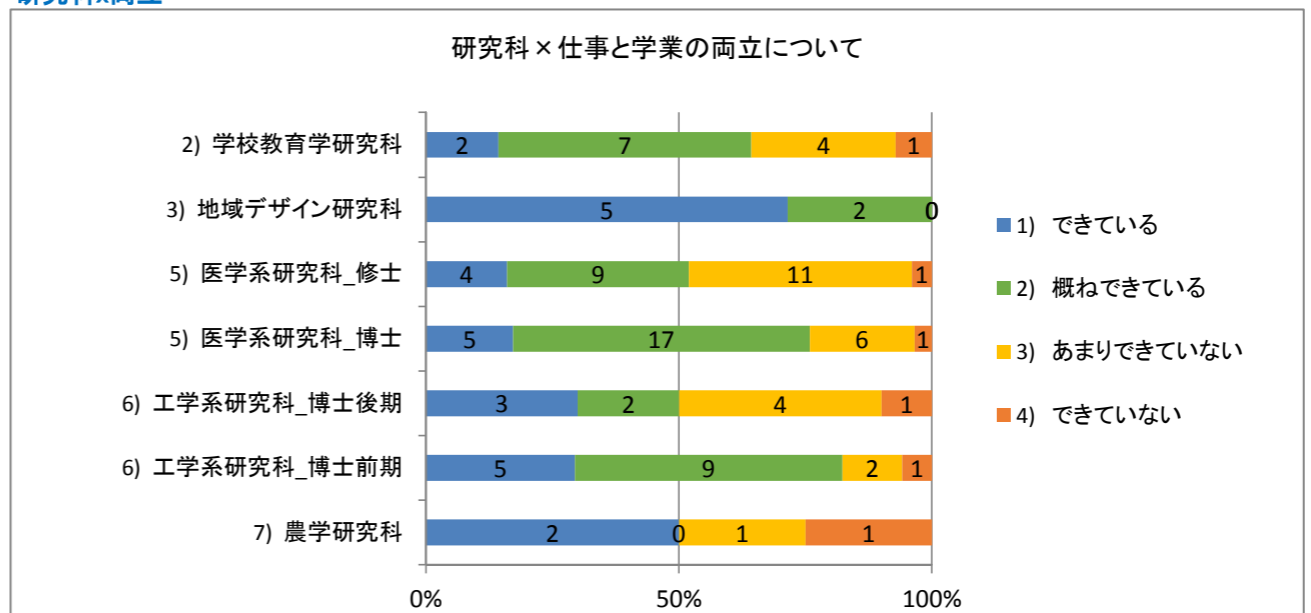
多くの学生が、週のほとんどを大学に来て学習している工学系研究科や農学研究科のようなところもあれば、学生によって大学に来る頻度がバラバラな研究科も見られた。各研究科の特徴を表していると思われる。

X-3



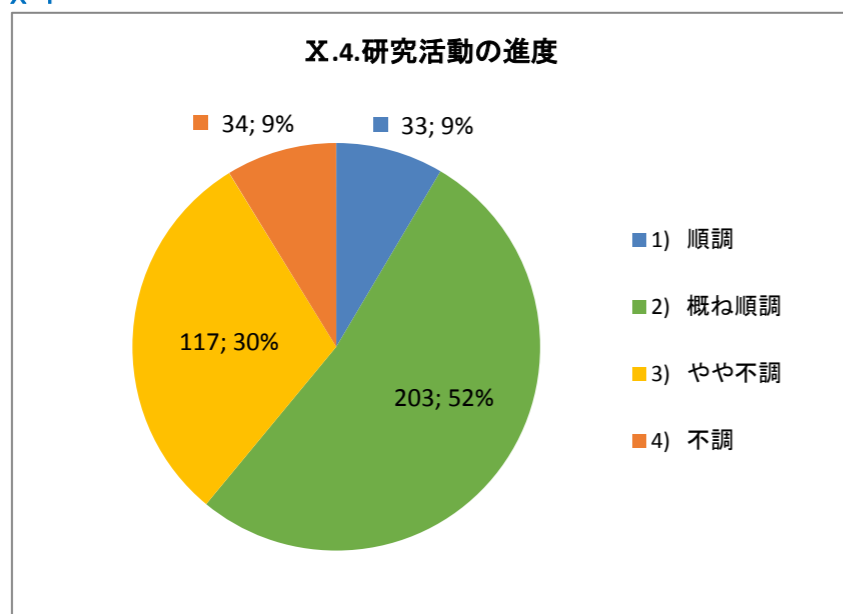
研究科全体で仕事と学業の両立ができていない学生の割合が、3割を超えていることに注意を要する。

研究科x両立



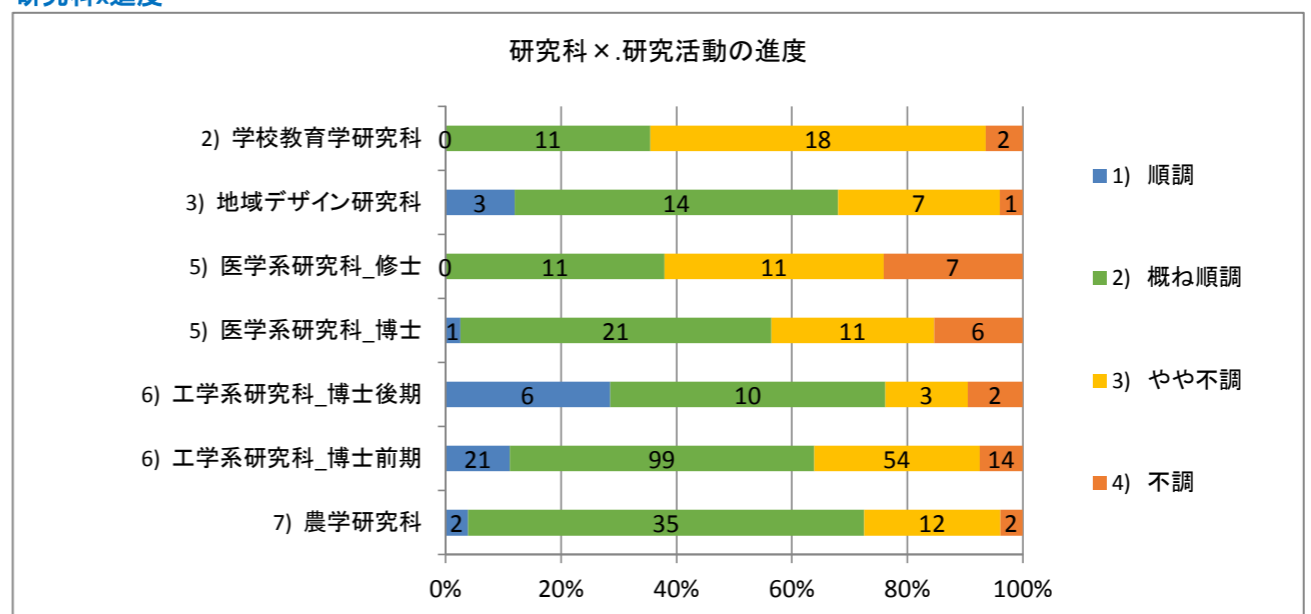
絶対数が少ないため、コメントは難しい。

X-4



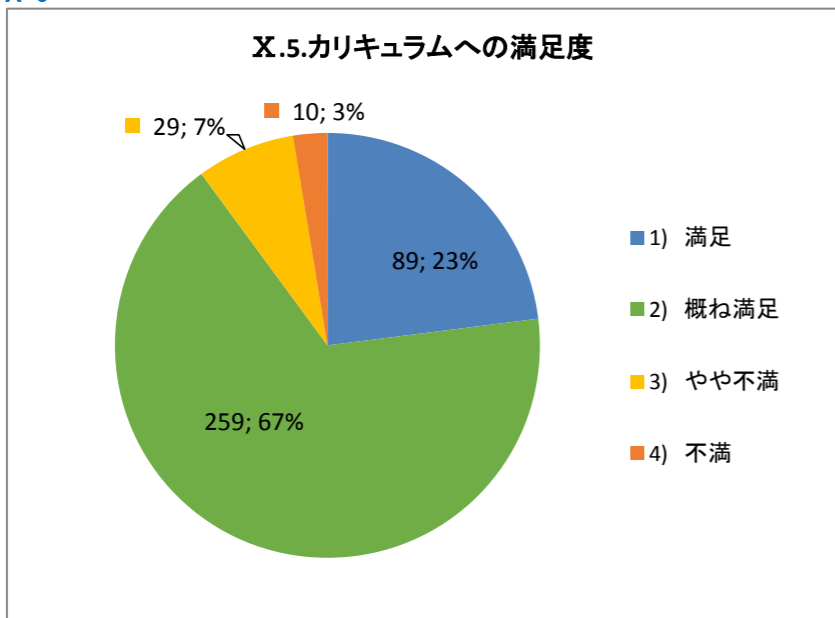
研究とは「なかなかうまくいかないもの」という認識があるが、82%もの学生が「順調」または「おおむね順調」と回答したことは、驚きである。何をもち「順調」と判断したのか興味を持たれる。

研究科x進捗



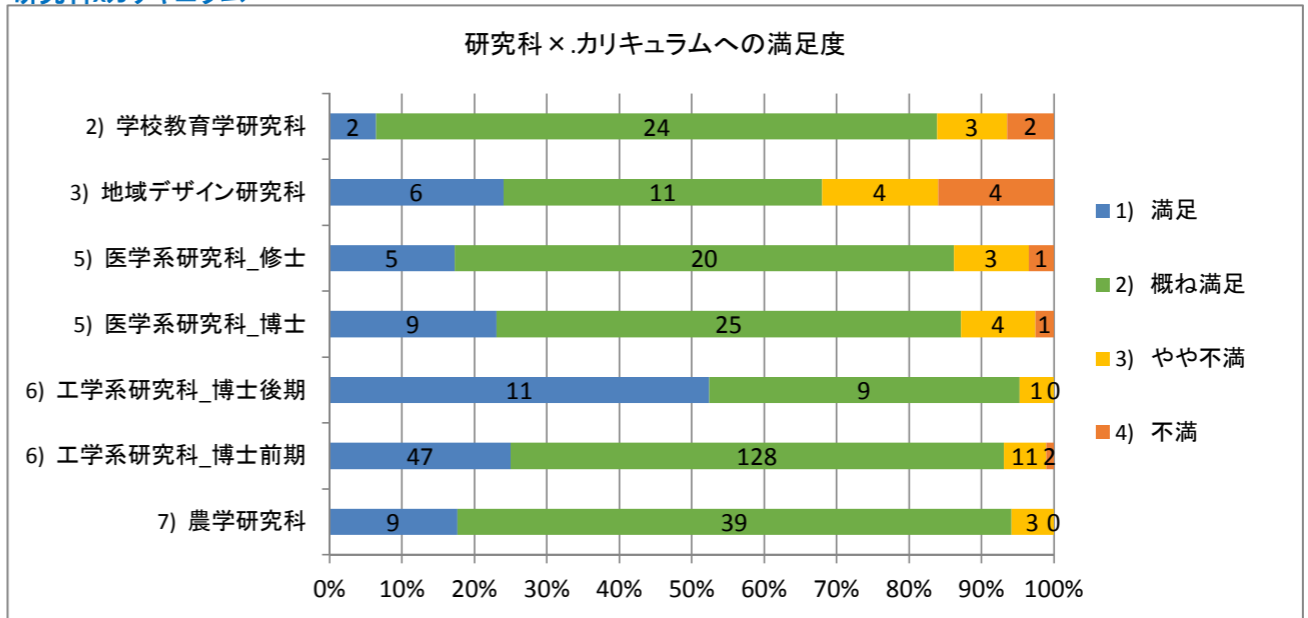
学校教育学研究科と医学系研究科(修士)の場合は、相対的にはあるが、研究が順調でない大学院生の割合が高かった。

X-5



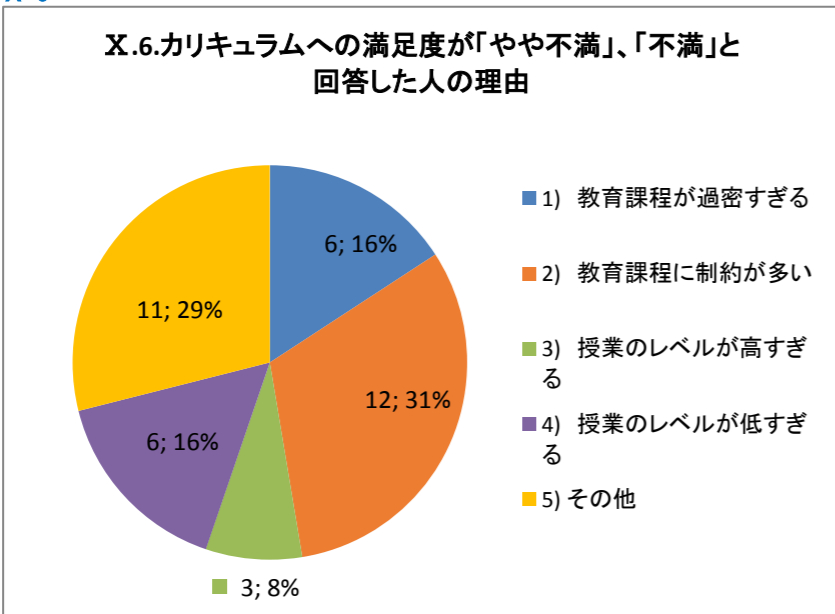
全研究科を通して、カリキュラムへの満足度は高かった。

研究科xカリキュラム



満足度工学系研究科(博士後期)を除いて「概ね満足」が最も高い割合になった。満足度が高いことは喜ばしいことであるが、「概ね」がとれない理由も気になるところである。

X-6

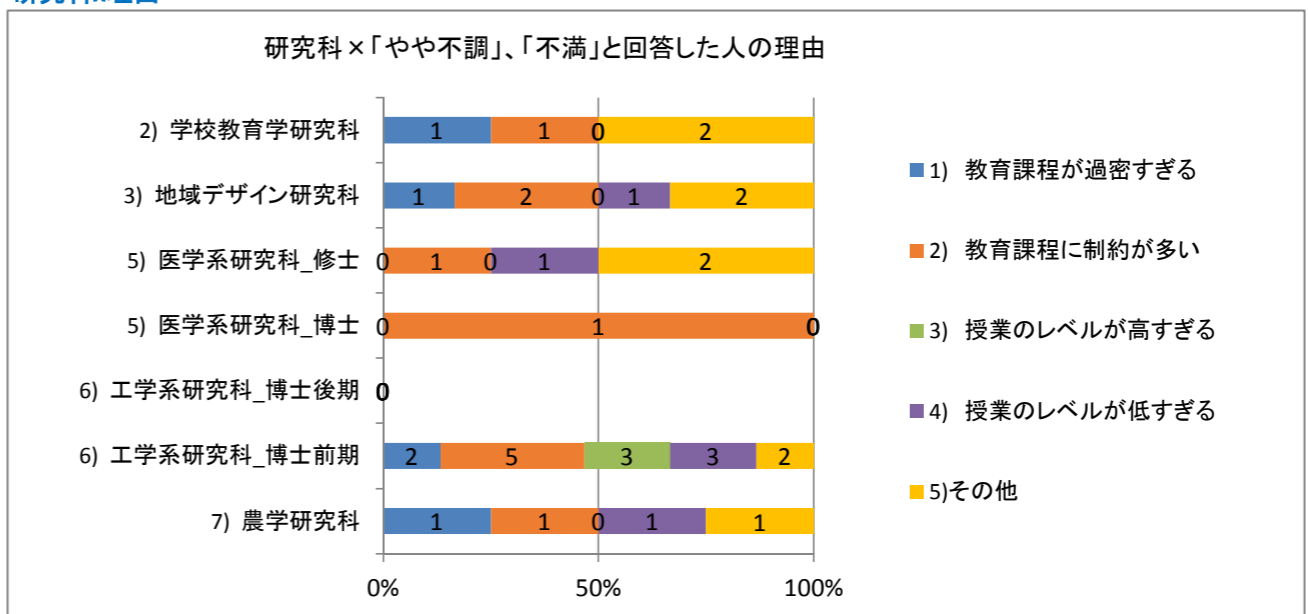


絶対数としては少ないが、授業のレベルに不満を抱いている大学院生の割合が高いことは注目に値する。

【その他】

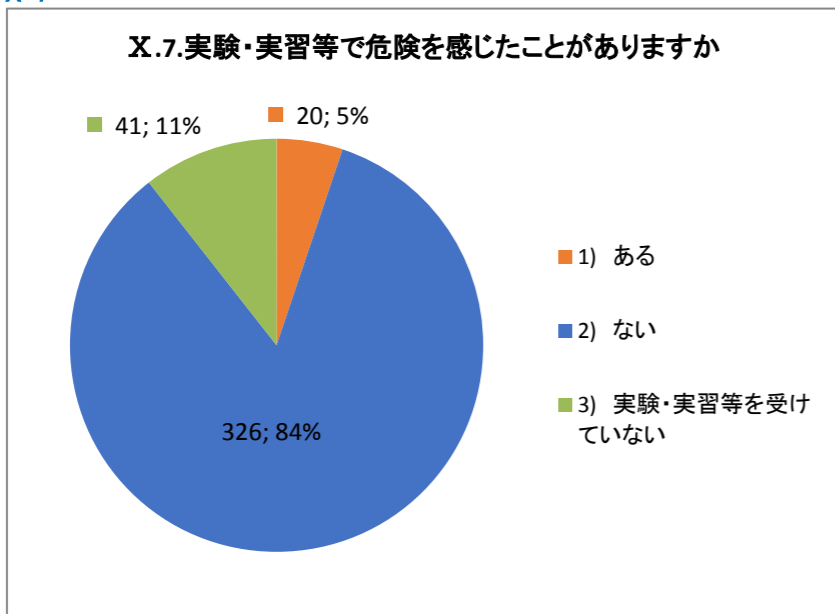
- ・専攻の授業の比率を増やして欲しい
- ・必修科目をもっと工夫してもらえたら嬉しいです。せっかくの必修科目ですので、もう少し学生同士が関り合える内容が良いと思います。集中講義として行った研究報告会などは特に必要性を感じませんでした。もう少し学生同士が関り合える内容が良いと思います。
- ・言ってることとやってることに差異があるし、そもそも共通認識が図れてない
- ・やりたいことがやれない
- ・受講できる分野が偏りすぎている(熱力、流体系が多すぎる)
- ・授業が存在しない、授業少ない
- ・研究により具体的にも役立つ講義が受けたい
- ・事前の連絡なく、講義に現れない教員がいる(複数回)

研究科x理由



絶対数が少ないためコメントは難しいが、その他の記載事項には注意を要する。

X-7

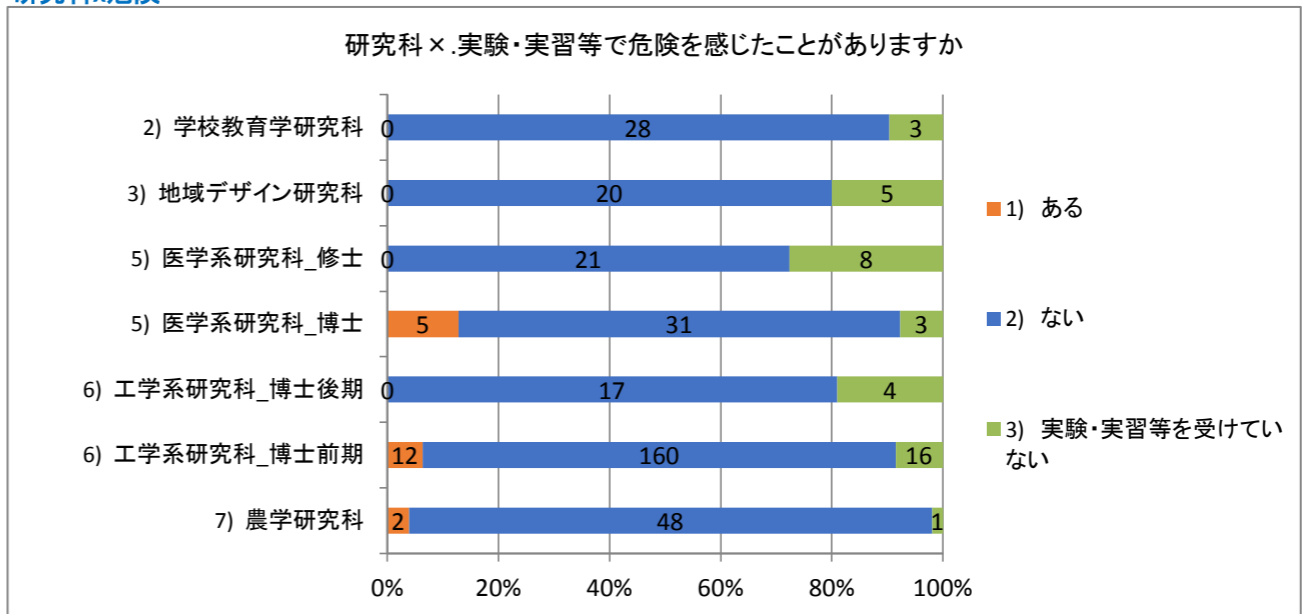


危険を感じた事例については、大学として把握しておく必要がある。

【危険を感じた事例】

- ・学生実験でのTAにおける、補助において
- ・実験で危険な試薬を取り扱うとき、有害な薬品の使用機会がある
- ・発癌性のある物質が肌に付着した。
- ・火(バーナー)の取り扱い。
- ・電流が流れているところを不意に触ってしまって、少し痺れたことがあった。
- ・旋盤を扱っているときに想像以上の切粉が飛んできた

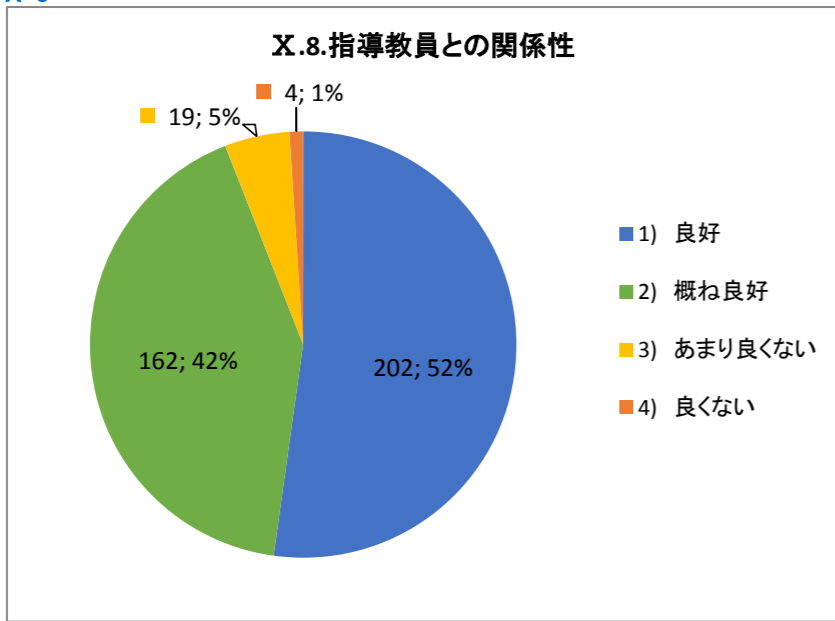
研究科x危険



「ある」と答えた学生が理系に限られていることは、学問の性格を反映してる。

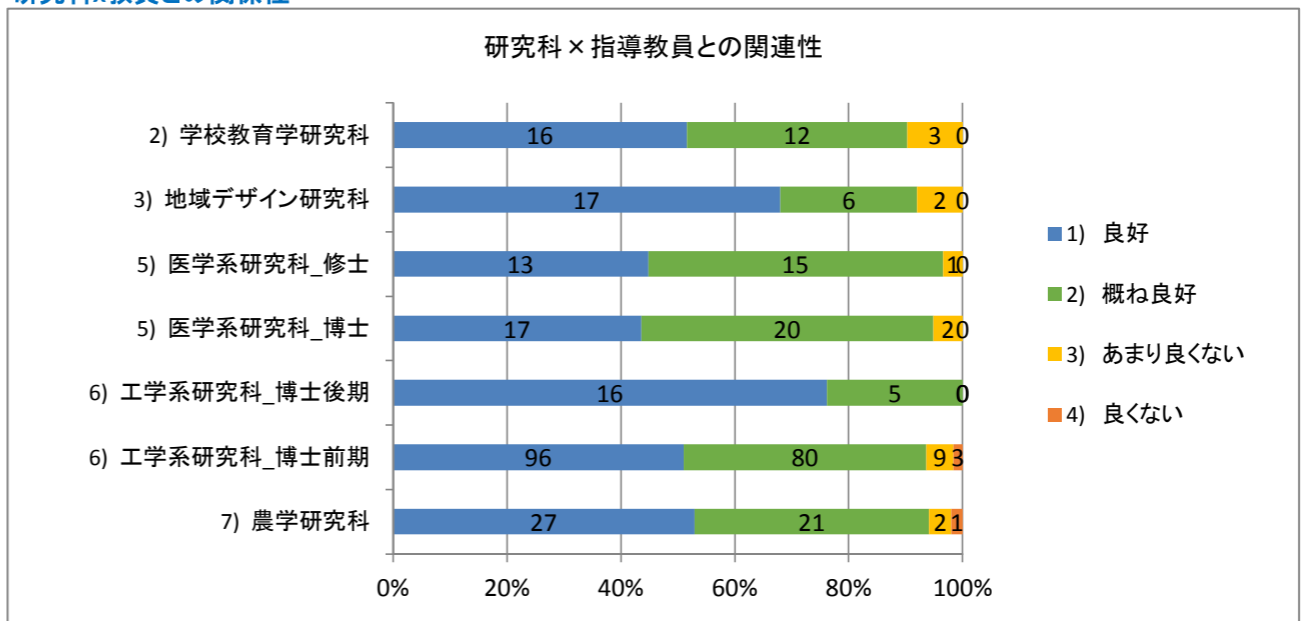


X-8



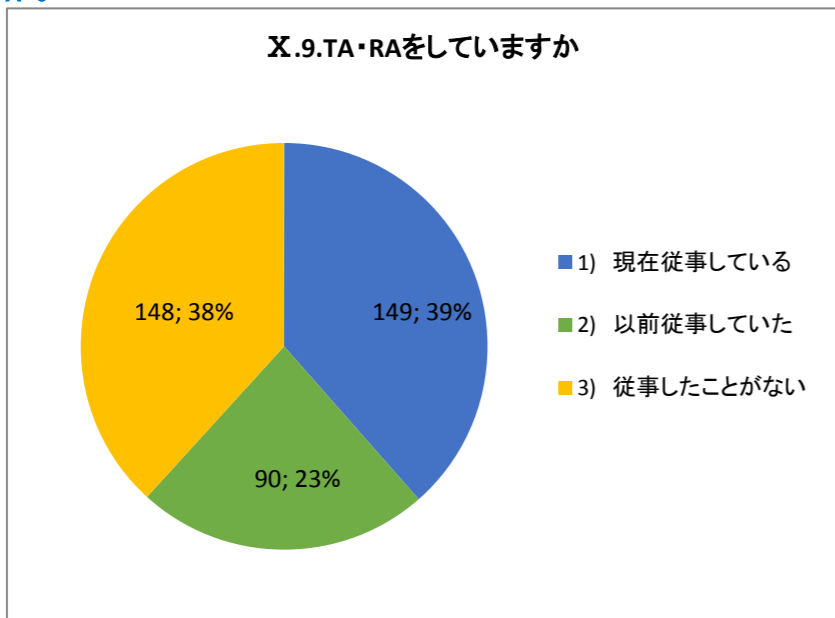
90%以上の大学院生が教員と「良好」または「概ね良好」の関係を築いているのは喜ばしい。

研究科x教員との関係性



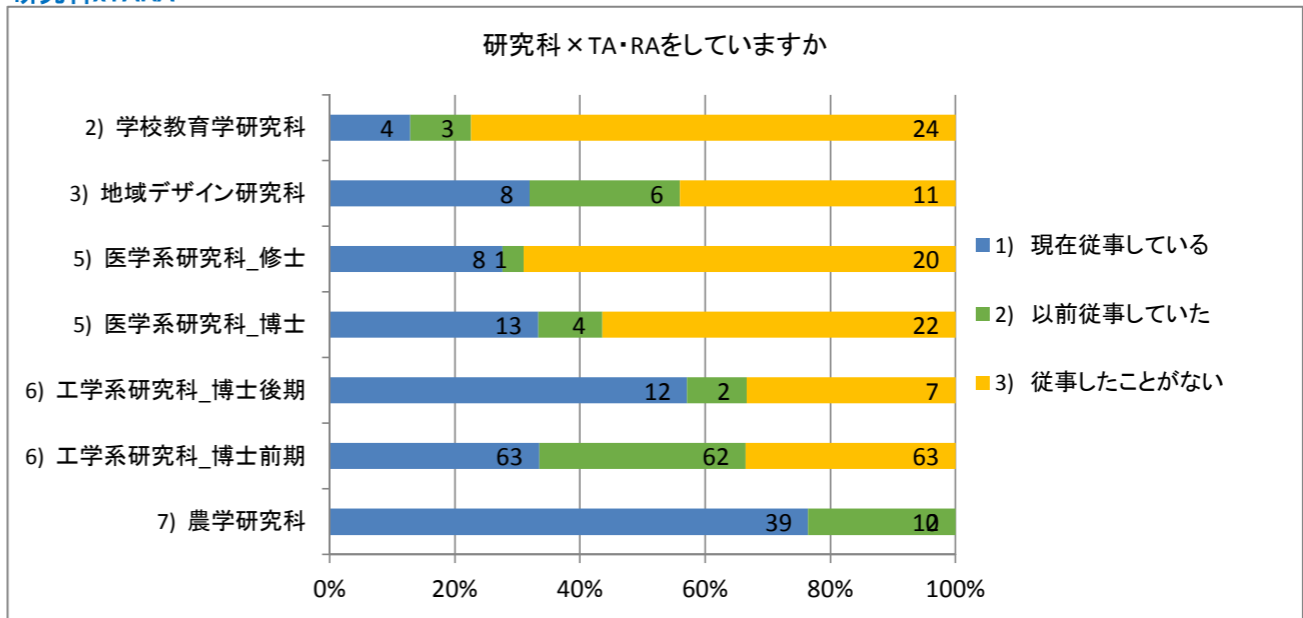
研究科間で大きなバラツキはないと考えられるが、強いて言えば工学系研究科(博士後期)の大学院生が「良好」な関係を築いている割合が高かった。棒グラフ、関連性になっています。

X-9



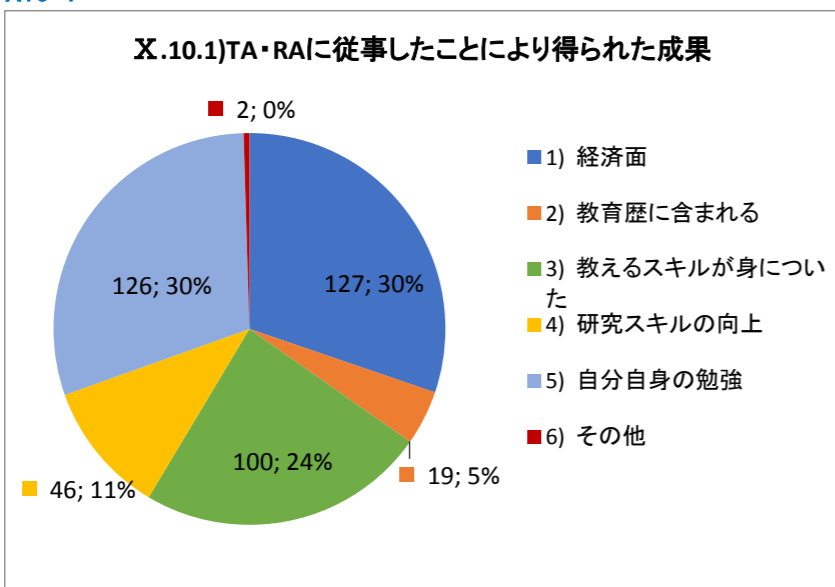
詳細は次のクロス集計を参照。

研究科xTARA



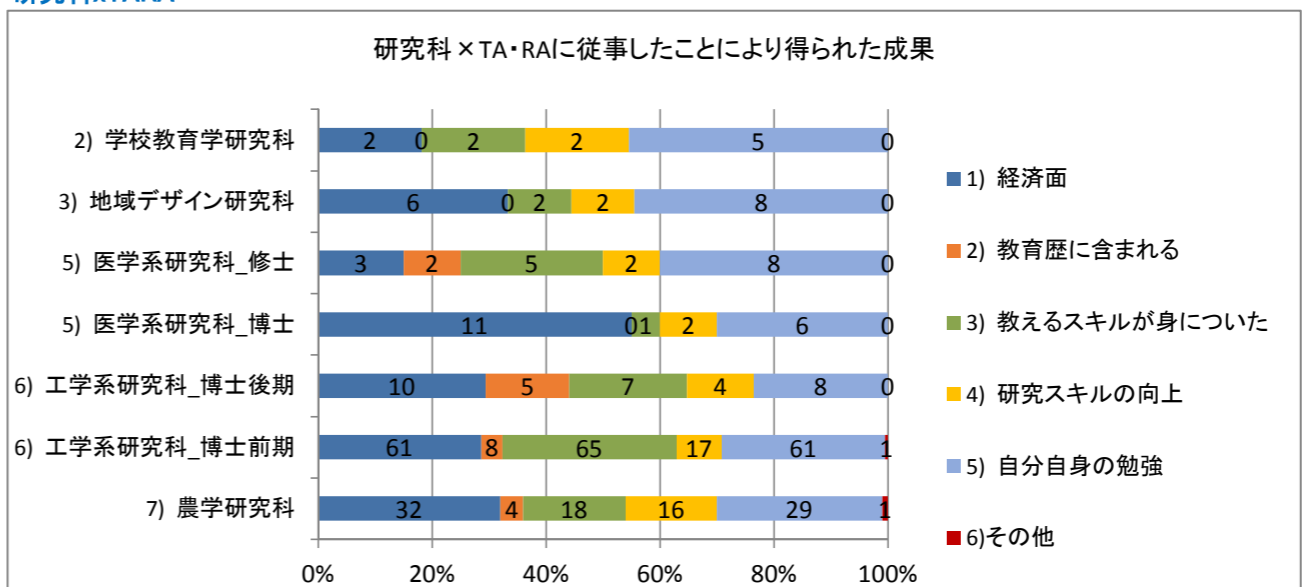
理系の研究科の割合が高い傾向にあり、特に農学部では顕著である。

X10-1



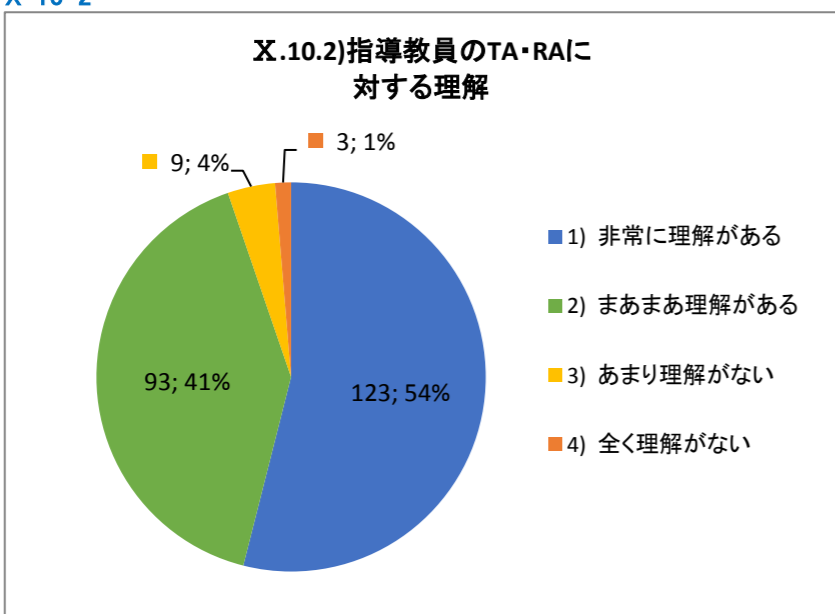
妥当である  
【その他】  
特に得られたものではありません

研究科xTARA



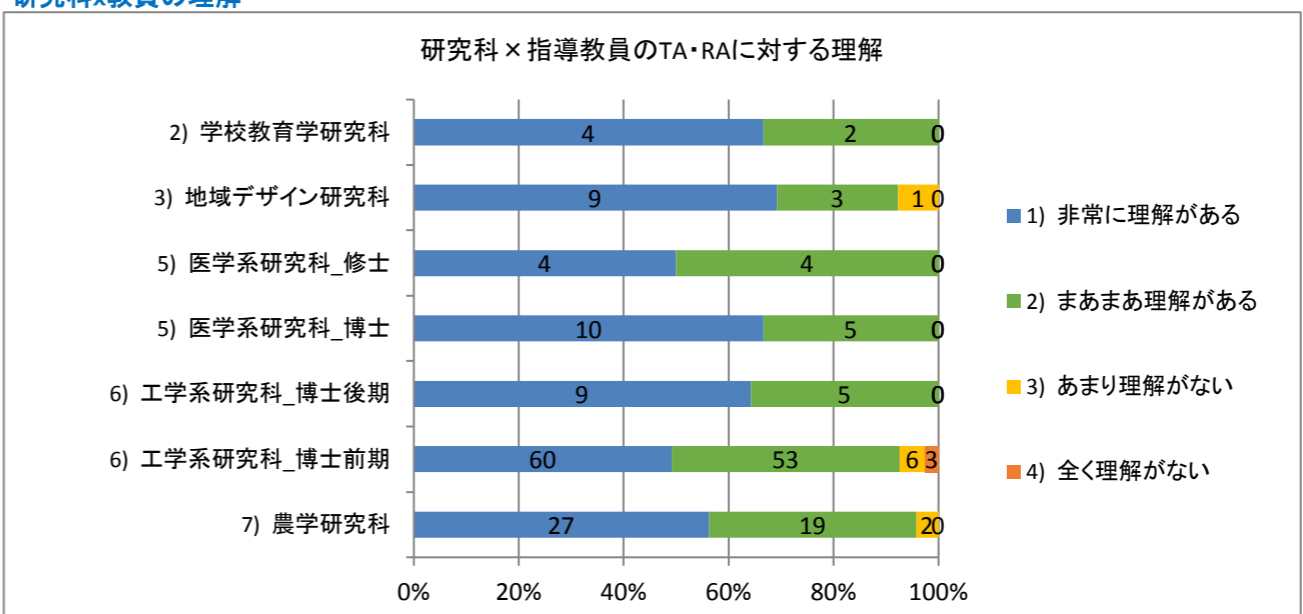
医学研究科において、経済面での成果を挙げる割合が高くなった。その理由に興味もたれる。

X-10-2

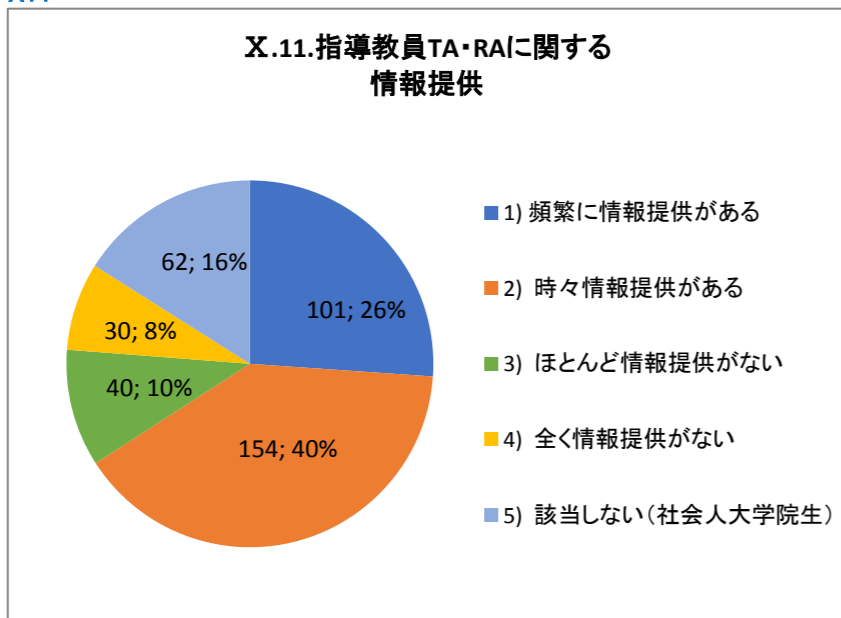


詳細は次のクロス集計を参照。

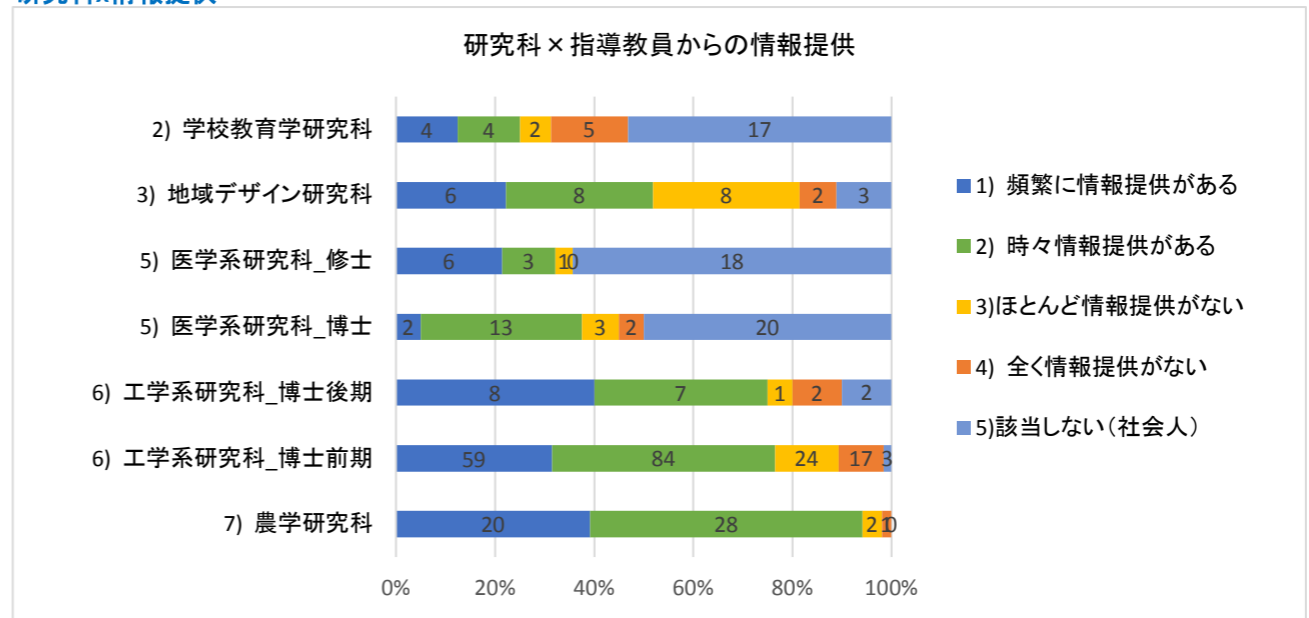
研究科x教員の理解



研究科間で大きなバラツキはないと考えられ、妥当な結果である。



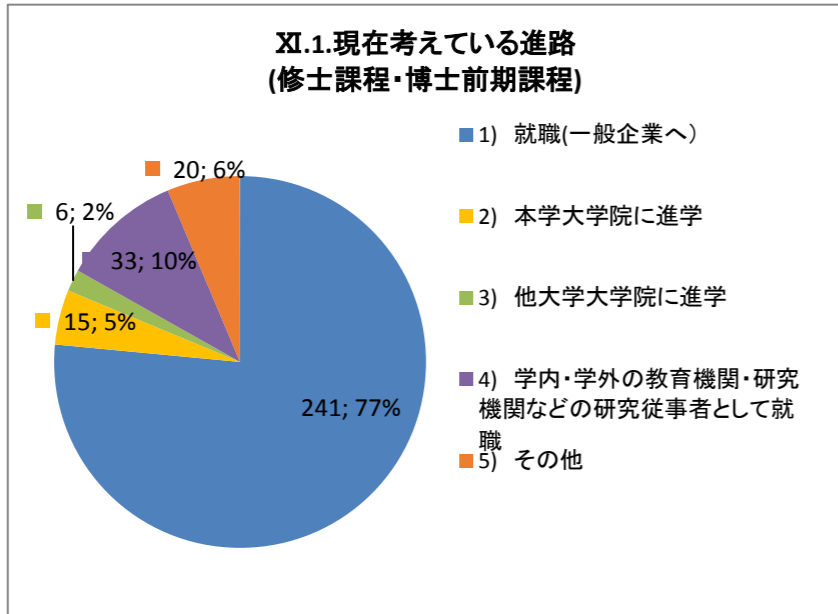
20%近くのTA・RA活動において、指導教員からの情報提供が不足しているという事実は、早急に改善を要する。



学問分野の違いを反映していることなのかもしれないが、地域デザイン研究科では情報提供が不足している割合が最も高くなった。

## XI. 進路に関する事項

### XI. 1.

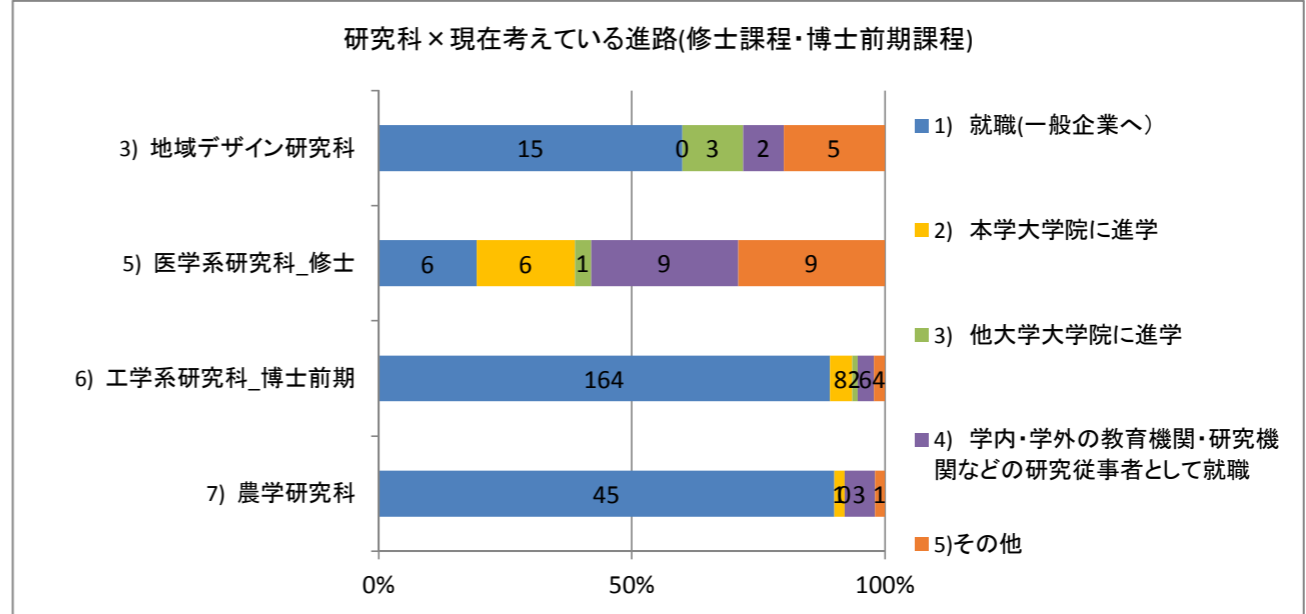


複数選択可であることに注意。研究従事者としての道を選ぶ人たちの実際の進路が大変気にかかる場所である。そのような人たちの半数近くを占める医学系研究科の人達の場合には、漠然とした希望ではなく具体的な選択肢が念頭にある場合が多いのではないかと考えられる。

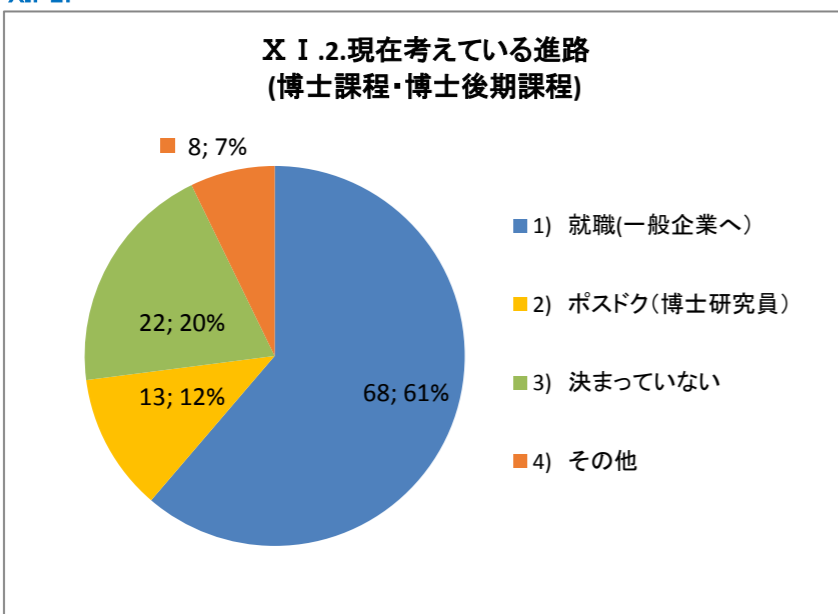
【その他】

・公務員、教職員、教員、現在の職を継続、社会人大学院生、自営業

### 研究科×現在考えている進路(修士課程・博士前期課程)



### XI. 2.

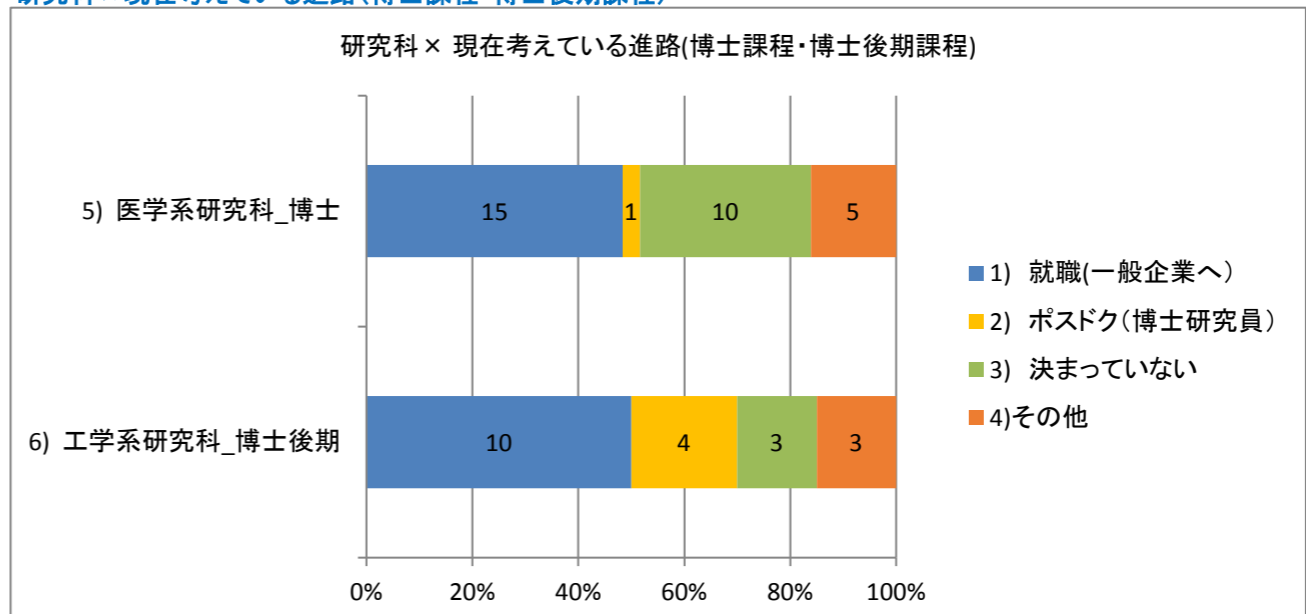


複数選択可でありながら「決まっていない」とする人達の実態が気になります。一般企業も視野に入れている人は多いようだが、研究科別の状況(回答数の意味が明らかではないが)を見ると、博士課程に進学したからには研究職への志も捨てられないという心情が察せられる。

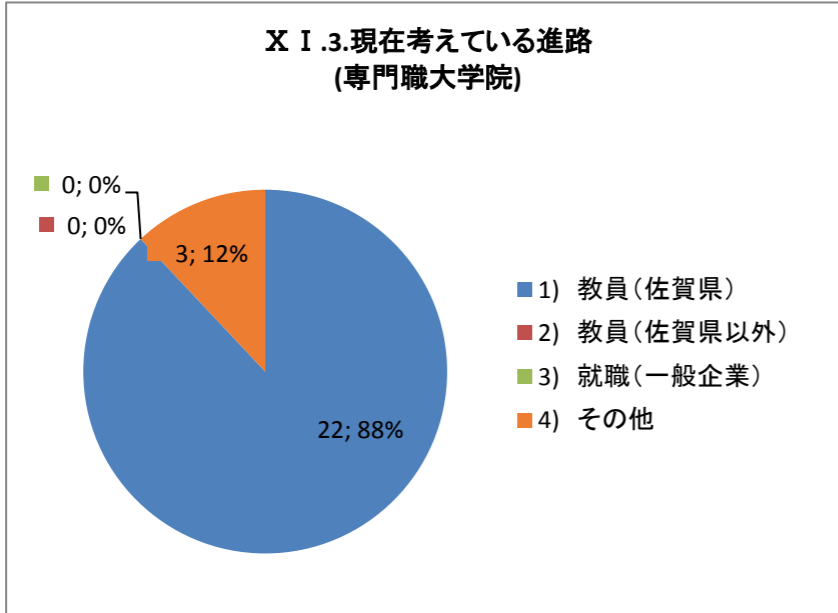
【その他】

・教職、付属病院、医局人事による、留学、社会人

### 研究科×現在考えている進路(博士課程・博士後期課程)



### XI. 3.



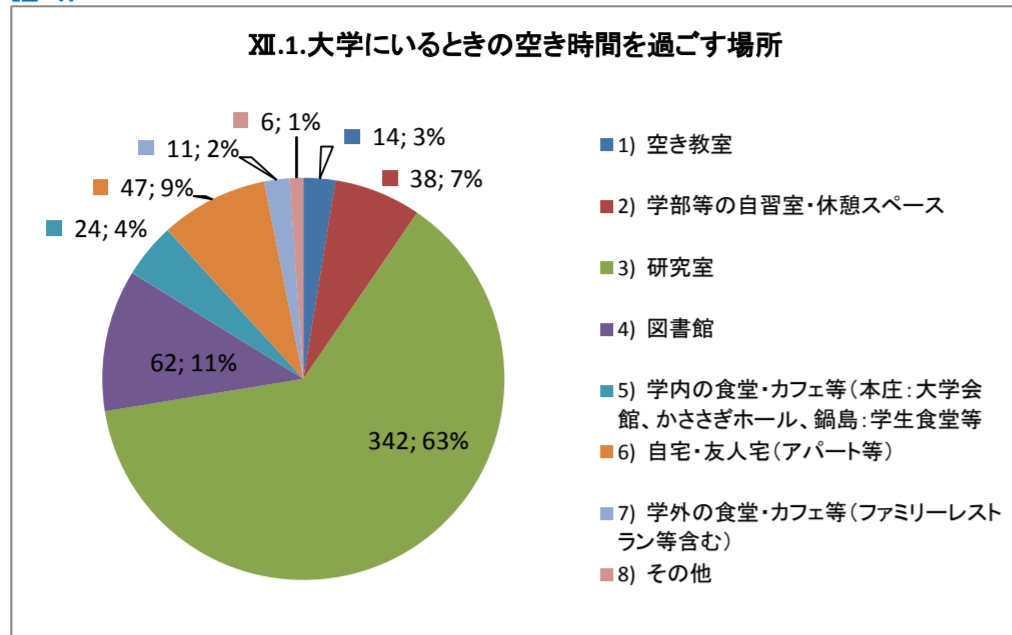
教職大学院在籍である以上、教員という進路は当然である。他に、佐賀県との関係の深さが強調される結果となった。

【その他】

・社会人、現職

## XII. 本学図書館の利用に関する事項

XII-1.

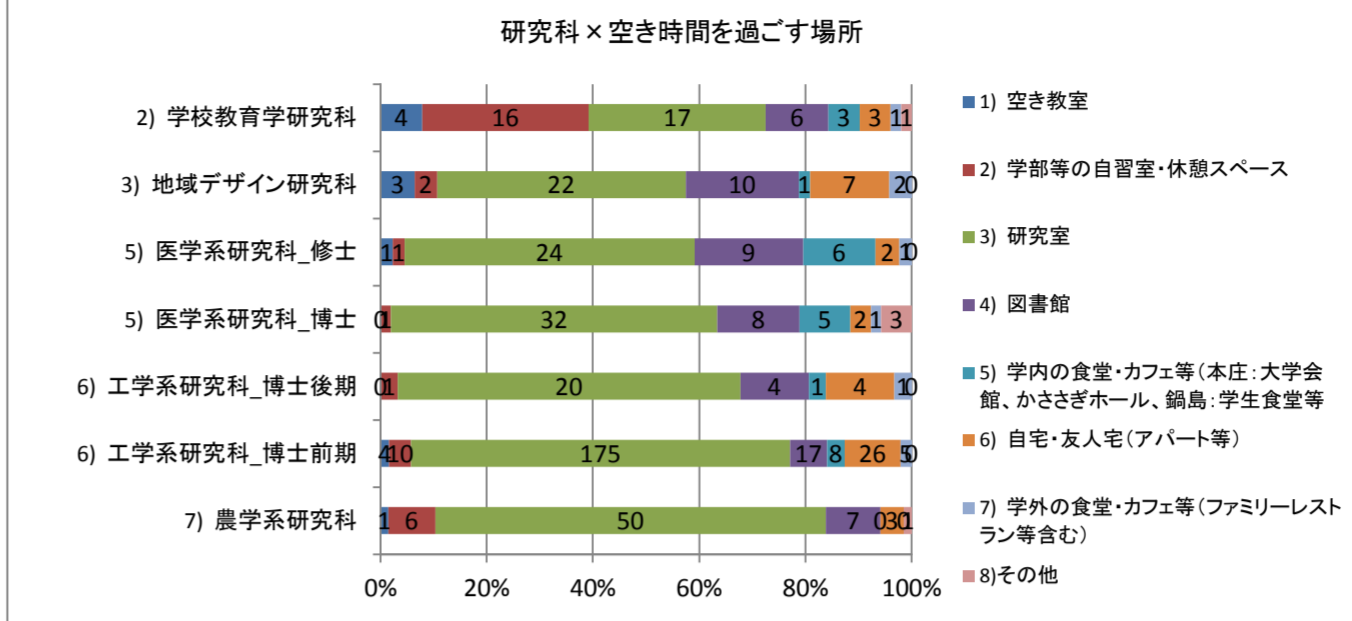


「研究室」が顕著に高く、「図書館」の約6倍にのぼる。

【その他】

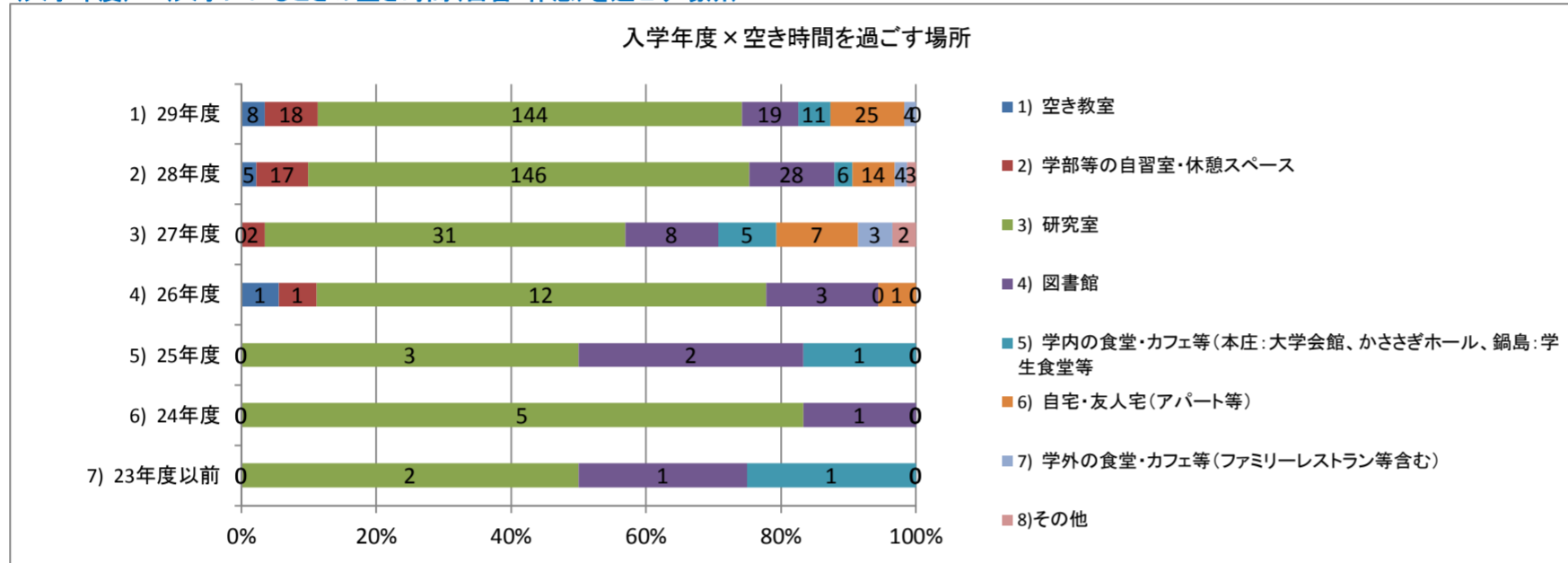
・園場、職場、空き時間ありません

(所属研究科) × (大学にいるときの空き時間(自習・休憩)を過ごす場所)

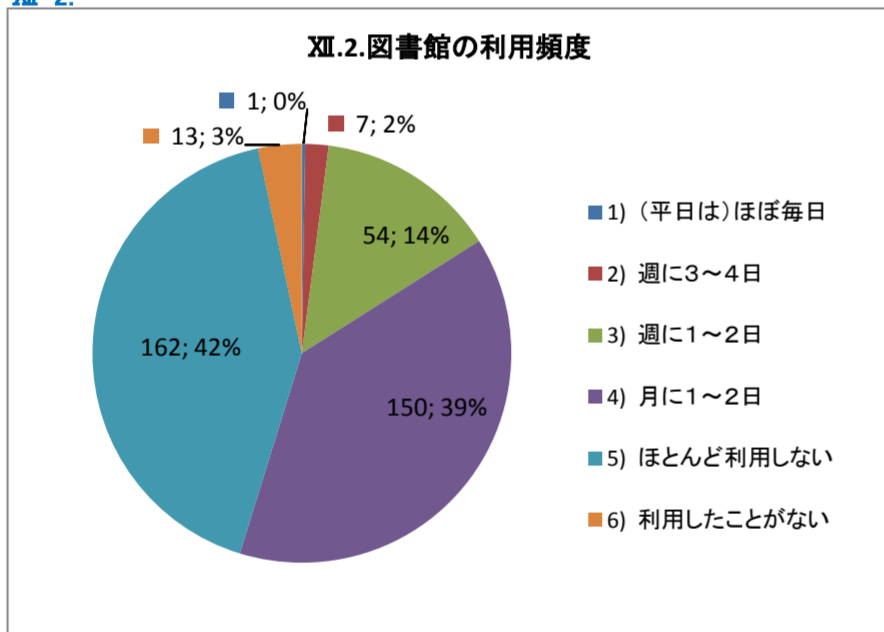


学校教育学研究科は「学部等の自習・休憩スペース」の割合が他科と比較して高い。

(入学年度) × (大学にいるときの空き時間(自習・休憩)を過ごす場所)

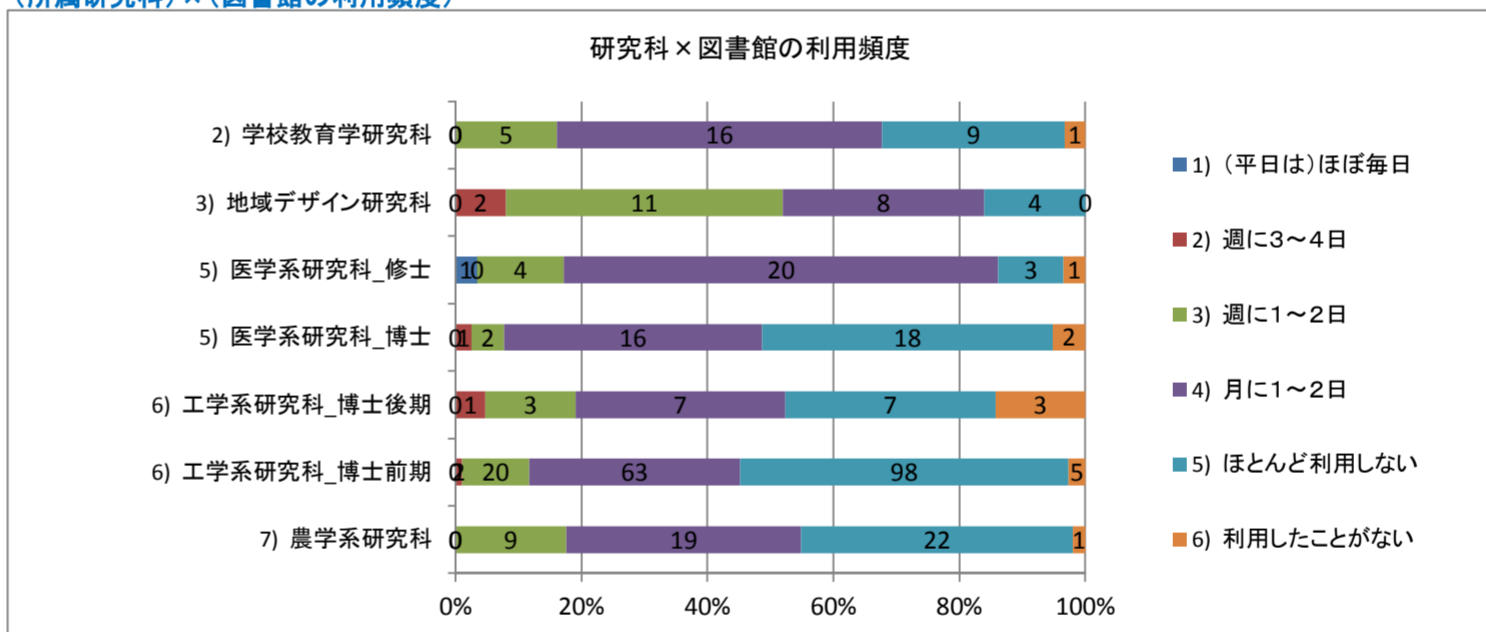


XII-2.



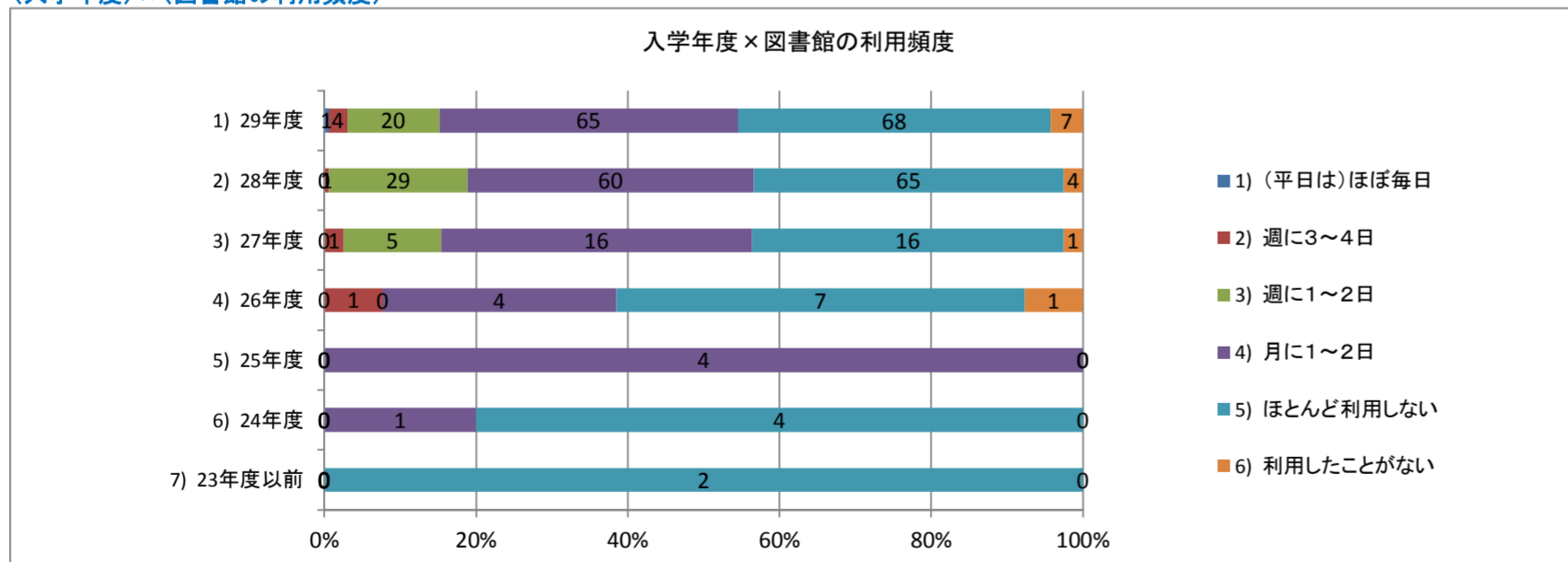
週1回以上の利用が16%と低く、「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」が45%を占めている。研究室があるため、場としての図書館は十分に活用されているとはいえない。

(所属研究科) × (図書館の利用頻度)



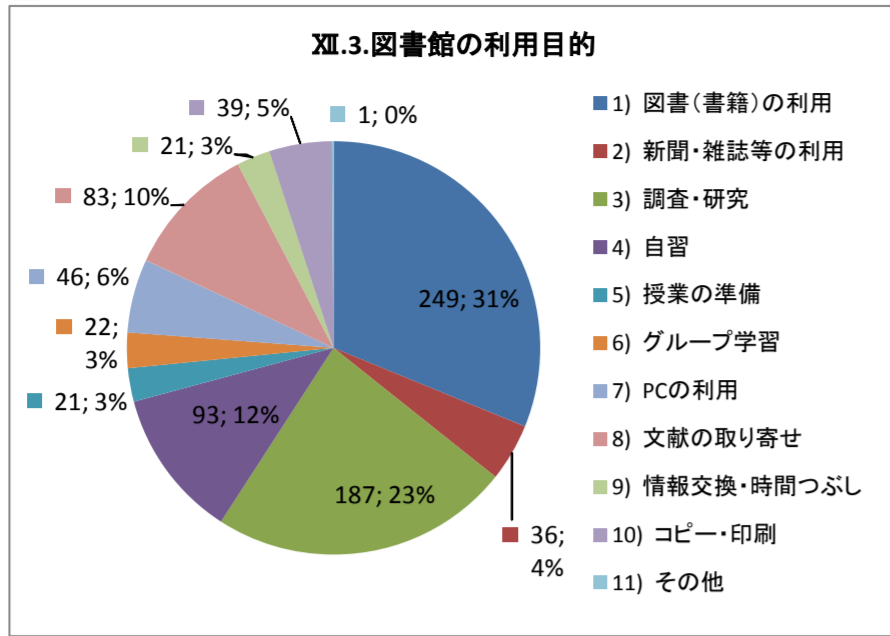
自然科学系の研究科の約半数は「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」に該当する。医学系研究科\_修士のみ、月1回以上の割合が高い。

(入学年度) × (図書館の利用頻度)



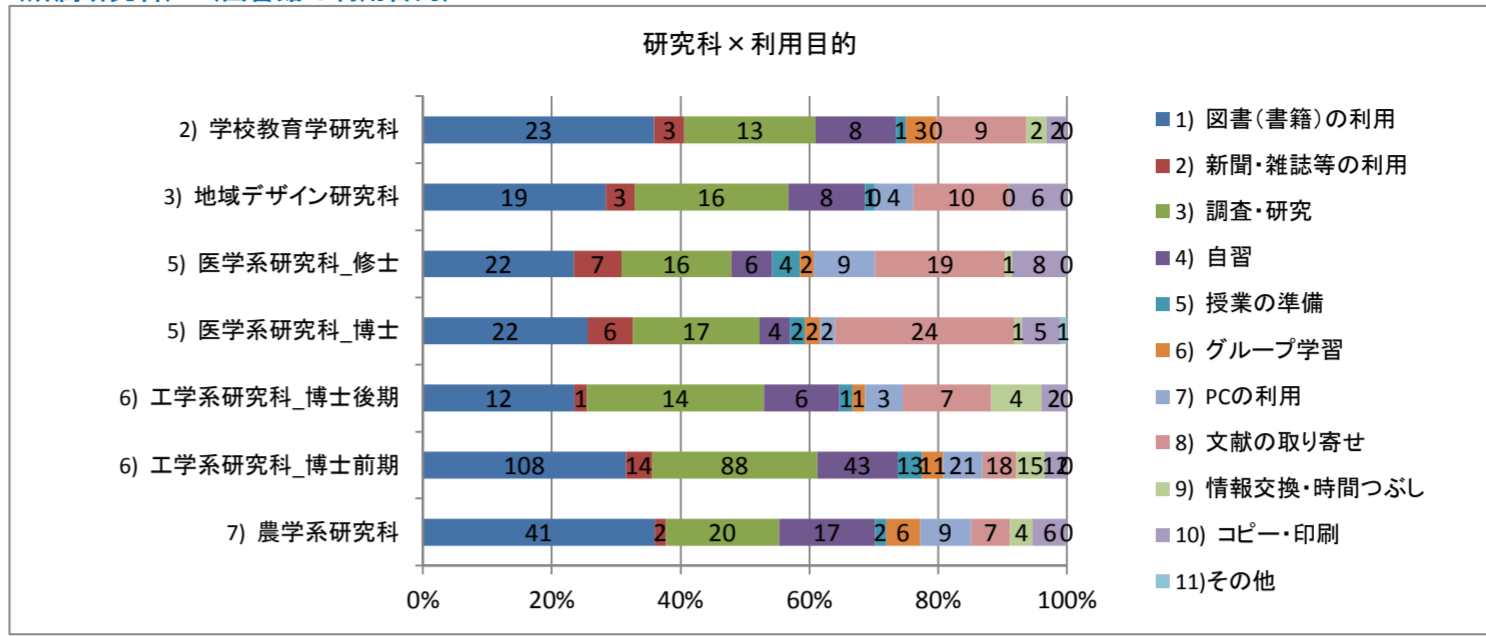


XII-3.



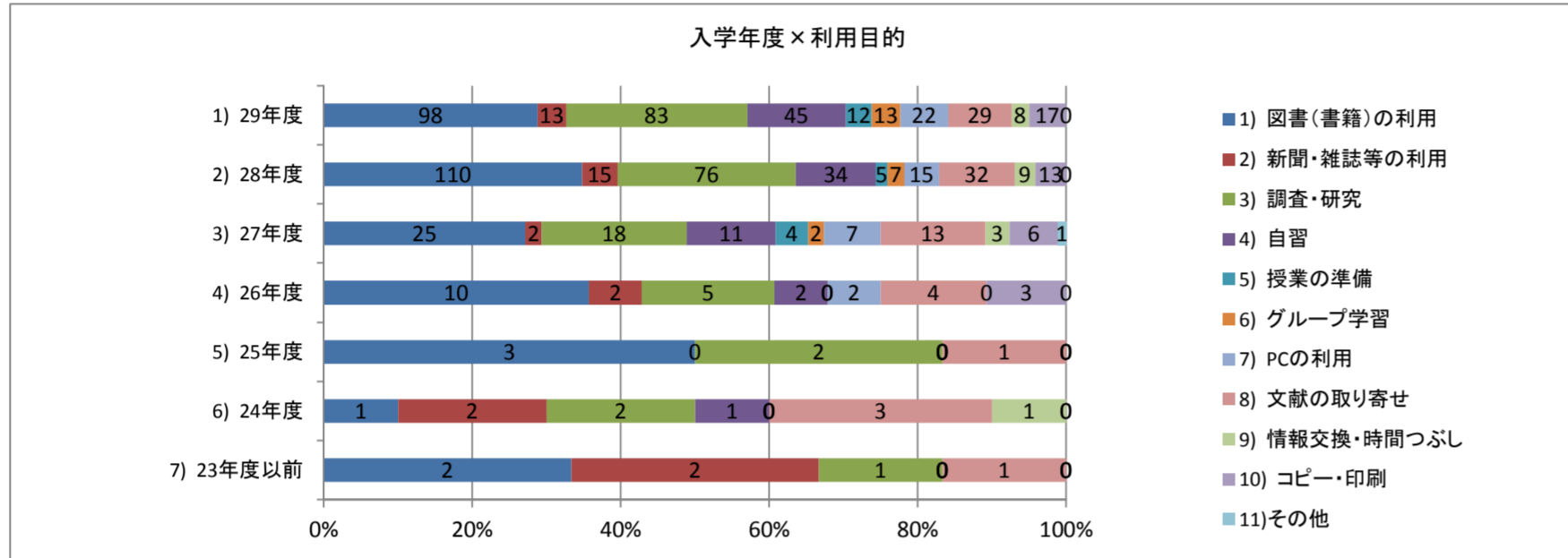
「図書(書籍)の利用」に次いで「調査・研究」の割合が高くなっている。また、「文献の取り寄せ」が10%を占めている。  
【その他】 利用していない

(所属研究科) × (図書館の利用目的)

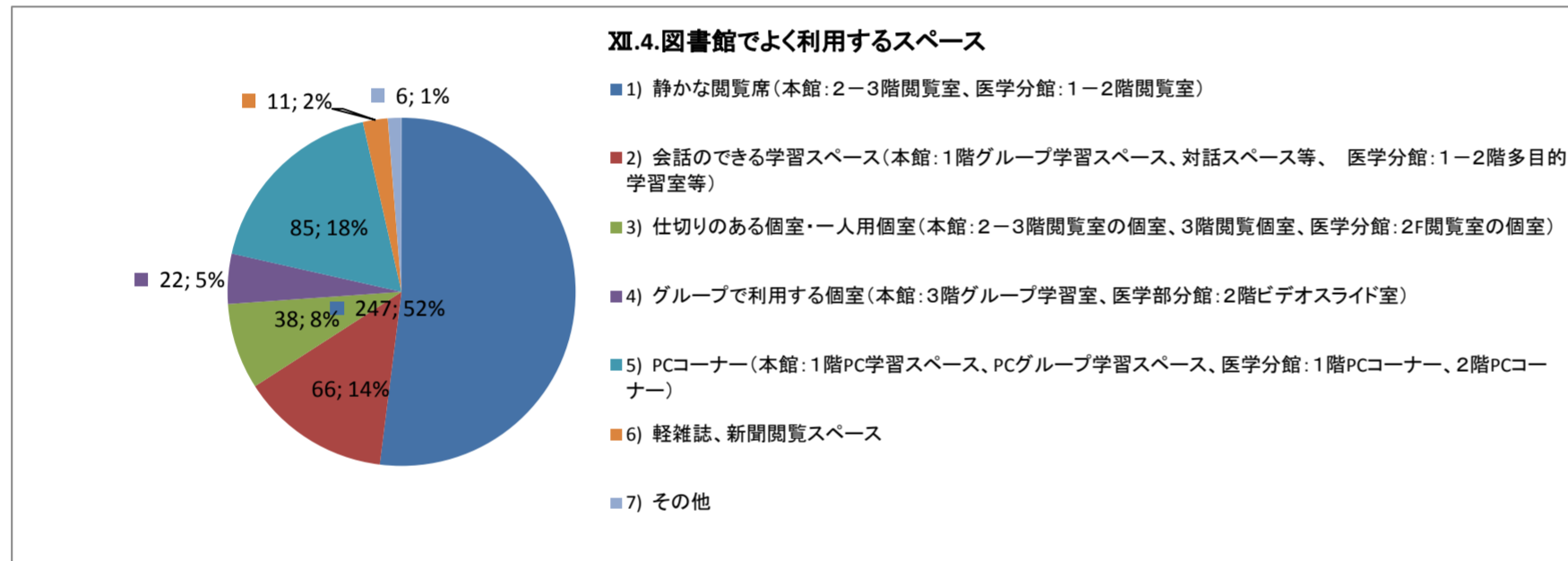


医学系研究科では、「文献の取り寄せ」の割合が他研究科と比較して高くなっている。

(入学年度) × (利用目的)



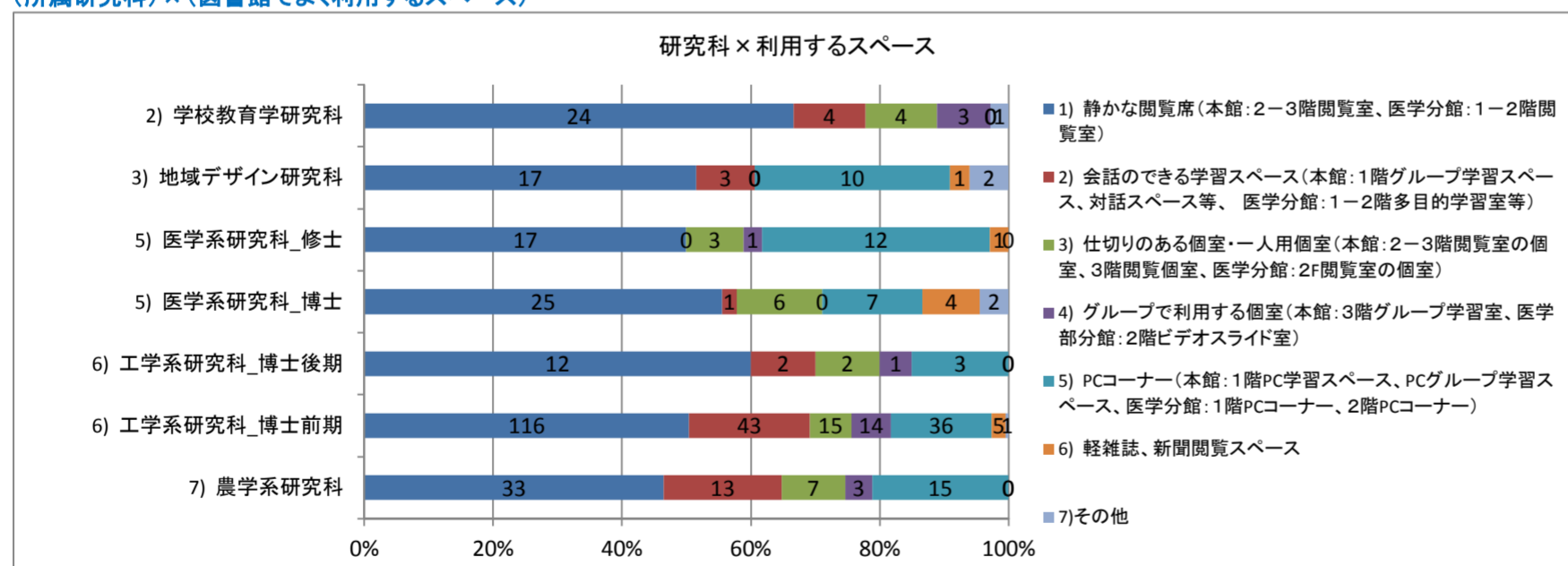
XII-4.



「静かな閲覧席」が半分以上を占め、「PCコーナー」がそれに次いでいる。「会話のできる学習スペース」は、学部と比較して低くなっている。

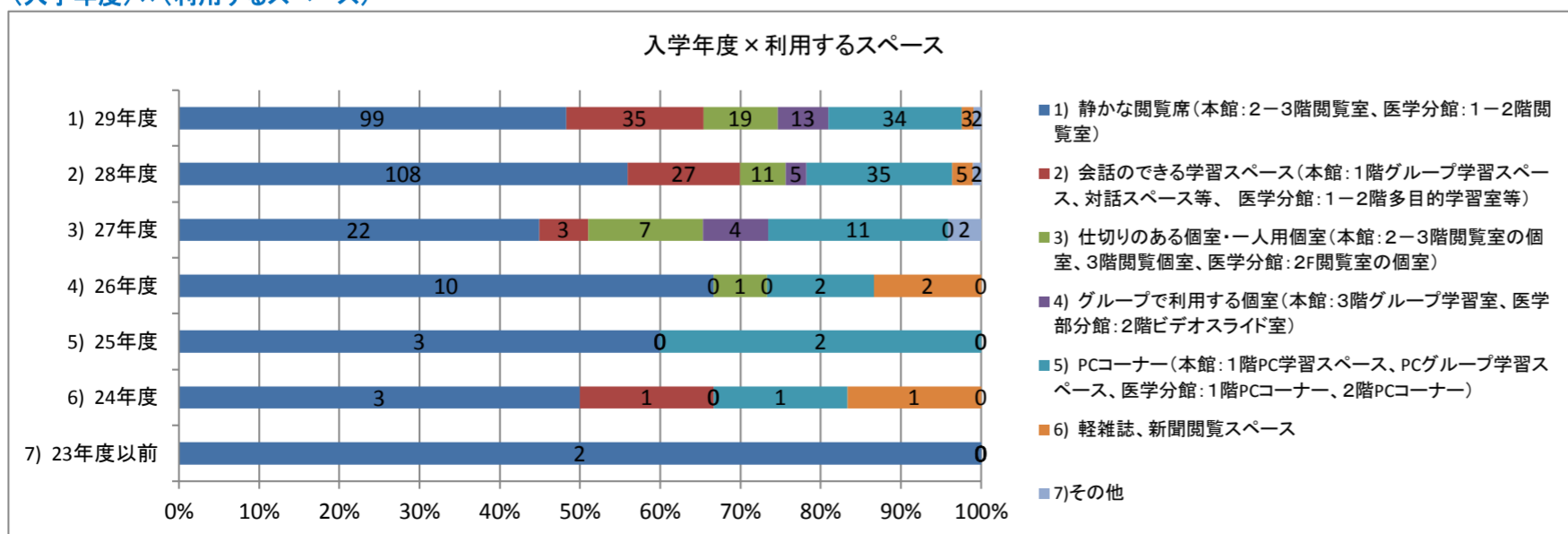
【その他】 スペースは利用しない

(所属研究科) × (図書館でよく利用するスペース)

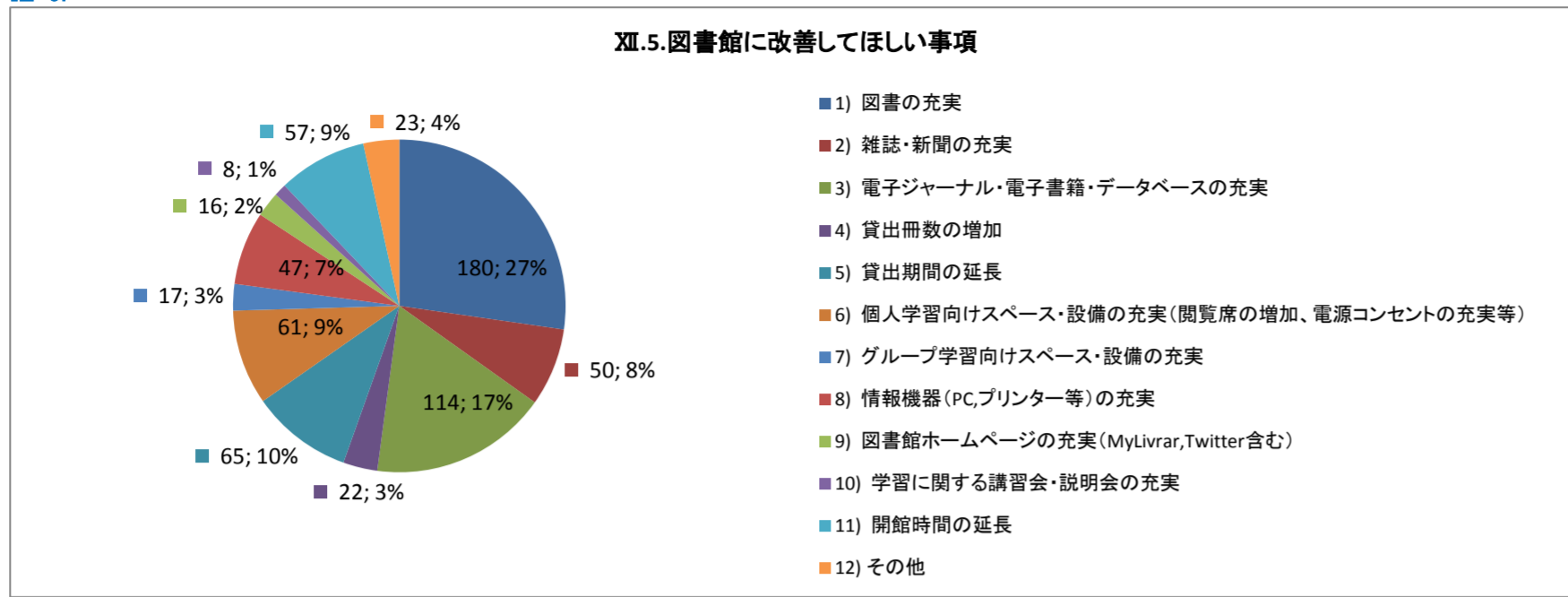


学校教育学研究科では「静かな閲覧席」の割合が顕著に高い。地域デザイン研究科、医学系研究科\_修士では「PCコーナー」の割合が高い。工学系研究科\_博士前期、農学系研究科では「会話のできる学習スペース」の割合が比較的高く、理工学部、農学部で同スペースの割合が高かったことと照応している。

(入学年度) × (利用するスペース)





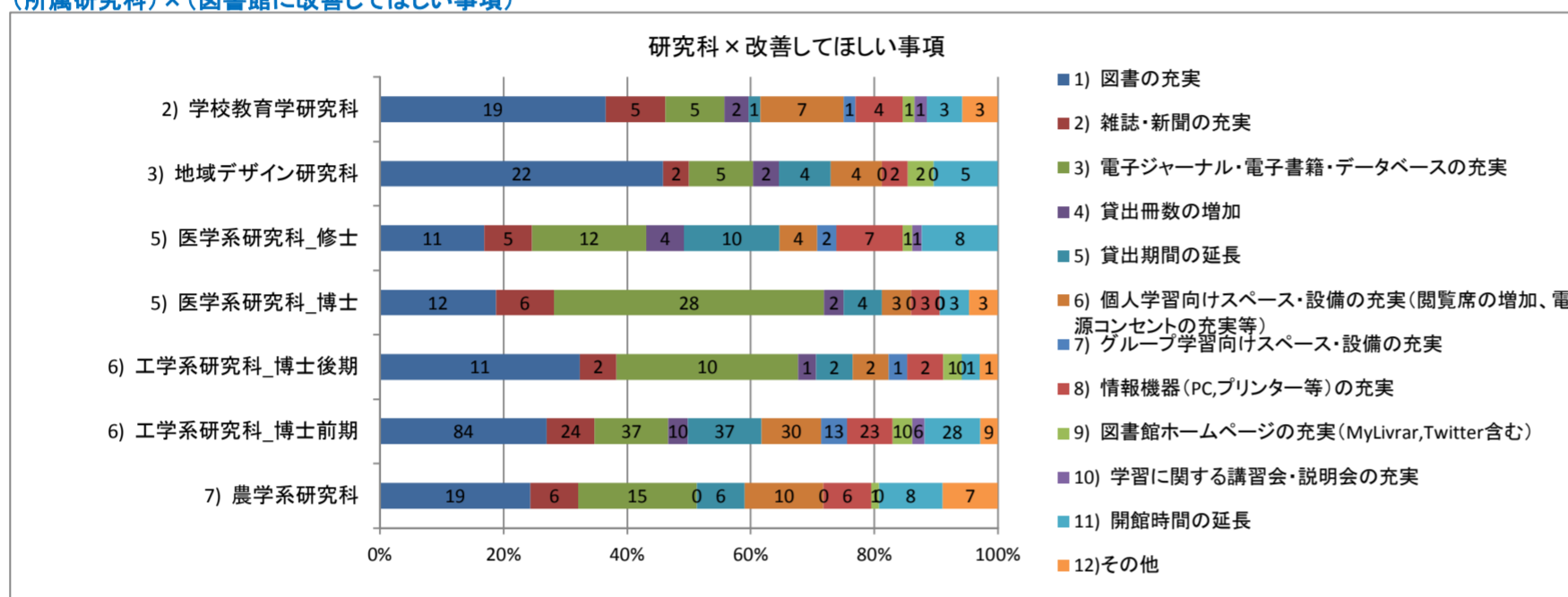


「図書の充実」に次いで「電子ジャーナル・電子書籍・データベースの充実」の割合が高く、非来館型の利用の多いことがうかがえる。

【その他】

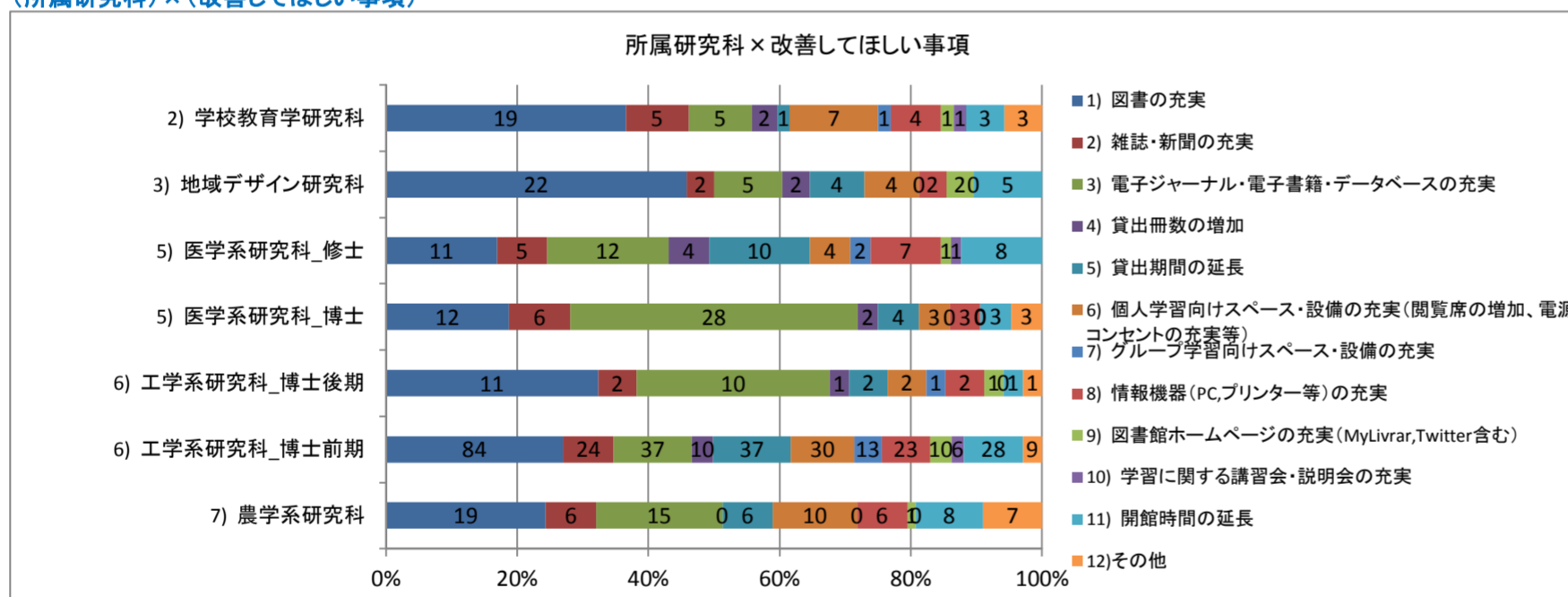
- ・製本機の点検、飲食可能スペースがほしい
- ・隣のテニスコートがうるさくて図書館では集中できないことが多い
- ・節電期間の暑さと夏秋に入り込んでくるカメムシの多さはどうにかして欲しかった
- ・スキャナでの情報収集とカラーコピーと両面コピー
- ・まだ利用していないのでわからない、特になし

(所属研究科) × (図書館に改善してほしい事項)



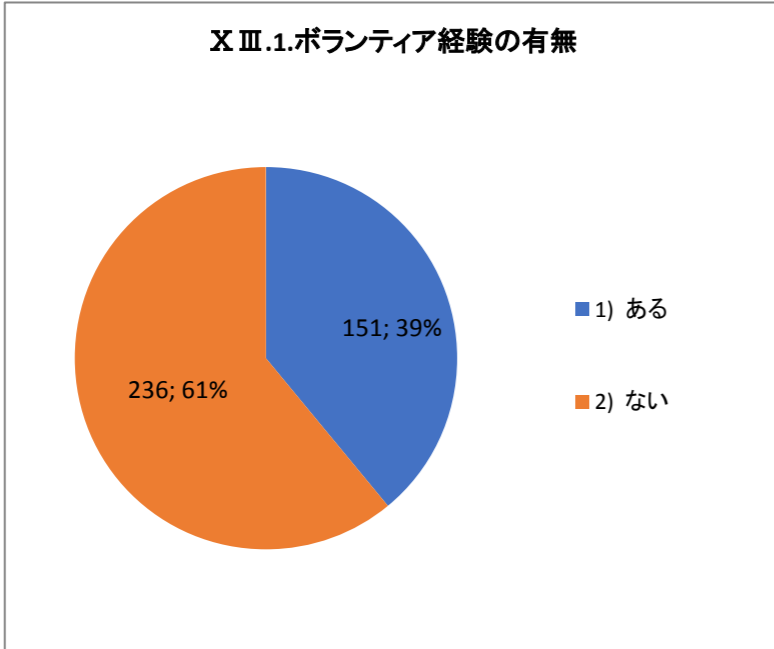
地域デザイン研究科は「図書の充実」の割合が高く、芸術地域デザイン学部の改善希望事項の内容と照応する。医学系研究科では「電子ジャーナル・電子書籍・データベースの充実」の割合が高く、博士では顕著である。

(所属研究科) × (改善してほしい事項)



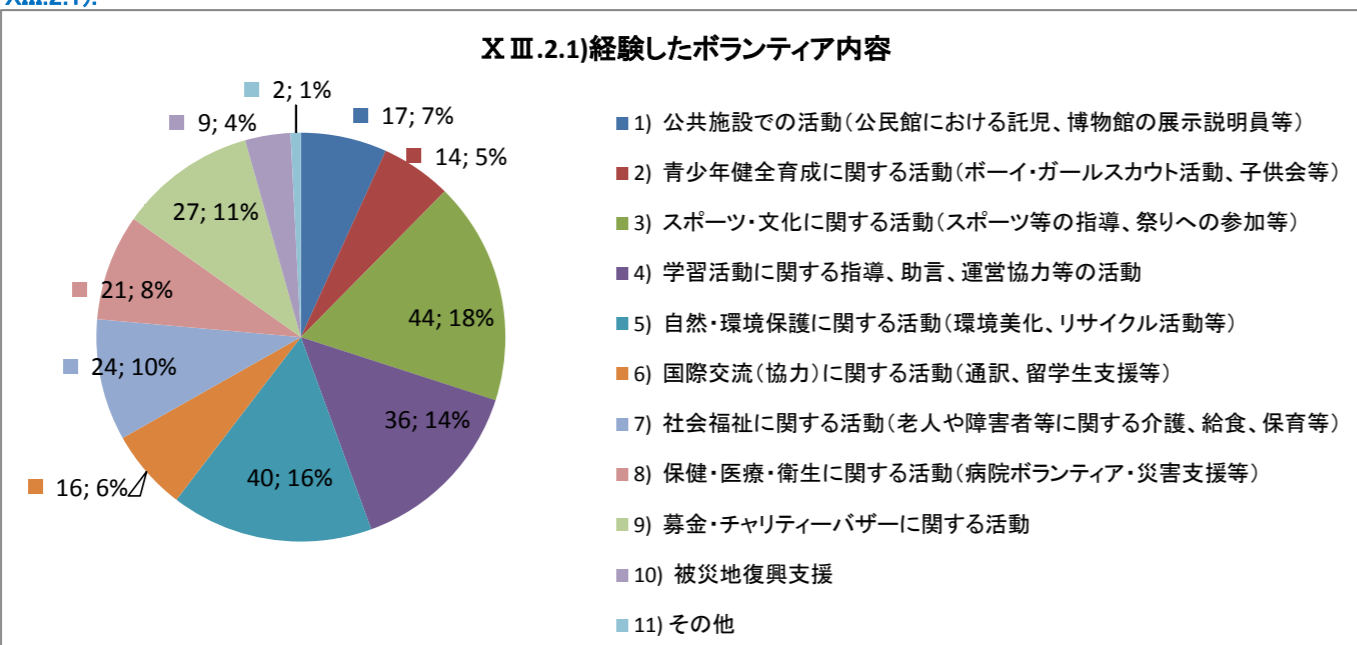
### X III. ボランティアに関する事項

#### XIII.1



約4割の学生は何らかのボランティア経験がある。

#### XIII.2.1).

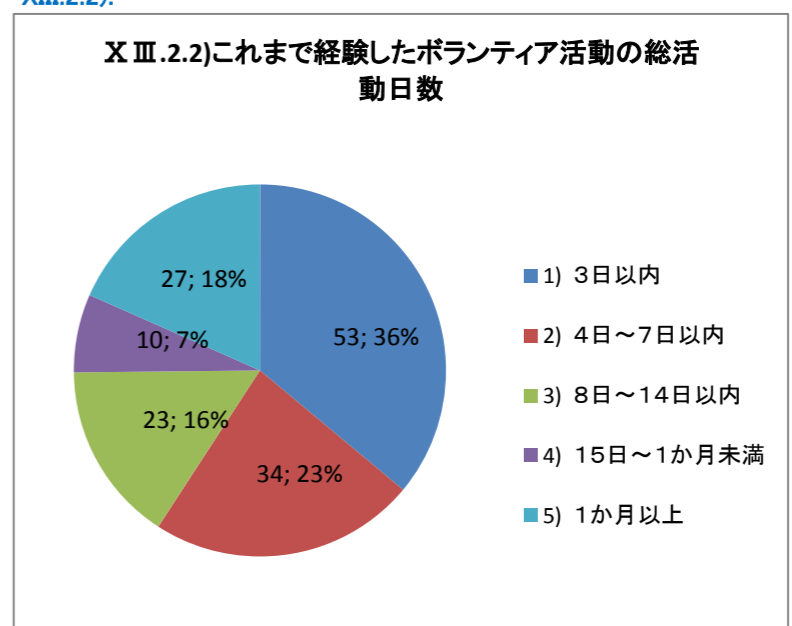


ボランティアの内容は様々であるが、スポーツ・文化、学習、自然・環境保護に関する活動が比較的多い。

【その他】

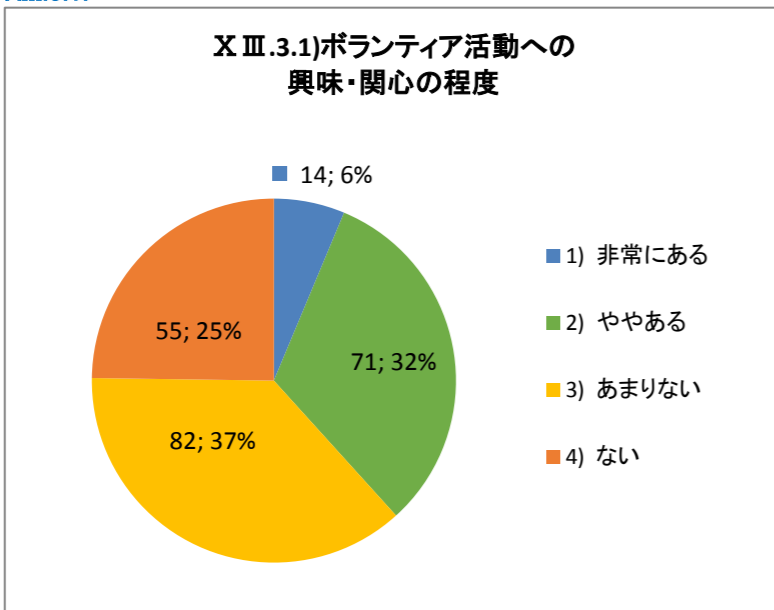
- ・佐賀のまちおこし
- ・地元で被爆継承のボランティア

#### XIII.2.2).



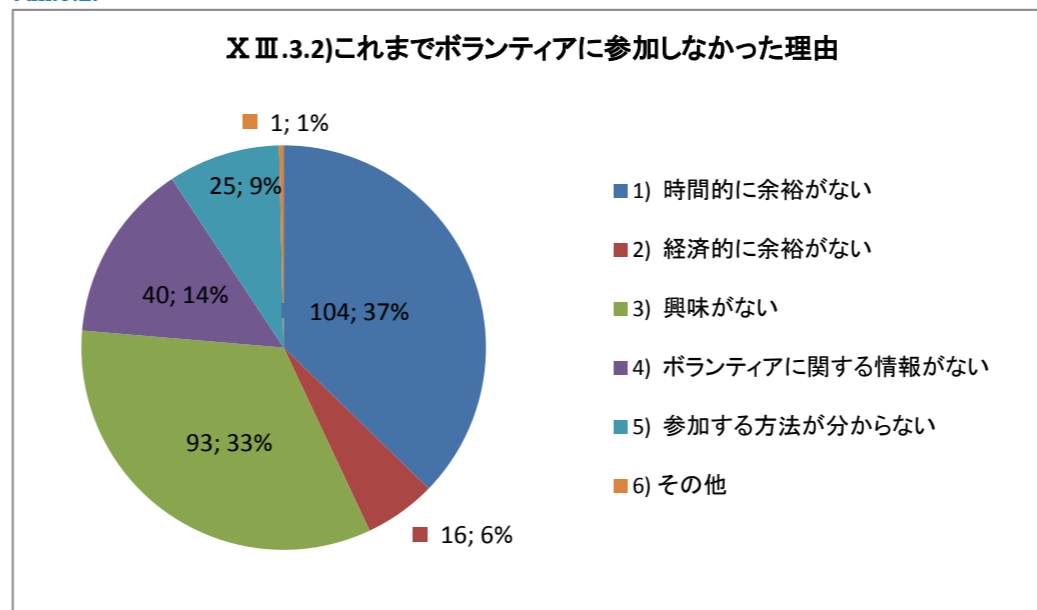
ボランティア経験者の過半数は7日以内の活動であるが、1ヶ月以上の活動日数がある学生も約2割いる。

#### XIII.3.1.



上記の質問との関連で、活動経験がある者と同割合の学生が非常に興味がある／ややある、と解答している。

#### XIII.3.2.



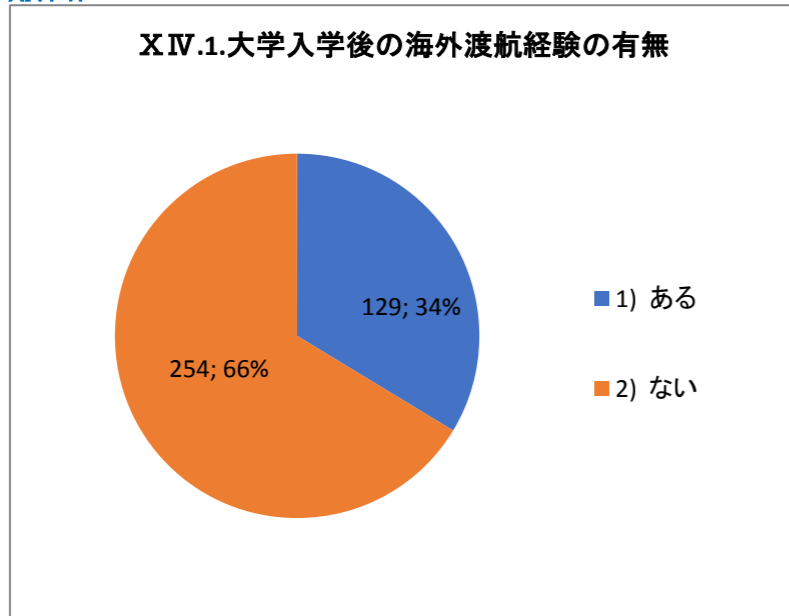
1つ前の質問との関連で、一定割合の学生はボランティア活動に全く興味がない様子がうかがえる。一方、興味がある学生も、時間的に余裕がないため参加できていない実情もうかがえる。

【その他】

- ・ボランティアは無償の労働だと考えているので、世の中に無償で成り立つことはないと思うから。

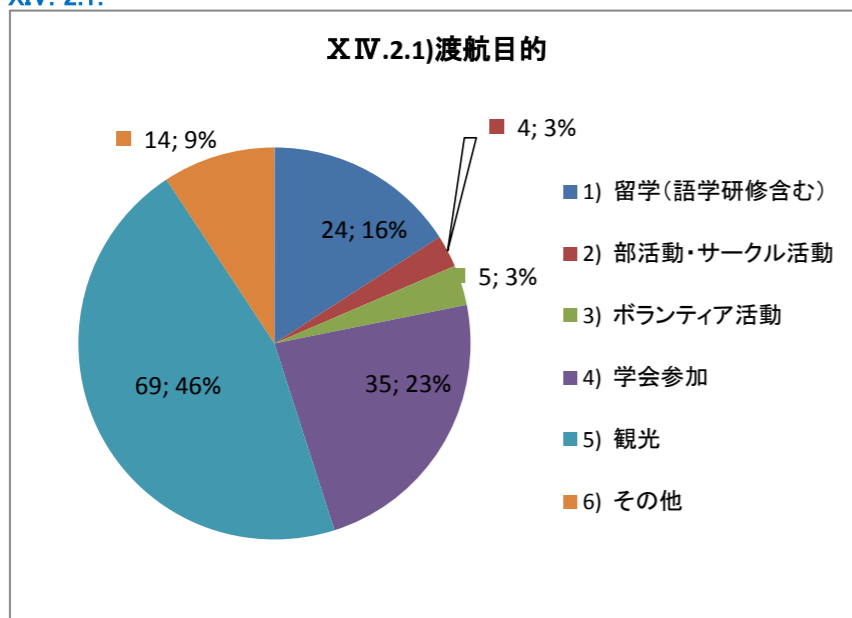
## XIV. 海外渡航に関する事項

### XIV. 1.

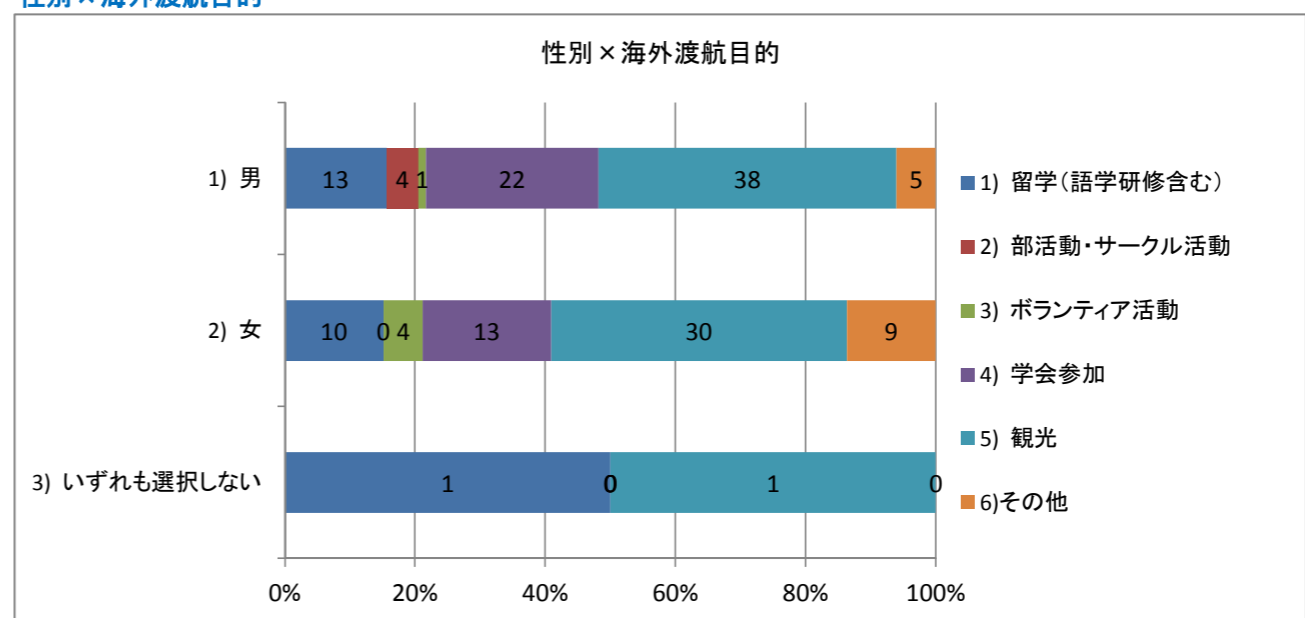


約4割の学生は海外渡航経験がある。

### XIV. 2.1.



### 性別×海外渡航目的

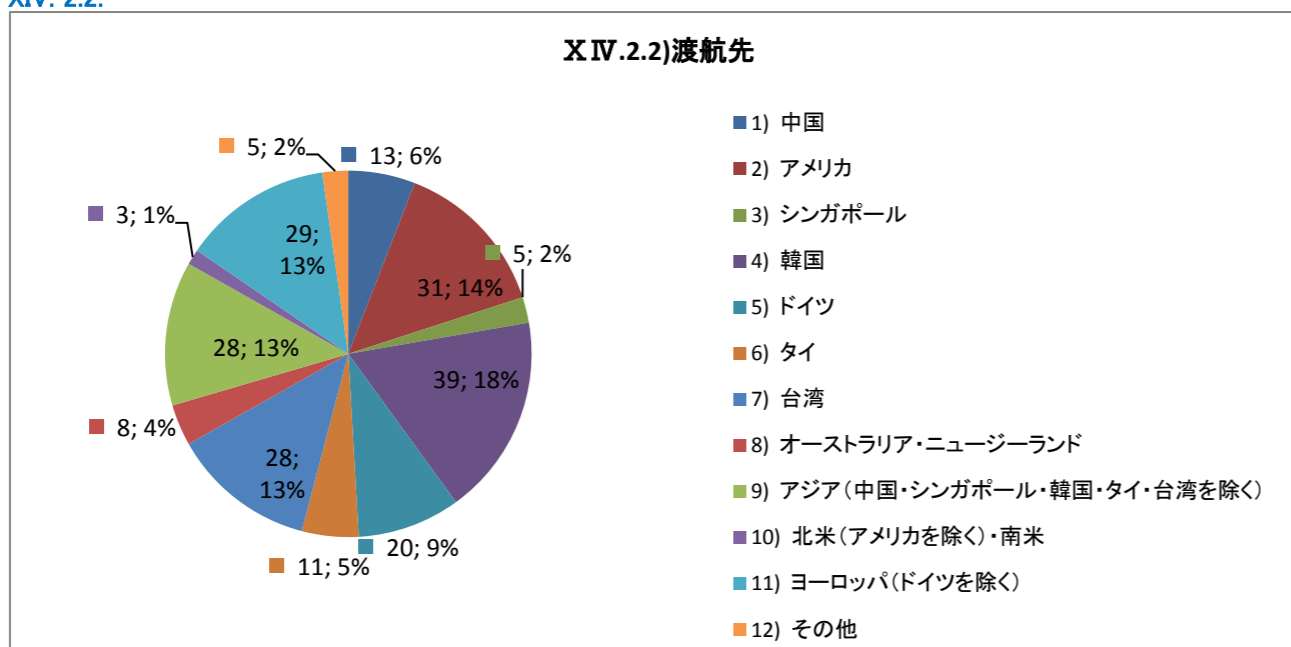


割合としては、約半数は観光目的であるが、学会参加、留学の学生も一定数存在する。性別による顕著な差は認められない。

【その他】

- ・国外の美術品を鑑賞するため。(勉強目的)
- ・帰国、帰省
- ・調査、ワークショップ、授業、スタディーツアー
- ・仕事、研究活動

### XIV. 2.2.



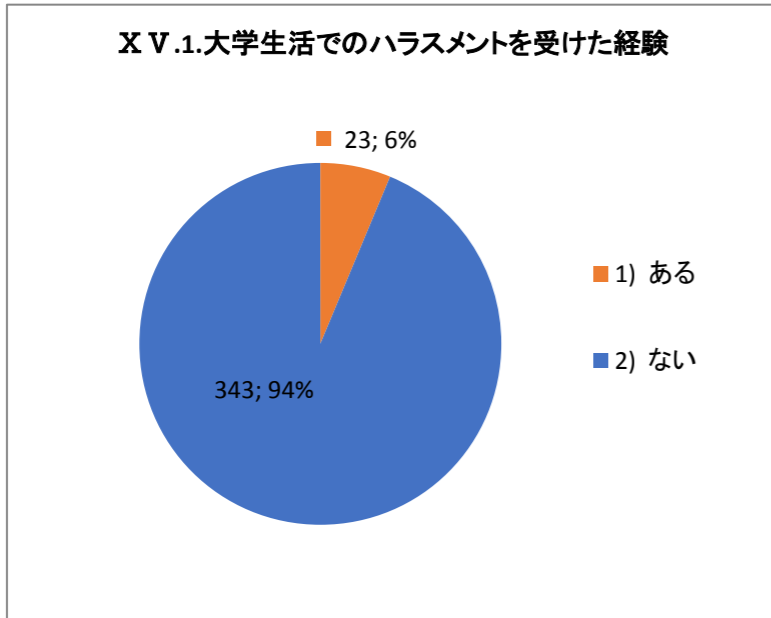
【その他】

- ・カザフスタン、カナダ、南アフリカ、ベトナム、日本

韓国やヨーロッパ、アメリカの割合の高さに比べ、国際情勢の影響もあるためか、中国への渡航者が少ない。

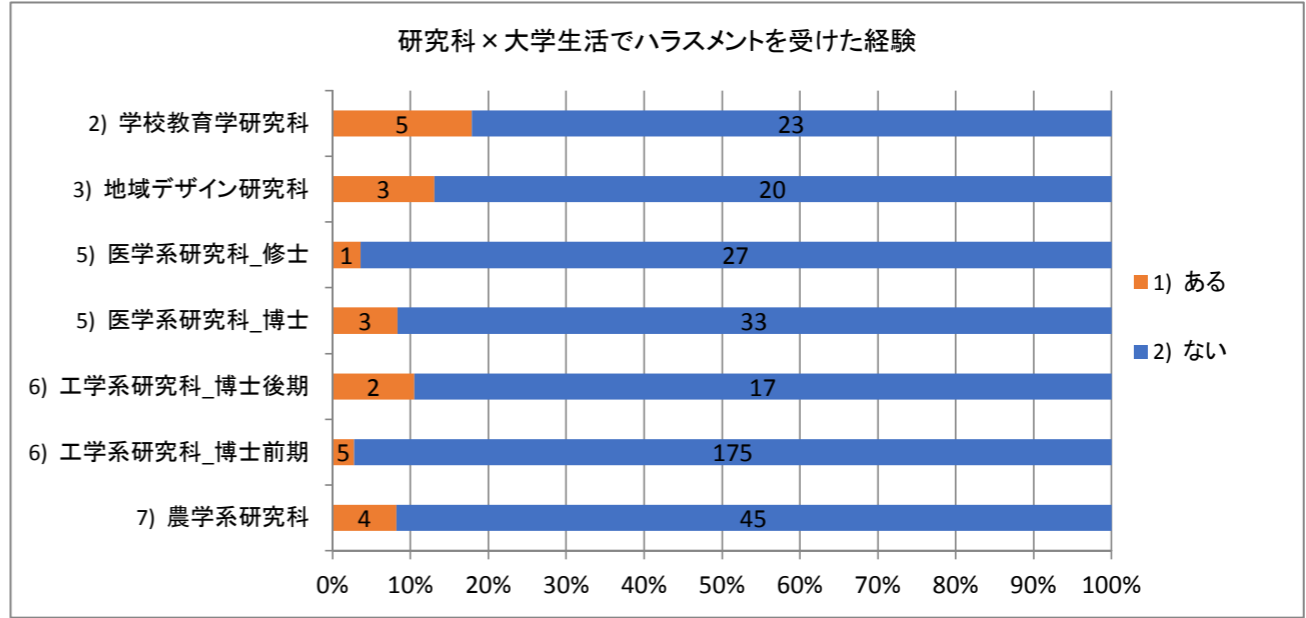
## XV. ハラスメントに関する事項

### XV. 1.

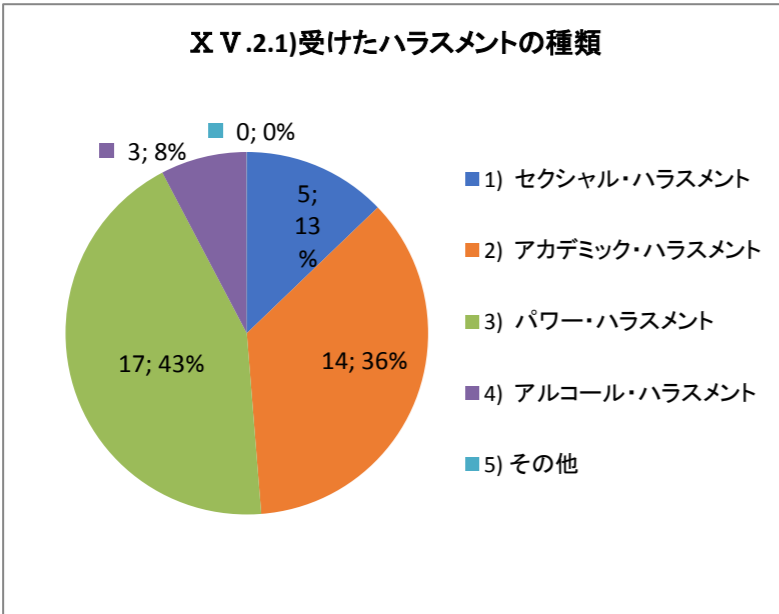


6%の学生がハラスメントを受けた経験を持つ。研究科間で顕著な差は認められない。

### 研究科×大学生活でハラスメントを受けた経験

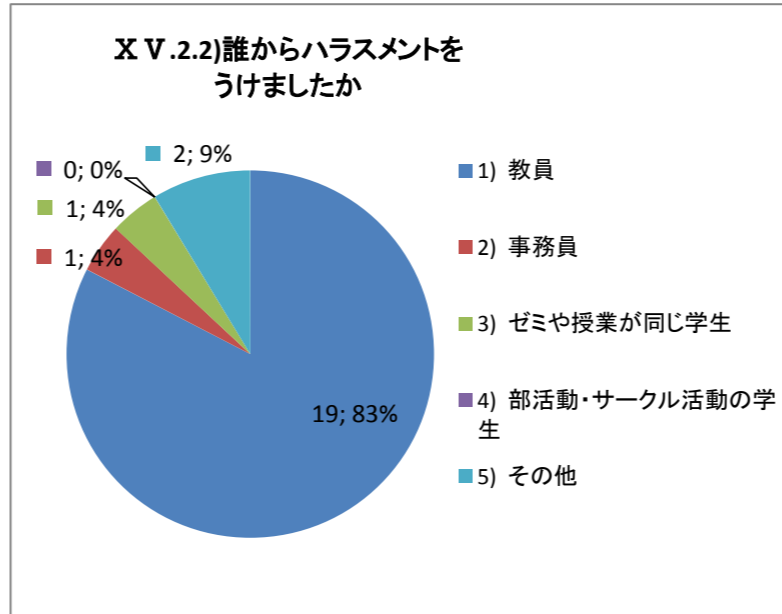


### XV. 2.1).



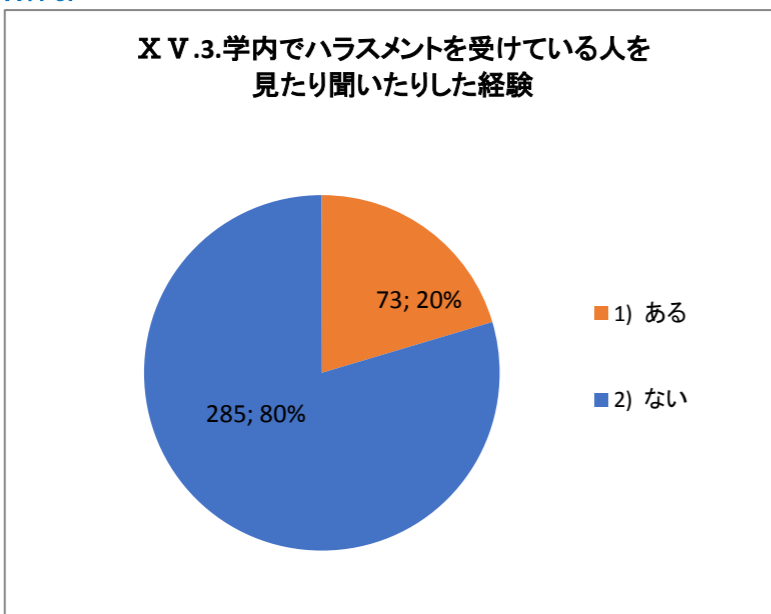
アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントの割合が高い。

### XV. 2.2).



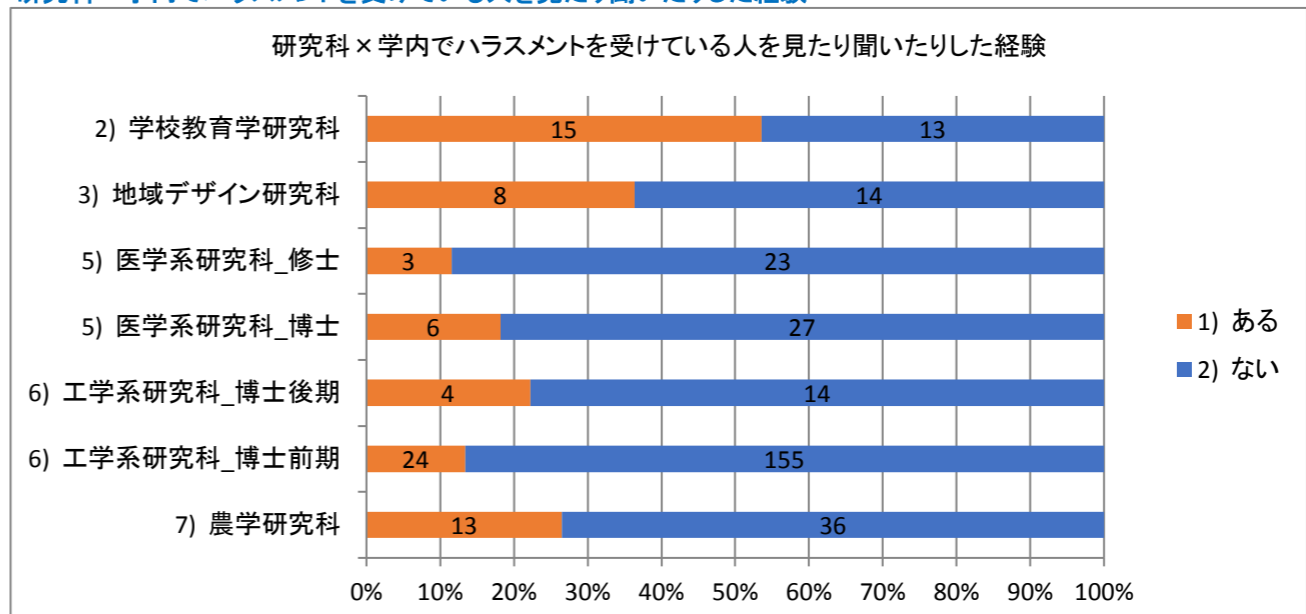
教員からハラスメントを受けたと回答した割合が圧倒的に高い点には留意が必要である。  
【その他】 → 答えられません

### XV. 3.

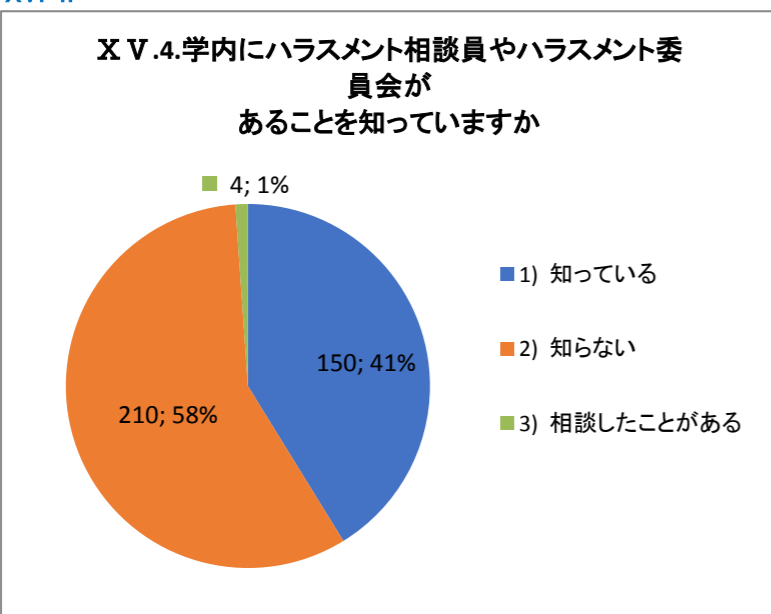


約2割の学生は、ハラスメントを受けている人を見たり聞いたりした経験がある。特に学校教育研究科では割合が高い。

### 研究科×学内でハラスメントを受けている人を見たり聞いたりした経験

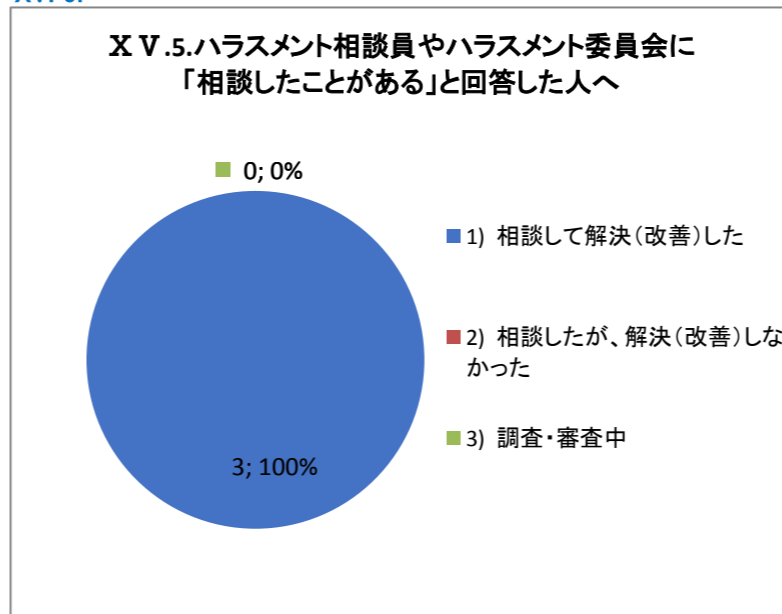


### XV. 4.



ハラスメント相談員や委員会の存在を知っている学生は4割ほどであり、一層の周知が必要と考えられる。

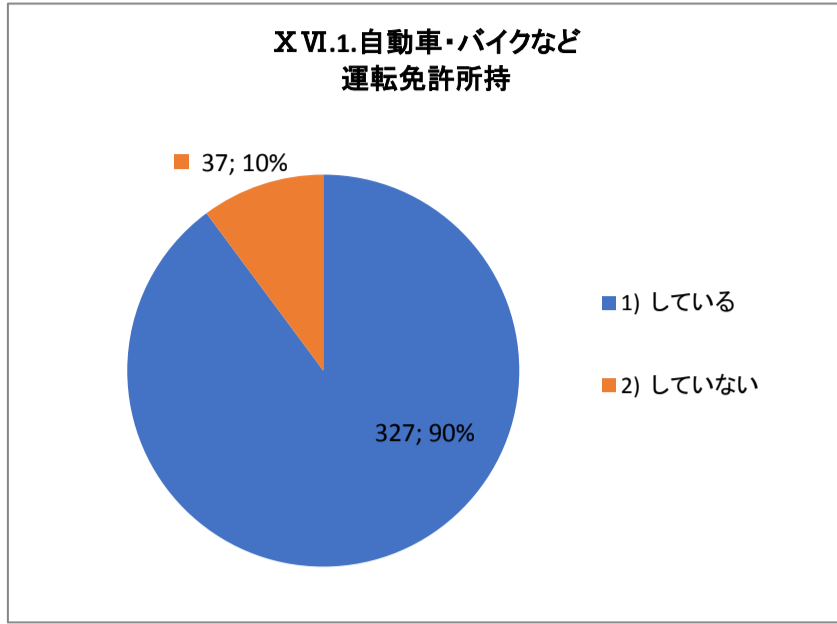
### XV. 5.



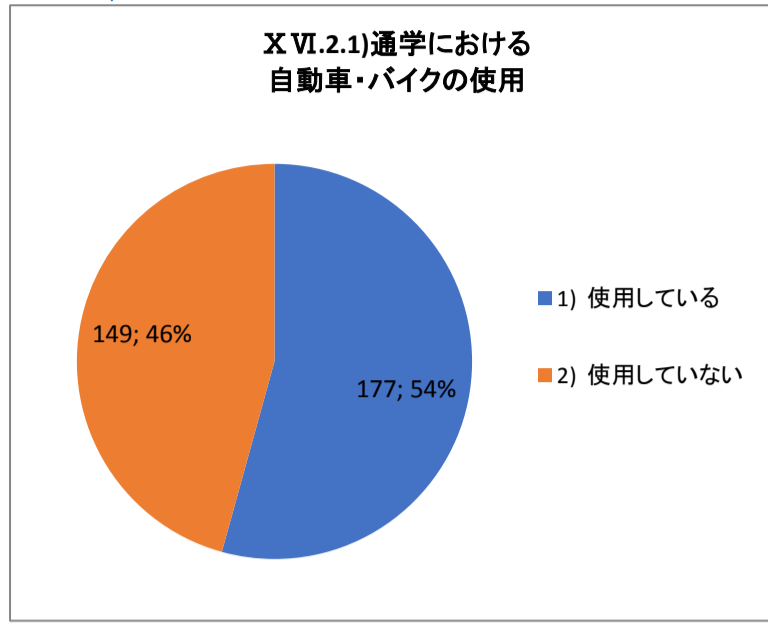
回答者が少数ではあるものの、100%の学生がハラスメント相談員や委員会に相談した結果解決したと回答している点は注目に値する。

## XVI. 交通安全及び学内の治安等に関する事項

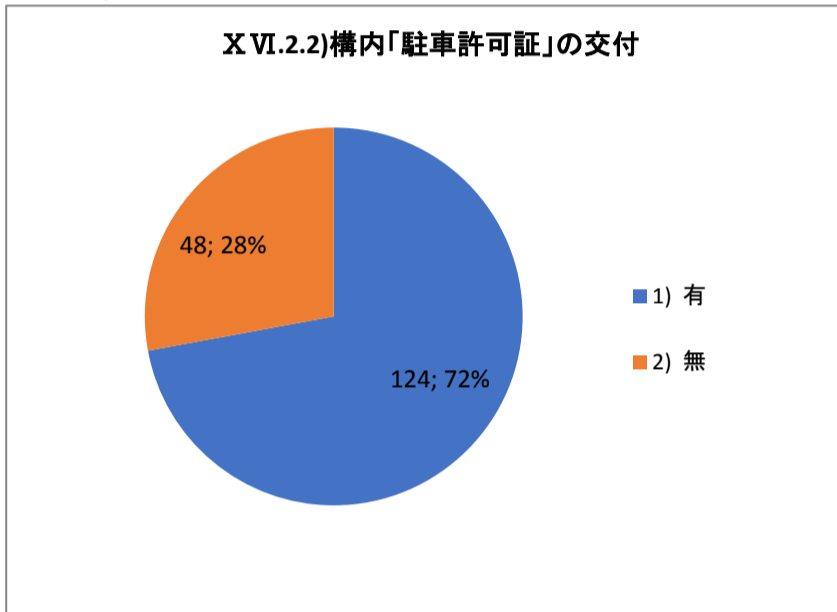
XVI.1



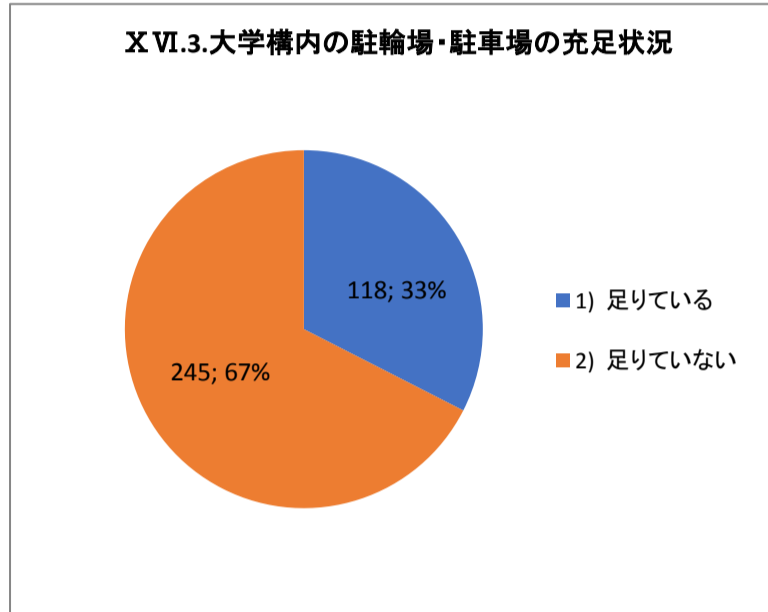
XVI.2.1)



XVI.2.2)

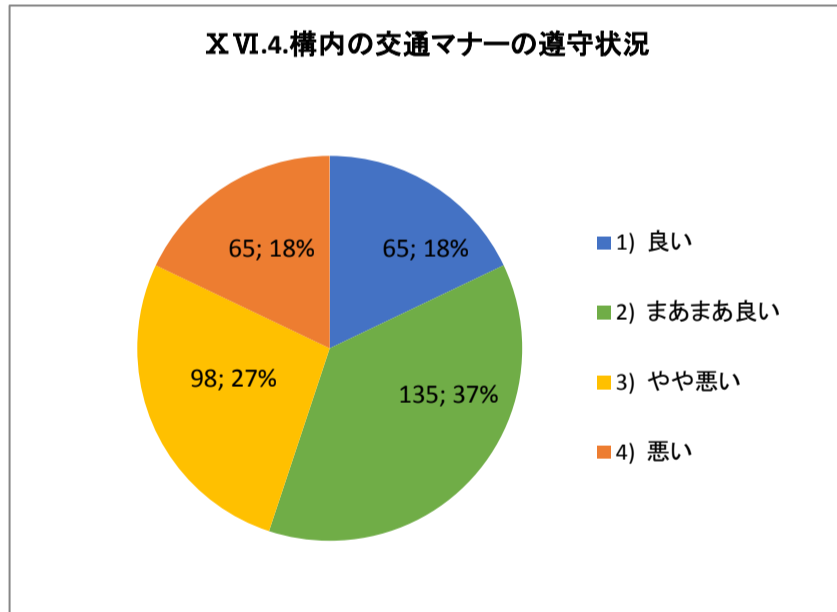


XVI.3



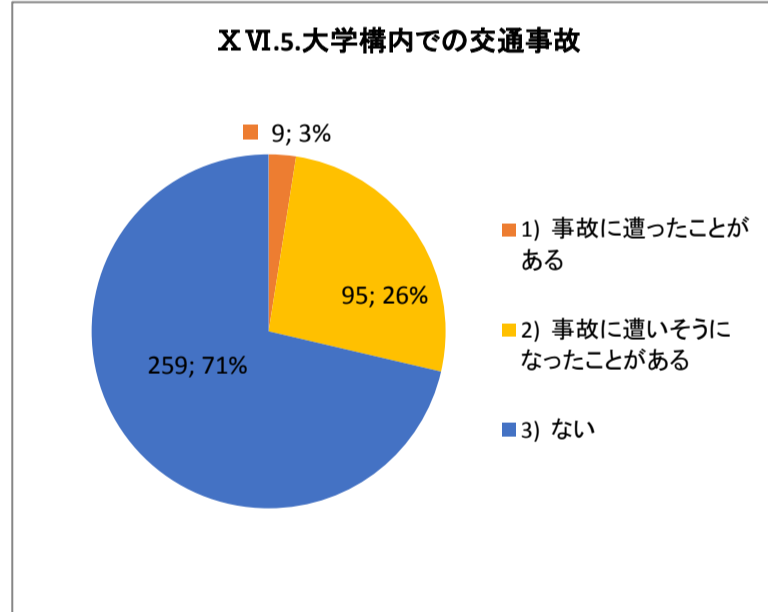
運転免許所持者の約半数は通学に自動車・バイクを利用し、その7割程度は構内に駐車していた。大学構内の駐輪場・駐車場の充足状況は、7割程度が不足と回答しており、今後の検討課題と思われる。

XVI.4



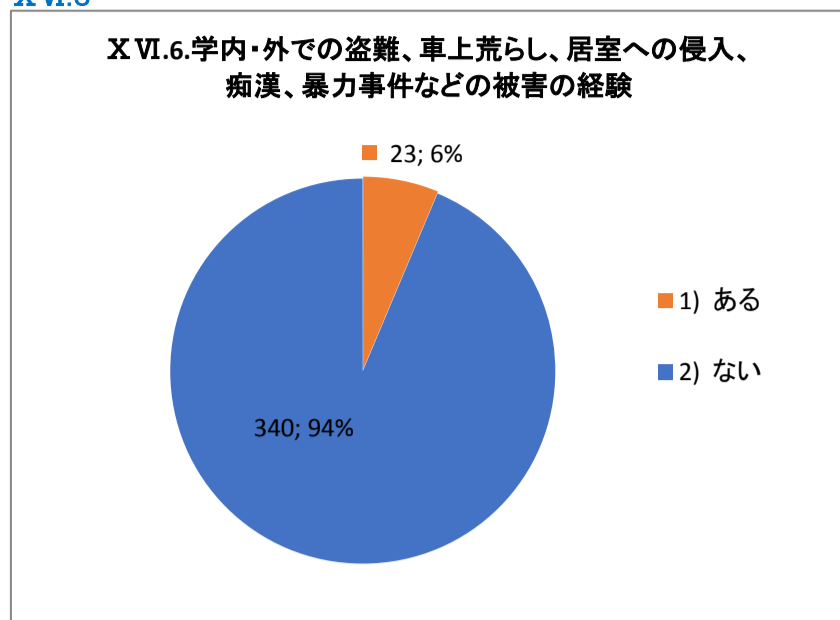
構内の交通マナーの遵守については、5割弱の回答が「やや悪い、悪い」であった。今後も、交通マナー遵守の取り組みを継続的に行う必要がある。

XVI.5



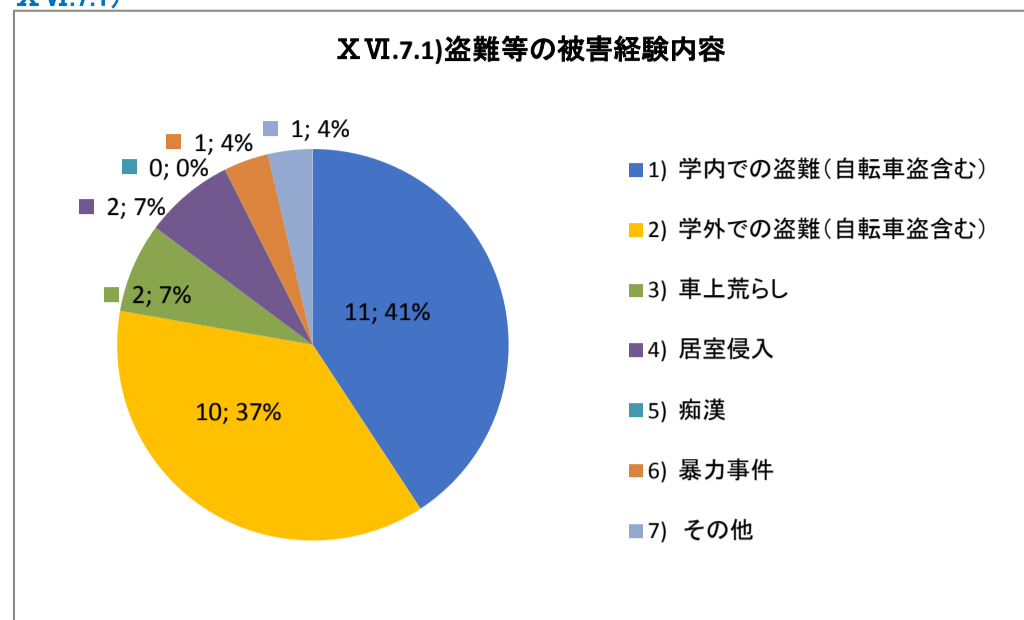
構内の交通事故に「遭ったことがある、遭いそうになったことがある」は29%であった。その詳細な内訳は不明であるが、交通マナーを向上させること等によって、これらの割合を減らす必要がある。

XVI.6

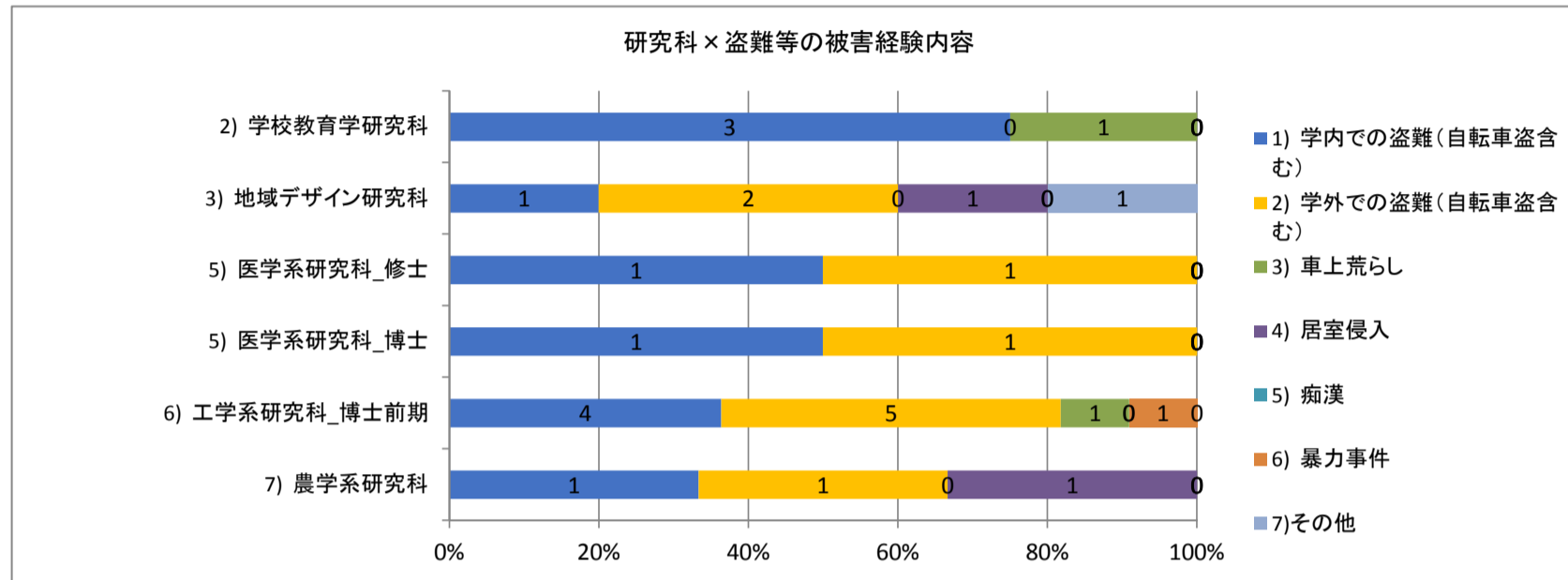


学内外での被害経験者で、盗難被害が8割程度を占めた。今後とも、自転車施錠の徹底など盗難を未然に防ぐ具体策を広く学生に告知する必要がある。

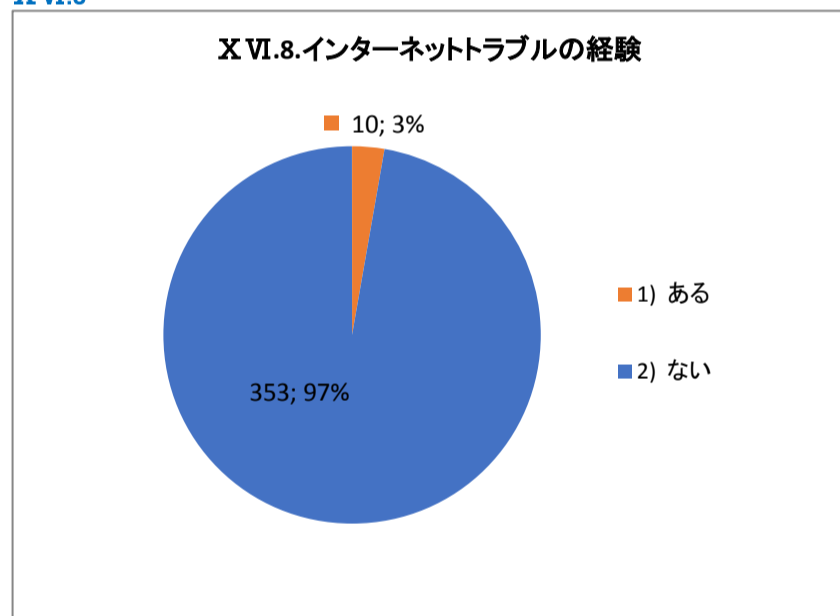
XVI.7.1)



【その他】  
・不審者遭遇

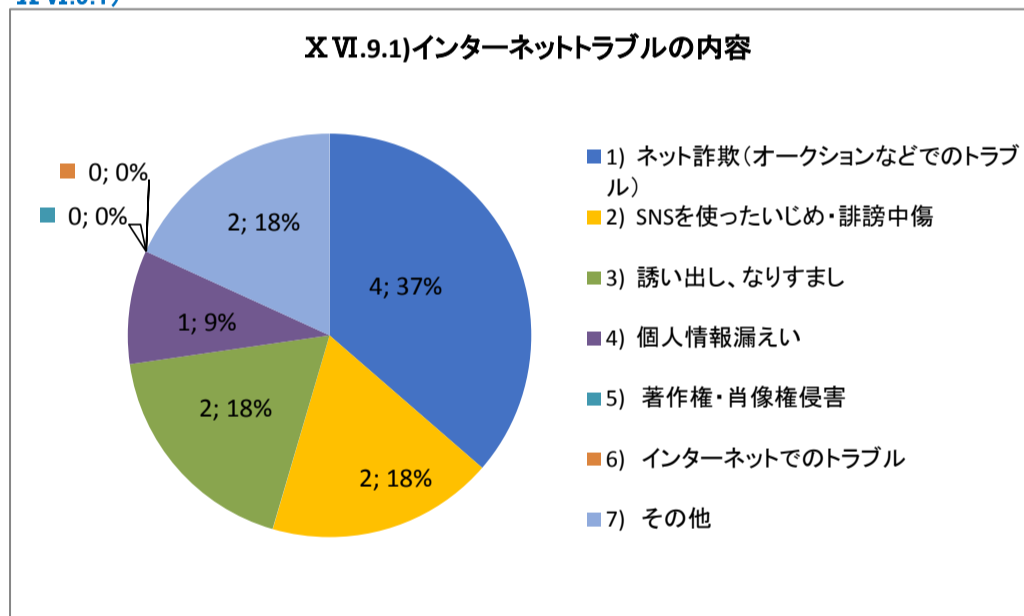


XVI.8



インターネットトラブルの経験者は少なかった。今後もインターネットトラブルについての指導を周知徹底していく必要がある。

XVI.9.1)

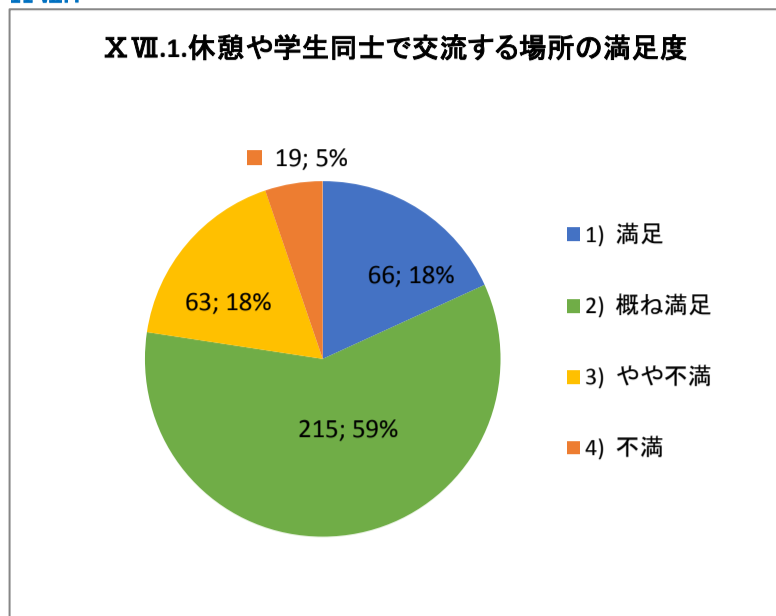


【その他】  
・ウィルス、繋がらない

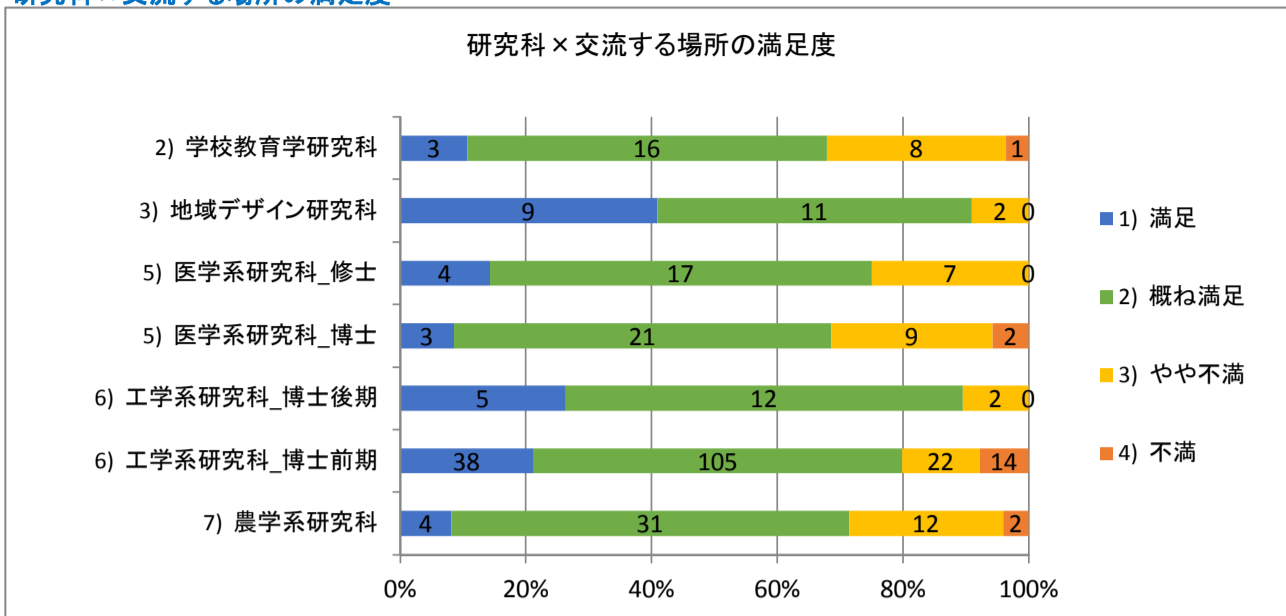


## XVII. 大学の施設・設備などに関する事項

### XVII.1

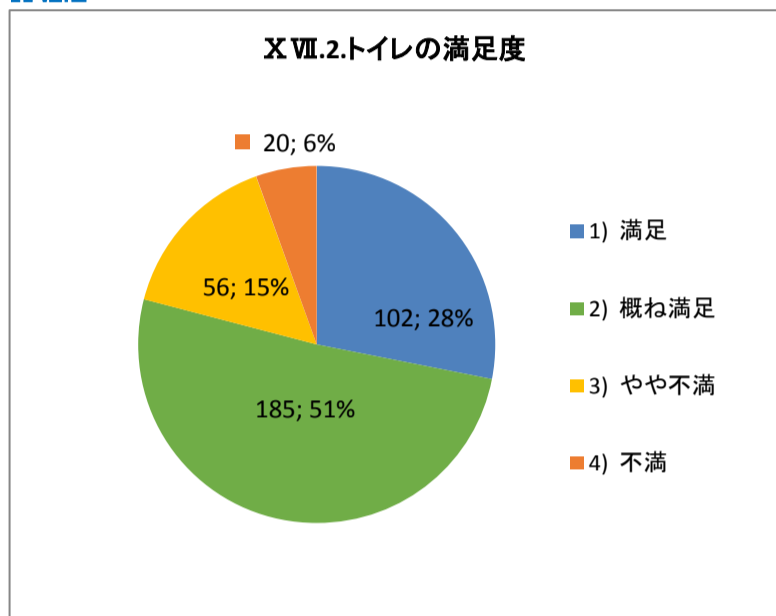


### 研究科×交流する場所の満足度

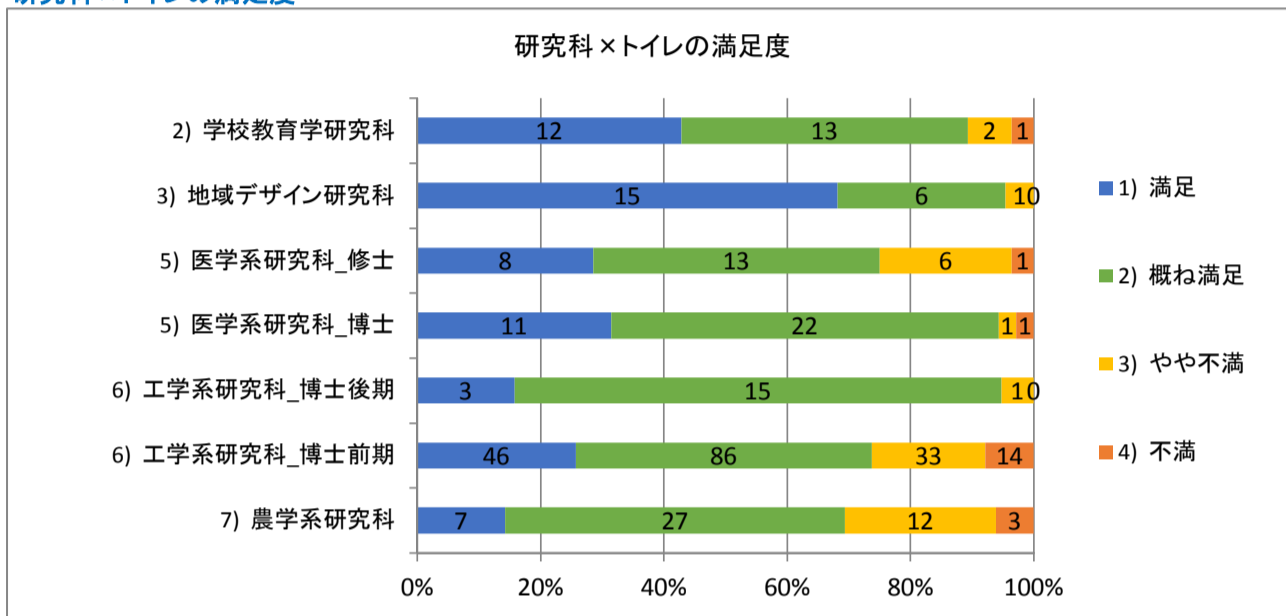


休憩や交流場所の満足度は、「満足、概ね満足」で64%と比較的高かったが、研究科別では、学校教育学研究科、医学系研究科\_博士、農学研究科の満足度は他研究科と比べ低い傾向を示し

### XVII.2

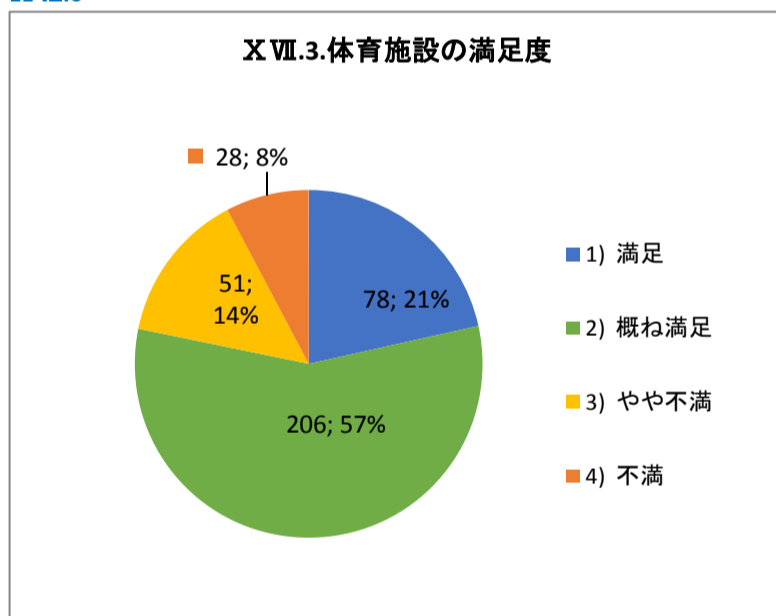


### 研究科×トイレの満足度

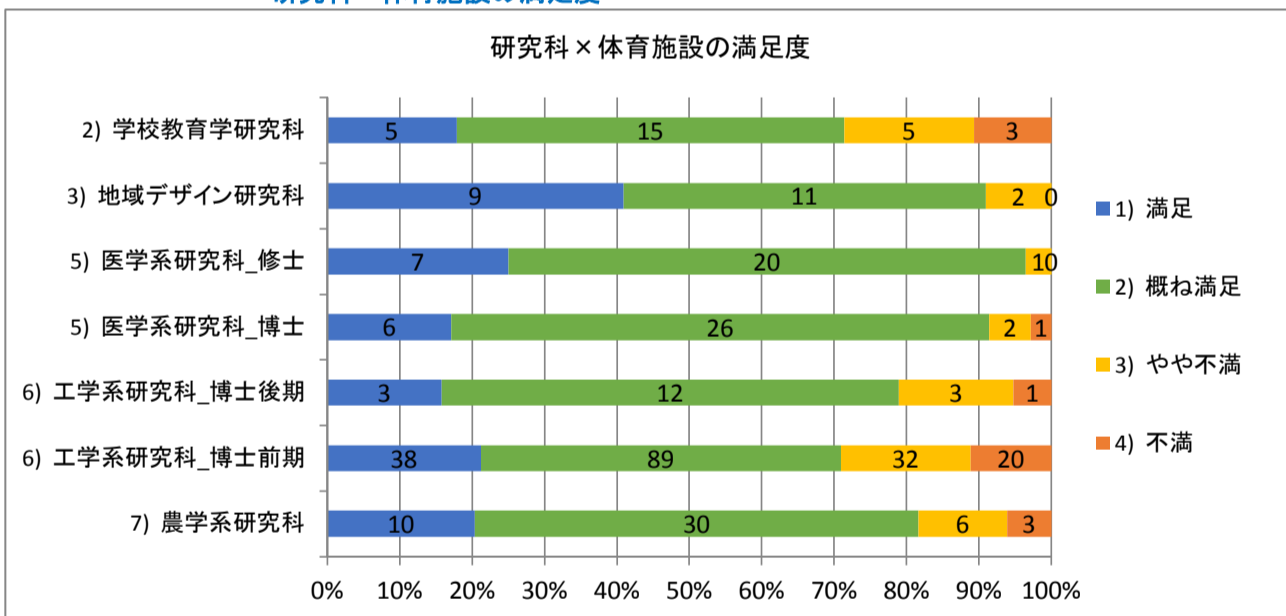


トイレの満足度は「満足、概ね満足」で79%と高かった。研究科別では、医学系研究科\_修士、工学系研究科\_博士前期、農学研究科の満足度が他研究科よりも低い傾向を示した。

### XVII.3

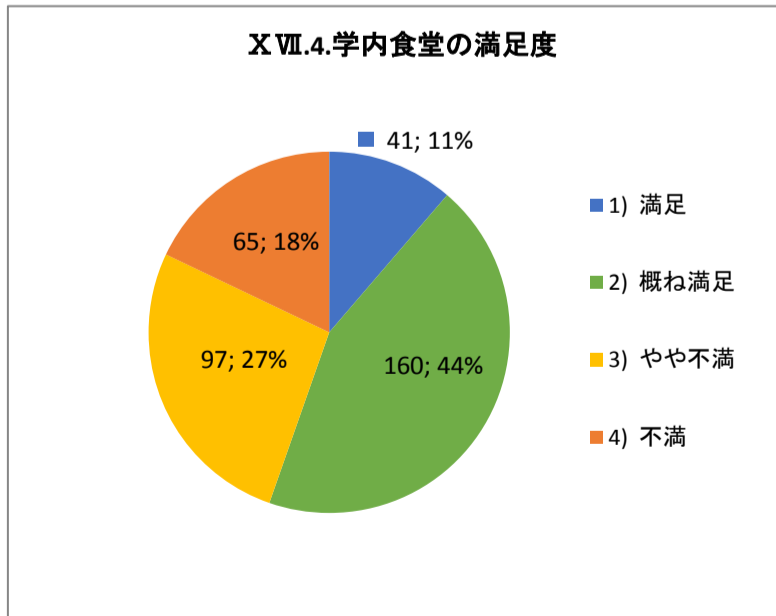


### 研究科×体育施設の満足度

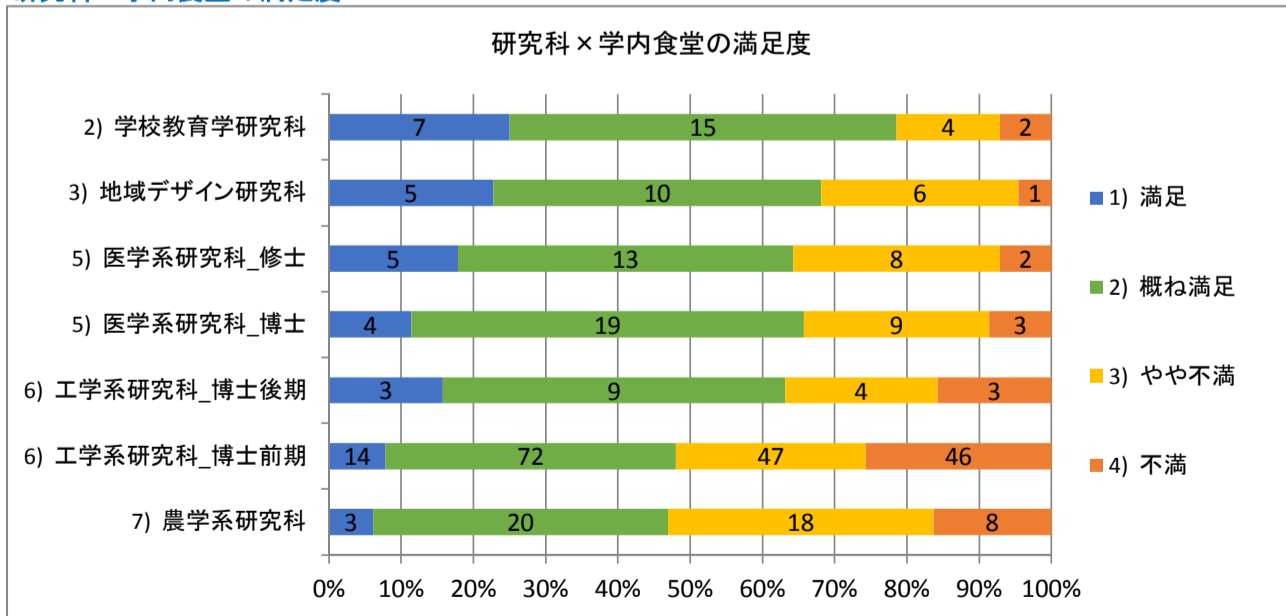


体育施設の満足度は「満足、概ね満足」で78%と高かった。研究科別では、学校教育学研究科、工学系研究科\_博士前期・後期、農学研究科の満足度が他研究科よりもやや低い傾向を示した。

### XVII.4

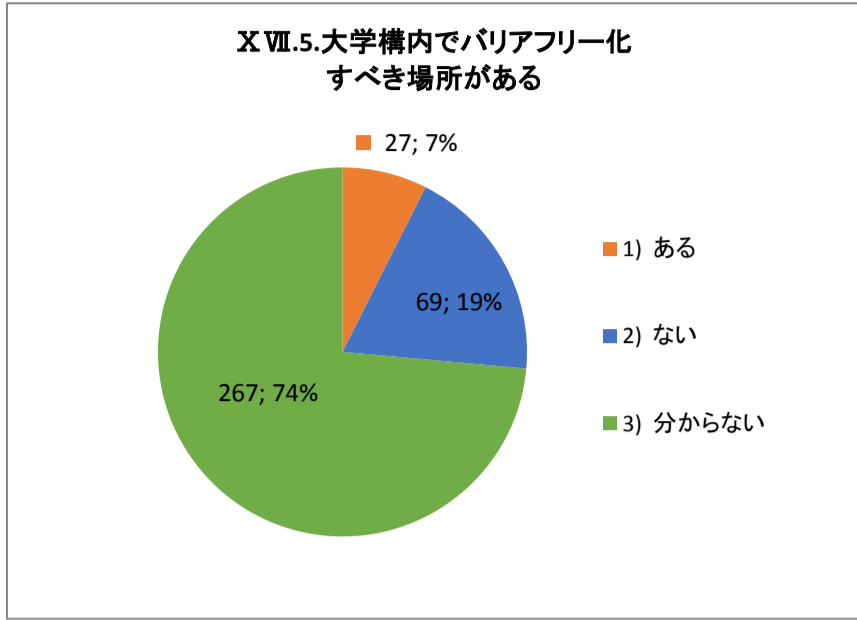


### 研究科×学内食堂の満足度



学内の食堂は、他の構内施設と比較して、満足度(満足、概ね満足)は55%と低かった。研究科別では、農学研究科と工学系研究科\_博士前期の「やや不満、不満」の割合は、他研究科と比較してやや高い傾向にあった。

XVII.5

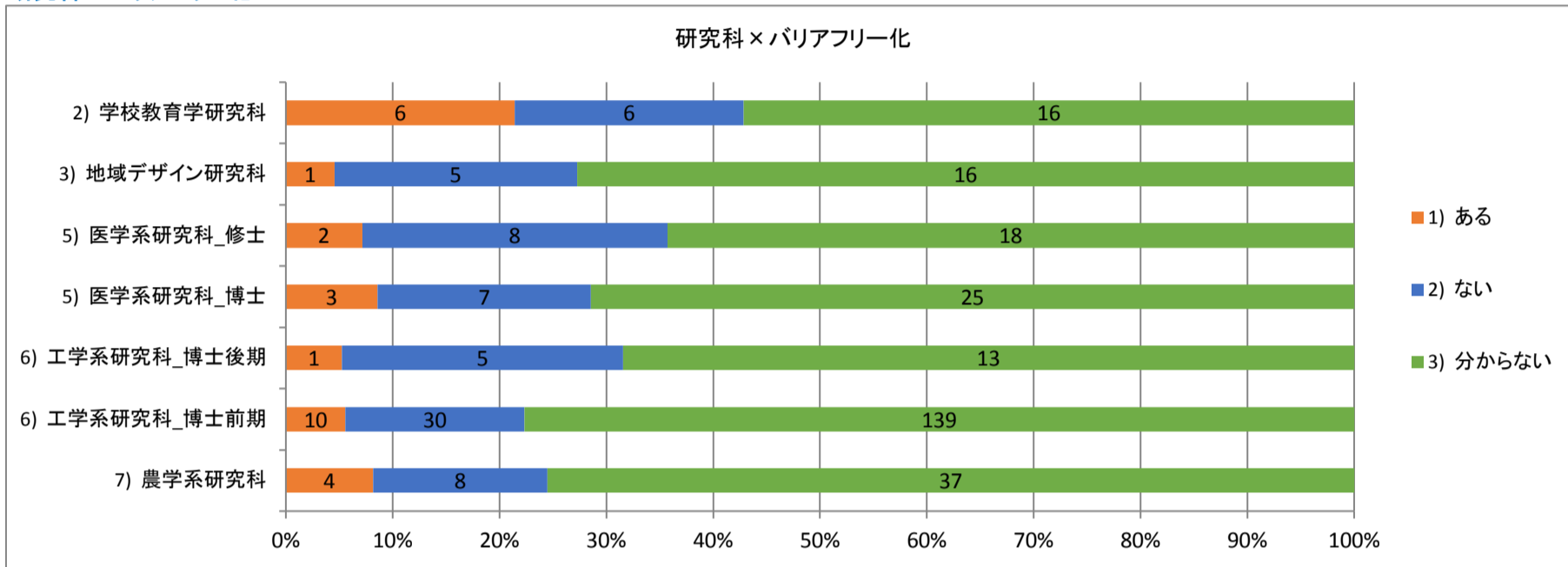


バリアフリー化すべき場所について、「ある」の回答は7%と低く、「分からない」は74%であった。「ある」の回答で、エレベーター設置の意見が複数見られ、今後の検討課題と思われる。

【あると回答した人の意見】

- ・全体的に
- ・農学部1号館は南棟からでないと車いすは入れない。エレベーターも基材運搬用という感じで使いづらい。
- ・工学部4号館の入り口、エレベーター
- ・研究棟から病棟側へ行く通路
- ・教職大学院がある棟は、エレベーターがなかったと記憶している。主要な建物であり、免許状更新講習にも用いられているため、必要であるとする。
- ・エレベーターが少ない
- ・車椅子が入れる教室について
- ・教務課の棟にエレベーターがない
- ・パーキングパーミットが少なすぎる

研究科×バリアフリー化





## 【その他【自由記述】】

### 1. 教育・研究に関すること

- 地域デザイン ・新たに芸術地域デザイン学部となり、以前の文化教育学部時代より更に専門性の高い講義を受けられると思います、学生たちは入学してきます。  
芸術分野の中でも特に西洋画の希望の学生はかなり多いのですが、現在西洋画の教員は1人しかおらず、希望する学生に対して教員の仕事の負担が大きすぎるのではないかと感じています。そのため西洋画の教員をもっと増やされてはいいかかと思えます。  
また、文化教育学部時代には美学の授業がありました。しかし、昨年その分野の教員が退官されて以降美学の講義は無くなりました。
- 地域デザイン ・各専門の教授や准教授を増やしてほしいです。例えば一口にデザインといっても様々な分野があります。少しでも教員が増えれば、教える側、教わる側、どちらも負担が減ると思います。
- 医学系 ・卒業後も学内の施設が利用しやすいようにメンテナンスしてほしい。  
研究機関に就職しない場合に、卒業をきっかけに研究が滞りそうなので。
- 医学系 ・社会人だが、講義のほとんどが昼間あるため職場との調整がむずかしい。  
科目履修がなかなか進まない。
- 学校教育学 ・立ち上がってすぐなので手探りなのはわかりますが、教職大学院は期待していたものとは違いました。
- 学校教育学 ・大学での学びに効果的なアクティブ・ラーニングの在り方を、検討していただきたいです。科目によっては、学生に授業を任せているとみられる科目もあります。効果的なアクティブ・ラーニングを展開されている先生方との差が激しいです。授業に参加する学生は、決して受け身ではないと思います。

### 2. 課外活動に関すること

- 工学系 ・サークル会館二つを改装してほしい。体育施設を増やしてほしい。
- 工学系 ・体育施設等の一時利用などをする場合、ネットから予約できるシステムが欲しい。

### 3. その他学生生活に関すること

- 工学系 ・教務課と比べて学生生活課の態度が悪い。積極的に相談したいと思わない。  
就活システムが使いづらい(今どこが募集してるのかわかりづらい)
- 医学系 ・学内でハラスメントを受けた経験はありませんが、そもそも先生方は立場そのものが学生にとっては脅威となる事があります。だからと言って学生に好かれようとする必要はないと思いますが、存在そのものが”ハラスメント”であることを常に自覚していただきたいと考えます。学生は常に先生方に気を遣っており、委縮しております。
- 医学系 ・研究室に在籍して研究を行っており、研究自体には不満はないが、大学院の授業料が何に対する対価なのか不明瞭だと感じる。授業がない中でも各名上の単位は必要となってくるが、それを取得することに関するサポートについてもどこに相談したらいいのかわからないし、学生課に相談してもよくわからない。
- 学校教育学 ・お金を払って大学院に来ているのに研究費はないし、教授のハラスメントはあるし、とても自分の以前いた大学からすると魅力は感じ取れません。ハラスメント委員会はあって、報告してもうやむやにするならいっそない方がいいのでは？ 爺さん教授のボケ対応は私たちのすべきことではないのでは？  
と思うことが多々あります。

### 4-1. 施設・設備に関すること

- 地域デザイン ・Wi-Fiの接続をもう少し簡易化してほしい。
- 医学系 ・大学構内のゲートや横断路の路面に設置してあるキャッツアイ(反射板)は、速度制限にあまり効果が出ていない上、タイヤへの負荷が大きくバンクの原因となり得ます(実際バンクを見たことが何回かあります)。  
より効果的に、かつ安全に速度制限を狙うなら、大きなスピードバンプを設置すべきだと思います(大きいと絶対にスピードを落としますし、樹脂製のボルト固定型なら比較的安価です)。
- 医学系 ・医学部研究棟の東側にはエレベーターがないため、不自由な方もいるのではないかと？  
・バリアフリーのスロープがある場所は、医学部研究棟、臨床棟の西側だけであるため、完全にバリアフリーではないのは、設計上お金をかけられなかったのか？もちろん、講義棟にもスロープはあるが。
- 工学系 ・喫煙者の為のスペースは必要だが、喫煙所を点在させている、屋外にあるのはどうなのかなとは思う。  
難しいと思うが非喫煙者で煙に弱いので、可能であれば改善策を出してほしい。
- 工学系 ・喫煙所ですが、人通りが少ないところの喫煙所が無くなり、大通りに主に設置されるようになってきました。  
煙の広がる範囲をご存知でしょうか？無風状態でも7m広がります。なので、人通りが少ないところに設置してほしいです。ていうか、佐賀大学理工学部五号館近くの屋根付き駐輪所側にあった喫煙所がなくなり、とても困っています。なのに、大学院棟側とカカサギ前のやつしかありません。人通りも多く一人でタバコもゆっくり吸えません。学内を全面禁煙にしていけるのは勝手です

工学系 ・カササギ食堂側の校門のミラー位置、角度が悪いいため特に右折するときに車が見えづらく苦勞する。

#### 4-2. トイレに関すること

工学系 ・全部のトイレにウォッシュレットをつけてほしい。

工学系 ・洋式トイレですが、便座殺菌液(クリーナー)を設置してください。

工学系 ・お手洗いに最低一つは石鹸を常備してほしい。

農学 ・全てのトイレにハンドソープを置いてほしい。

#### 4-3. 駐車場等に関すること

工学系 ・駐車場代が上がったのが納得いきません。

農学 ・「構内に駐車許可申請のお知らせ」は掲示板だけではなく、メールでも連絡してほしい。  
・学内駐車の際、違反駐車が多すぎる。警告文だけでは一向に改善しないので、何度も繰り返す様な人には許可の一時的な停止や、それでも改善しない場合は許可の取り消しなどの処置をとってほしい。  
・違反駐車をしているのに何も処罰がないのはおかしい。いつも特定の車が違反駐車している。  
・農学部周辺の駐車スペースが少なすぎる。  
・美術館横の駐車場に、カードで入れないのは不便。  
・学内で、道路上にはみ出して自転車を駐車している人が多い。

学校教育学 ・駐車場が少ない。止める場所がない。  
・だれでもお金さえ払えば止められるようになったことで、駐車許可証が意味をなさない。  
・おかげで枠外への駐車も増えている。  
・学生に限らず職員等も同様に。  
・正直、学校関係者以外も自由に駐車できる状況。  
・そのうち衝突等が相次ぐはず。  
・そうってからでは遅いのでは。

#### 4-3. かささぎホール改修工事等に関すること

工学系 ・かささぎ食堂をいち早く開放してほしい。トイレのウォッシュレットもつをつけてほしい。

工学系 ・理工の大学院生棟の近くに食堂がありません。時間がないので、お昼もまともに食べることができません。かささぎホールをなくすのならば、それ相当のことをしてもわないと、困ります。

### 5. 食堂に関すること

工学系 ・学食のご飯やお弁当など、値上がりすると同時に、中身の量が減っている。

農学 ・食堂のメニュー増やしてほしいです。

工学系 ・学食のメニューを考えなおしたほうがよいと思う。

### 6. その他

工学系 ・正確なデータがとりたいなら、アンケートはもっと簡略化すべきです。  
・集中力が持たないし、時間ももったいないです。

工学系 ・アンケートは匿名の方がよろしいかと思われます。

農学 ・キッチンカーなどの設備を充実させる前に、駐輪場や駐車場、製版機など勉強や生活に直結する部分で改善しないといけない施設や設備が山ほどあるはず。駐輪場の状況が悪いことは分かっているはず。駐輪場が足りていないこともわかっているはず。

農学 ・美術館以外にお金をかけるべきところはたくさんあると思う。  
・実績を上げるためには、研究費が足りないのではないかな。

医学系 ・この調査が必須みたいになっているのが疑問です。調査なので、催促される筋合いはないと思います。  
・質問項目も多いし、回答する事で今後何かしら改善されていくのでしょうか。目的もよくわかりません。

医学系 ・ハラスメントに関する質問は、再検討してください。というのは、回答者の学籍番号・名前が開示されるのに、経験や見たことがある人が正直に回答できるでしょうか。結果はあまり意味がないと思います。

学校教育学 ・大学で教えることではないと思うのですが、自転車利用者・歩行者のマナーが気になります。  
①学内の道いっぱい広がって通行しています。  
②車道に多くの自転車がとめてあります。  
③南門から出たところ(バイパス)にある歩道橋を使わず、下(自転車用)をほとんどの佐賀大学関係者が歩いています。

学校教育学 ・自転車のマナーが非常に悪いと思います。  
学内の者はもちろんですが、大学には、学外からお客様がこられることもあると思います。  
車がきてもよけない、考えの足りない駐輪の仕方など、周知してほしいと思います。

---

大学にとって多くの重要なコメントを含んでいると感じる。コメントの適否はあると思われるが、それを踏まえても全教職員は最低一度はすべてのコメントに目を通すべきである。

## 学生生活実態調査ワーキンググループ構成員名簿

区分	氏名	所属	職名
委員長	鈴木章弘	農学部	教授
構成員	岡島俊哉	教育学部	教授
構成員	有馬隆文	芸術地域デザイン学部	教授
構成員	井上亜紀	経済学部	准教授
構成員	田淵康子	医学部	教授
構成員	半田賢司	工学系研究科	教授
構成員	徳田 誠	農学部	准教授
構成員	郡山益実	全学教育機構	准教授
構成員	河野美奈	学務部	学生生活課長
構成員	田中信行	学務部	学生生活課副課長
構成員	市山 薫	医学部	学生課副課長

## あ と が き

現在の大学にとって学生生活の実態や学生の考えを把握することは極めて重要であり、ましてや大学憲章の中で「学生中心の大学づくり」を標榜している佐賀大学にとっては何をか言わんやである。そしてそのための学生生活実態調査が実に10年ぶりに本学において実施された。これだけ間が空いてしまうと、前回の調査項目では、内容やその必要性などが現実には則さない部分も出てきており、今回は質問事項を検討するところから開始した。そして「やるからには、これもあれも」という具合に質問事項が増えていき「答えるのが大変だった」というコメントを少なからずいただいてしまった。したがって、膨大な設問に答えてくれた学生諸氏にまずはお礼を申し上げたい。調査の実施については外部に委託することなくOffice365のFormsを用いてアンケートを作成しており、アンケート項目の入力の途中で予期しない問題なども見つかって、設問を2つのパートに分けざるを得なかった。この点はアンケートの全問解答への障壁になった可能性があり今後の課題としたい。また結果の集計に際しては、結果の最終出力の確固たるイメージを持たずに進めてしまったこともあり、多くの時間を費やすことになってしまった。これも反省点の1つである。

私自身が肝心の結果を初めて見た時は、なぜかドキドキするのを感じてしまった。選択肢から選ぶタイプの質問事項ではほとんどが想定内の結果として捉えられたが、自由記載の部分に関しては、想定外のオンパレードであったからである。普段学生はおとなしいと感じているが、これだけ多岐に渡った意見が大量に出てくるということは、現在のシステムでは不十分で、今以上に効率よく学生の意見を吸い上げられるシステムを構築する必要があるように思われる。何れにしてもこの結果には「学生の実態と学生の思い」が詰まっている。「学生中心の大学づくり」に是非とも生かさなければならない。

巻末で恐縮であるが、本調査を行うにあたり各学部から選出された学生生活実態調査ワーキンググループの先生方及び学生生活課の職員の皆様には多大なるご尽力をいただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

平成30年3月

平成29年度佐賀大学学生生活実態調査

ワーキンググループ委員長

鈴木 章弘